

平成 28 年度 事業報告書  
【業務実績報告】

平成 29 年 6 月

地 方 独 立 行 政 法 人  
神 戸 市 民 病 院 機 構

地方独立行政法人神戸市民病院機構 平成 28 年度事業報告書 目次

地方独立行政法人 神戸市民病院機構の概要……………1

**第 1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置**

**1 市民病院としての役割の発揮**  
 (1) 救急医療……………5  
 (2) 小児・周産期医療……………7  
 (3) 災害医療及び感染症医療その他の緊急時における医療……………9  
**2 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献**  
 (1) 高度医療及び専門医療の充実並びに医療需要に応じた医療の提供……………12  
 (2) 5 疾病（がん，脳卒中，急性心筋梗塞，糖尿病及び精神疾患）への対応……………15  
 (3) チーム医療の実践及び専門性の発揮……………20  
 (4) 臨床研究及び治験の推進……………24  
**3 安全で質の高い医療を提供する体制の維持**  
 (1) 医療の質を管理することの徹底（クリニカルパス及び臨床評価指標の充実等）……………27  
 (2) 医療安全対策及び医療関連感染（院内感染）対策の強化……………32  
 (3) 法令及び行動規範の遵守（コンプライアンス）の徹底……………39  
**4 市民及び患者とともに築くやさしい病院**  
 (1) 患者のニーズに応じたサービスの提供……………40  
 (2) 市民及び患者へ開かれた病院（市民への情報発信）……………45  
**5 地域医療連携の推進**  
 (1) 地域医療機関との更なる連携……………47  
 (2) 在宅医療への支援及び在宅医療との連携の強化……………51

**第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置**

**1 優れた専門職の確保と人材育成**  
 (1) 優れた専門職の確保……………53  
 (2) 職員の能力向上等への取組み……………56  
 (3) 人材育成等における地域貢献……………59  
**2 働きやすくやりがいの持てる環境づくり**  
 (1) 努力が評価され報われる人事給与制度等の導入……………61  
 (2) 働きやすい環境の整備……………62

**第 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置**

**1 安定的な経営基盤の維持**  
 (1) 安定的な経常収支及び資金収支の維持……………66  
 (2) 収入の確保……………69  
 (3) 費用の合理化及び業務の効率化……………74  
**2 質の高い経営ができる病院づくり**  
 (1) 質の高い経営体制の維持……………78  
 (2) 計画的な投資の実施……………80  
 (3) 環境にやさしい病院づくり……………82

**第 4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置**

**1 中央市民病院における P F I 事業の円滑な推進……………84**  
**2 市関連病院との連携……………85**  
**3 神戸医療産業都市における役割……………87**

**第 5 予算（人件費の見積りを含む。），収支計画及び資金計画……………89**

**第 6 短期借入金の限度額……………89**

**第 7 重要な財産を譲渡し又は担保に供する計画……………89**

**第 8 剰余金の使途……………89**

**第 9 地方独立行政法人神戸市民病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項**

**1 施設及び設備に関する計画……………90**  
**2 人事に関する計画……………90**

神戸市民病院機構の概要

地方独立行政法人 神戸市民病院機構事業報告書

「地方独立行政法人 神戸市民病院機構の概要」

1 現況

- ①法人名 地方独立行政法人神戸市民病院機構
- ②本部の所在地 神戸市中央区港島南町2丁目1番地の11 市民病院前ビル3階
- ③設立年月日 平成21年4月1日
- ④役員の状況 (平成29年3月31日現在)

役職		氏名	備考(理事の担当等)
理事長	常勤	菊池晴彦	
副理事長	常勤	橋本信夫	
理事	常勤	坂田隆造	中央市民病院長
理事	常勤	山本満雄	西市民病院長
理事	常勤	山平晃嗣	法人本部長
理事	非常勤	石原享介	中期計画推進担当兼西市民病院担当
理事	非常勤	山岡義生	京都大学名誉教授
理事	非常勤	新 尚一	神栄株式会社相談役, 神戸商工会議所副会頭
理事	非常勤	鈴木志津枝	神戸市看護大学長
理事	非常勤	中村 肇	公益財団法人阪神北広域救急医療財団理事長
監事	非常勤	藤原正廣	弁護士(京町法律事務所)
監事	非常勤	岡村 修	公認会計士・税理士(岡村修公認会計士税理士事務所)

※平成29年3月31日付で菊池晴彦理事長, 石原享介理事, 山岡義生理事, 新尚一理事, 中村肇理事が退任し, 平成29年4月1日付で橋本信夫副理事長が理事長に就任するとともに, 田中修理事, 湊長博理事, 守殿貞夫理事, 植村武雄理事が就任。

- ⑤設置・運営する病院の概要 右表のとおり
- ⑥職員数 2,115名(平成29年3月31日現在)

2 神戸市民病院機構の目標

神戸市立医療センター中央市民病院は市全域の基幹病院として, 神戸市立医療センター西市民病院は市街地西部の中核病院として, これまでも医療機能に応じて地域医療機関との連携を図り, 患者の立場に立って, 市民の生命と健康を守るという役割を果たしてきた。

今日, 病院を取り巻く環境が急激に厳しさを増す中において, 市民病院としての医療を市民・患者のニーズに応じて提供するためにも, 今まで以上に機動性, 柔軟性及び透明性を高め, より効率的な病院運営を行う必要がある。

このため, 市民病院の基本理念を継承し, 地域医療機関との連携及び役割分担のもとで, 引き続き, 救急医療や高度・先進医療等の政策的医療も含め質の高い医療を安全に市民に提供するという公的使命を果たすとともに, 地方独立行政法人制度の特徴を生かし, 最大限の努力による市民・患者へのサービスの向上と効率的な病院運営を行う。

(病院の概要) (平成29年3月31日現在)

項目	中央市民病院	西市民病院
主な役割及び機能	救命救急センター指定病院 総合周産期母子医療センター 第1・2種感染症指定医療機関 災害拠点病院 地域がん診療連携拠点病院 地域医療支援病院 臨床研修指定病院 病院機能評価認定施設 卒後臨床研修評価機構認定施設	2次救急対応 がん診療連携拠点病院に準じる病院 地域医療支援病院 高齢者医療の充実 在宅医療の支援 臨床研修指定病院 病院機能評価認定施設 神戸市災害対応病院 卒後臨床研修評価機構認定施設
所在地	神戸市中央区港島南町2丁目1番地の1	神戸市長田区一番町2丁目4番地
許可病床数	708床(うち感染症10床, 精神科身体合併症病棟8床)	358床
稼働病床数	708床(うち感染症10床, 精神科身体合併症病棟8床)	358床
診療科	循環器内科, 糖尿病・内分泌内科, 腎臓内科, 神経内科, 消化器内科, 呼吸器内科, 血液内科, 腫瘍内科, 緩和ケア内科, 感染症科, 精神・神経科, 小児科, 新生児科, 皮膚科, 外科, 移植外科, 乳腺外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科, 脳神経外科, 整形外科, 形成外科, 産婦人科, 泌尿器科, 眼科, 耳鼻咽喉科, 頭頸部外科, 麻酔科, 歯科, 歯科口腔外科, 臨床病理科, 放射線診断科, 放射線治療科, リハビリテーション科, 救急部, 総合内科	消化器内科, 呼吸器内科, リウマチ・膠原病内科, 血液内科, 循環器内科, 腎臓内科, 糖尿病・内分泌内科, 神経内科, 総合内科, 臨床腫瘍科, 精神・神経科, 小児科, 外科, 消化器外科, 呼吸器外科, 乳腺外科, 整形外科, 皮膚科, 泌尿器科, 産婦人科, 眼科, 耳鼻咽喉科, 歯科口腔外科, 臨床病理科, 放射線科, 麻酔科, リハビリテーション科

※中央市民病院の総合診療科は、平成28年7月から総合内科に名称変更

※両病院の臨床病理科は、平成29年4月から病理診断科に名称変更

## 全体的な状況

### 1 総括

平成 28 年度においても、引き続き、常任理事会、理事会を定期的に開催し、活発な議論を展開するとともに迅速な意思決定を図り、円滑な運営に努めた。

市民病院としての役割の発揮では、地域医療機関との役割分担・連携のもと、救急医療、小児・周産期医療、感染症医療、災害緊急時の医療を提供した。中央市民病院においては、5 月より第 2 救急病棟（8 床）を開設して救急病床の充実を図り、救命救急センターを活用してより迅速かつ的確な診療を進めた。西市民病院では、毎日 24 時間救急医療について着実に提供を継続した。また、専門性の高い医療の充実として、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の 4 疾病への対応及び 5 疾病として加わった精神疾患について、中央市民病院において 8 月より精神科身体合併症病棟（8 床）を開設するなど、身体合併症への対応を中心に取り組んだ。さらに、コンプライアンスの推進に取り組むとともに、医療の質及び安全性の確保として、医療安全対策、院内感染防止及び安全管理を徹底しながら、より一層チーム医療の推進に努め、質の高い医療を提供した。また、クリニカルパス、DPC の活用、電子化を推進し、医療の質の標準化を図るとともに、患者・市民に提供するサービスの向上としては、中央市民病院において増築により外来スペースを拡張するとともに、両病院において引き続き待ち時間対策等に取り組んだ。

人材確保・育成面としては、職員が活躍し、やりがいを持てるよう資格取得を促進するとともに、充実した研修制度を継続した。また、優れた専門職を確保するため、経験者採用及び育児短時間勤務制度等を継続するとともに、看護職員の確保にも積極的に取り組んだ。さらに、医師の人事・給与制度を再構築するため、平成 28 年 4 月より医師について人事評価制度を試行実施し、医師以外の職種については本格実施とした。

経営に対する取り組みとしては、診療体制の充実、DPC を活用した効率的な病床運用や連携の推進等に引き続き取り組んだ結果、診療単価の増加等に表れ、医業収益が増加となった。また、職員一丸となって経営改善策を実施することにより経費の縮減等に努めたものの、消費税負担の影響及び給与費の増、高度医療の提供等に伴う費用の増加により、経常収支比率及び単年度資金収支は、目標値を下回る結果となった。

中央市民病院の運用については、平成 23 年 7 月の移転・開院以降、PFI 業務に関するモニタリングを定期的に実施し、業務確認や改善によって円滑な運営を図った。また、西神戸医療センターの市民病院機構への円滑な移管に向け、常任理事会及び理事会において進捗状況を報告しながら準備を進め、3 月に事業譲渡契約を締結し、平成 29 年 4 月 1 日に移管を行った。さらに、平成 29 年度の先端医療センター病院の統合、神戸アイセンター病院の開設について方針を決定し、理事会で定款変更について決議する等準備を進めた。

### 2 各病院及び法人本部の取り組み状況

#### (1) 中央市民病院

全市の基幹病院・救命救急センターとして 24 時間体制の救急医療を継続するとともに、5 月より第 2 救急病棟（8 床）を開設して機能強化した救命救急センターを効率的に運用し、より迅速かつ的確な診断及び処置を進めたほか、診療当初からチームによる救急医療を展開し、円滑な運用を図った。また、総合周産期母子医療センターとして、質の高い安定的な小児・周産期医療を提供した。さらに、災害拠点病院及

び感染症指定医療機関として、熊本地震への災害時派遣医療チームの派遣を行ったほか、中東呼吸器症候群（MERS）やエボラ出血熱患者の受入れ体制を引き続き整備した。市全域の基幹病院として専門外来をはじめ、より高度で専門性を必要とする疾患に対応していくため、引き続き高度専門医療センターの運営に取り組み、手術支援ロボット「ダヴィンチ」や「TAVI（経カテーテル大動脈弁治療）」による治療を継続した。また、5 疾病への対応として、がんセンターにおいて高度ながん治療を提供するとともに、地域連携パスを活用し、地域医療機関との連携を図った。脳卒中治療や急性心筋梗塞治療、糖尿病治療についても充実した医療の提供を継続し、精神疾患については 8 月より精神科身体合併症病棟（8 床）を開設するなど、身体合併症の受入れに取り組んだ。医療の質及び安全性の確保としては、全病棟に薬剤師を配置するとともに、あらゆる部門や職種を超えたチーム医療を提供することによって、より専門性の高い医療の提供を図った。また、クリニカルパスや臨床評価指標等のデータを活用し、質の高い医療の提供に取り組んだ。さらに、職員の研究支援や教育のため、学術支援センターにおいて、質の高い研究ができるような支援を行った。市民・患者に提供するサービスの向上では、増築による外来スペースの拡張により、混雑緩和やプライバシーの向上に取り組んだ。また、がん市民フォーラムの開催、がんサロン及びがん相談室の常時開放を実施するとともに、社会保険労務士による相談会を新たに開催し、がん患者の支援体制を強化した。地域医療機関との連携においては、FAX 予約の利用を地域医療機関に働きかけるとともに、地域医療支援病院として、引き続き地域医療機関との積極的な紹介・逆紹介が行われるよう、顔の見える連携を図るため、「地域連携懇話会」の開催やオープンカンファレンス等を継続する等取り組みを進め、紹介・逆紹介を促進した。

人材育成の面では、新たに人材育成センターを設置するとともに、平成 28 年 8 月に増築した研修棟を活用し、様々な研修の立案・実施を行った。また、職員のモチベーションの維持及び向上につながる方策として、増築・改修により職員の執務環境充実に取り組んだ。

経営に対する取り組みとしては、院長ヒアリングを継続して開催し、各診療科・部門の特性についての把握や対応策の検討を行うとともに、DPC を踏まえた病床運用や連携の推進等についても協議した。さらに、業務経営改善委員会を毎月開催し、経営改善についての議論を継続した。平成 28 年度実績では、精神科身体合併症病棟の開設、地域医療機関との連携推進等による在院日数のさらなる短縮、高額手術件数の増や外来化学療法件数の増による診療単価の増等により、医業収益を確保した。また、経営改善策の実施により収益の改善や経費の縮減に努めたものの、高度医療の提供等に伴う費用の増加により、経常収支比率は目標値 100.0% に対して実績値 99.7% となり、目標値を下回る結果となった。単年度資金収支については、現中央市民病院整備にかかる借入金返済が大きく 9 億円の赤字となり、目標値を下回る結果となった。

PFI 業務については、モニタリングを定期的に実施し、業務確認や改善によって、円滑な運営を図るとともに、PFI 事業 5 年目の検証を開始した。また、神戸医療産業都市における役割として、他人の iPS 細胞移植に関する臨床研究を行うべく、大阪大学、京都大学 iPS 細胞研究所、理化学研究所との共同体制を発足し、平成 29 年 3 月に第 1 例目の移植手術を実施した。

#### (2) 西市民病院

市街地西部の中核病院として、平成 25 年 9 月から全面再開を果たした毎日 24 時間救急医療について着実に提供を継続した。小児・周産期医療については周産期センターを中心に安定した周産期医療の提供を継続するとともに、小児二次救急輪番を担い、地域の小児救急医療に貢献した。また、平成 27 年に「神戸市災害対応病院」の指定を受けたことに伴い、必要な医薬品や衛生資材等の備蓄を行うとともに、災害対策委員会で災害対応マニュアルの改訂等に取り組んだ。

専門性の高い医療の提供を充実するため、平成 28 年 1 月に新設した「乳腺外科」において、乳腺外科専門医による診療を継続するとともに、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を活用し、内視鏡手術の安全性の向上と患者の負担軽減を図った。がん治療に関しては、「がん診療連携拠点病院に準じる病院」として、外来化学療法センターの積極的な運用や「がん看護相談室」を活用した取り組みを行った。医療の質及び安全の確保としては、あらゆる部門や職種を超えたチーム医療を提供することにより、専門性を生かした医療の提供を図った。また、クリニカルパスや臨床評価指標等のデータを活用し、質の高い医療の提供に取り組んだ。市民・患者に提供するサービスの向上では、外来診察の待ち時間の短縮に努めるなどサービス向上に取り組んだ。地域医療機関との連携では、地域医療支援病院としての役割継続に向け、引き続きかかりつけ医相談窓口を設置したほか、患者や市民への啓発活動及び地域医療機関への診療科部長等の訪問を強化し、紹介患者の増加等に取り組んだ。

人材育成の面では、従前の研修室を 4 月より臨床研修センターと位置付け、初期研修医・専攻医への教育・研修の充実を図るとともに、薬剤師レジデント制度を引き続き活用し、人材育成を図った。また、職員のモチベーションの維持及び向上につながる方策として、増築・改修により職員の執務環境充実に取り組んだ。

経営に対する取り組みでは、院長ヒアリングを継続して開催し、各診療科・部門の特性についての把握や対応策の検討を行うとともに、診療科ごとの経営改善意識の向上を図った。また、業務経営改善委員会を開催し、増収及びコスト削減対策について検討するとともに、病院の質を向上させるための取り組みも積極的に議論した。平成 28 年度実績では、在宅医療を含め地域医療機関との連携強化を図るとともに、C 型肝炎治療薬等の使用に伴う投薬料の増等により診療単価が増加したものの、医師の異動等に伴い患者数が減少したため、経常収支比率は目標値 100.0%に対して実績値 96.5%、単年度資金収支は 3 億 2,000 万円の赤字となり、目標値を下回った。

### (3) 法人本部

人材確保・育成面としては、職員が活躍し、やりがいを持てるよう資格取得支援制度や研究休職制度等を継続するとともに、新規採用職員研修、採用後 3 年目の法人採用職員研修及び全職場におけるコンプライアンス研修の実施、医事課職員及びMSWの研修会を実施する等、研修制度の充実を図った。また、優れた専門職を確保するため、採用説明会への積極的な参加、経験者採用及び育児短時間勤務制度等を継続するとともに、平成 27 年 4 月より新設された神戸市看護大学キャリア支援室との連携強化等により、看護職員の確保にも積極的に取り組んだ。さらに、職員の努力と職責に応じた給与体系を構築するため、独立行政法人国立病院機構の給料表に準拠した法人給料表を利用し、職員の努力と職責に応じた運用を継続するとともに、医師の人事・給与制度を再構築するため、医師人事・給与制度再構築委員会において、制度構築に向けた検討を行い、4 月より医師について人事評価制度を試行実施し、医師以外の職種については

本格実施とした。

経営に対する取り組みとしては、定期的に開催した常任理事会（13 回）、四半期ごと等に開催した理事会（5 回）において月次決算、四半期決算報告等を行うことで、年度計画の予算、収支計画及び資金計画が着実に実行できるような進捗管理を実施するとともに、両病院及び法人本部において、年度計画の達成に向けて進捗状況を確認するため、四半期ごとにマネジメントシートを作成し、半年ごとに理事長ヒアリング及び各病院において院長ヒアリングを実施した。また、費用の合理化では、共通で購入している診療材料について値下げ交渉を行い、医薬品については、民間のベンチマークの活用等による価格交渉を実施し費用の削減につなげるとともに、適正な在庫管理を行った。

## 3 大項目ごとの概要

### 第 1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための取り組み

市民・患者に提供する医療の質の向上としては、地域医療機関との役割分担のもと、引き続き市民病院としての役割を果たすため、救急医療、小児・周産期医療、感染症医療、災害緊急時の医療を提供した。

中央市民病院では、第 2 救急病棟（8 床）を開設し、機能強化した救命救急センターを効率的に運用し、より迅速かつ的確な診断及び処置を進めた。西市民病院では、毎日 24 時間救急医療について着実に提供を継続した。

小児・周産期医療の取り組みでは、中央市民病院については、総合周産期母子医療センターとして、成育医療センター等を活用し、産科、新生児科、小児科が一体となって、医療・保健を一貫した体制で質の高い安定的な医療を提供した。また、西市民病院については、正常分娩を中心として、リスクの高い分娩にも可能な限り対応する等、両病院において地域の医療機関と連携して、安定的な小児・周産期医療を提供した。感染症医療については、両病院において、感染管理専従看護師を引き続き配置し、感染防止の積極的な取り組みを行うとともに、対応マニュアルを作成する等、新興感染症対策等について速やかな対応を行った。災害その他の緊急時における取り組みとしては、緊急事態に対処できるよう両病院において災害訓練等を継続するとともに、熊本地震への災害対応を行った。

専門性の高い医療の提供を充実するため、中央市民病院においては、引き続き高度専門医療センターの運営に取り組む、手術支援ロボット「ダヴィンチ」や「TAVI（経カテーテル大動脈弁治療）」による治療を継続した。また、5 疾病への対応として、がんセンターにおいて高度ながん治療と緩和医療を提供するとともに脳卒中治療や急性心筋梗塞治療、糖尿病治療についても充実した医療の提供を継続し、精神疾患については、精神科身体合併症病棟の開設など身体合併症の受入れに取り組んだ。西市民病院においては、平成 28 年 1 月に新設した「乳腺外科」において、乳腺外科専門医による診療を継続するとともに、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を活用し、内視鏡手術の安全性の向上と患者の負担軽減を図った。

医療の質及び安全性の確保としては、コンプライアンスの推進、医療安全対策、院内感染防止を徹底し、両病院で全病棟に薬剤師を配置し、チーム医療の一層の推進と質の高い医療を提供した。また、クリニカルパス、DPC等を活用し、医療の質の標準化を図った。

市民・患者に提供するサービスの向上としては、患者満足度調査や意見箱によるニーズ把握のもと、中央市民病院では、増築による外来スペースの拡張により、混雑緩和やプライバシーの向上に取り組んだほか、がん市民フォーラム、がんサロン及びがん相談室の常時開放を実施するとともに、社会保険労務士に

よる相談会を新たに開催した。西市民病院においては、外来診察の待ち時間の短縮に努めるなど、外来案内機能の充実に取り組んだ。

地域医療機関との連携としては、中央市民病院については、地域医療支援病院として、引き続き、地域医療機関との間の積極的な紹介、逆紹介に努めるとともに、「地域連携懇話会」の開催やオープンカンファレンス等を継続した。西市民病院については、地域医療支援病院としての役割継続に向け、引き続きかかりつけ医相談窓口を設置したほか、患者や市民への啓発活動及び地域医療機関への診療科部長等の訪問を強化し、紹介患者の増加等に取り組んだ。

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取り組み

人材確保・育成面としては、職員が活躍し、やりがいを持てるよう資格取得支援制度や研究休職制度等を継続するとともに、新規採用職員研修、採用後3年目の法人採用職員研修及び全職場におけるコンプライアンス研修の実施、医事課職員及びMSWの研修会を実施する等、研修制度の充実を図った。優れた専門職を確保するため、採用説明会への積極的な参加、経験者採用及び育児短時間勤務制度等を継続するとともに、平成27年4月より新設された神戸市看護大学キャリア支援室との連携強化等により、看護職員の確保にも積極的に取り組んだ。また、職員の努力と職責に応じた給与体系を構築するため、独立行政法人国立病院機構の給料表に準拠した法人給料表を利用し、職員の努力と職責に応じた運用を継続した。さらに、医師の人事・給与制度を再構築するため、医師人事・給与制度再構築委員会において、制度構築に向けた検討を行い、4月より医師について人事評価制度を試行実施し、医師以外の職種については本格実施した。

## 第3 財務内容の改善に関する目標を達成するための取り組み

経営に対する取り組みとしては、常任理事会を毎月開催、四半期ごと等に理事会を開催し、月次決算報告内容の改善を図りながら、さらなる活発な議論を展開するとともに迅速な意思決定を図った。また、年度計画の達成に向け、院長による全部門ヒアリングを引き続き実施し、組織目標や課題認識の共有、課題解決への取り組みを通して、PDCAサイクルの確立や全職員の経営意識の向上を図った。

具体的な両病院の状況では、中央市民病院においては、精神科身体合併症病棟の開設、地域医療連携のさらなる推進に努めたこと等によって平均在院日数が平成27年度を下回る10.4日に短縮されたこと、高額手術件数が増加したこと等により、入院収益が上昇した。また、外来についても外来化学療法件数の増による診療単価の増等により増収となった。西市民病院においては、在宅医療への支援を含め地域医療機関との連携強化を図るとともに、C型肝炎治療薬等高額医薬品の使用に伴う投薬料の増等によって医業収益を確保した。費用の合理化の面では、民間のベンチマークの活用等による価格交渉を実施し費用の削減につなげた。さらに、適正な在庫管理を引き続き行った。

平成28年度決算では、消費税負担の増等、病院を取り巻く環境が厳しさを増す中、上記のような取り組みを継続するほか、職員一丸となって経営改善策を実施することにより収益の改善や経費の縮減等に努めたものの、高度医療の提供等による費用の増加、医師の異動等による患者数の減少により、経常収支比率は中央市民病院について目標値100.0%に対して99.7%、西市民病院においては、目標値100.0%に対して96.5%となり、目標値を下回る結果となった。なお、市からの運営費負担金について交付を受け、これ

まで同様に政策的医療を行い、市民病院としての役割を果たした。単年度資金収支については、現中央市民病院整備にかかる借入金返済が大きく、中央市民病院で9億円の赤字、西市民病院で3億2,000万円の赤字となった。

### 目標値

	項目	平成28年度 目標値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	目標差
中央 市民 病院	単年度資金収支 (百万円)	▲848	▲1,436	▲900	▲52
	経常収支比率(%)	100.0	99.7	99.7	▲0.3
西 市民 病院	単年度資金収支 (百万円)	30	▲383	▲320	▲350
	経常収支比率(%)	100.0	98.1	96.5	▲3.5

## 第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するための取り組み

PFI業務に関するモニタリングを定期的実施し、業務確認や改善によって、円滑な運営を図った。また、PFI導入6年目を迎え、導入後5年間の検証を行うため、検討項目の準備を進めるなど、検証を開始した。

### 【モニタリングの方法】

- ・個別業務連絡会（毎週1回）
- ・PFI業務連絡会（毎月2回）
- ・モニタリング会議（毎月1回）
- ・PPP会議（毎月1回）

市関連病院（西神戸医療センター、神戸リハビリテーション病院、先端医療センター）とは医療機能に応じて積極的に患者の紹介・逆紹介を行うとともに、各部門での連携会議や研修を実施した。

西神戸医療センターの市民病院機構への円滑な移管に向け、課題を整理し、常任理事会及び理事会において進捗状況を報告しながら準備を進めたのち、3月に事業譲渡契約を締結し、平成29年4月1日に移管した。また、平成29年度の先端医療センター病院の統合、神戸アイセンター病院の開設について方針を決定し、理事会で定款変更について決議する等準備を進めた。

神戸医療産業都市における役割として、中央市民病院は、他人のiPS細胞移植に関する臨床研究を行うべく、大阪大学、京都大学iPS細胞研究所、理化学研究所との共同体制を発足し、平成29年3月に第1例目の移植手術を実施した。また、近隣の神戸低侵襲がん医療センター、西記念ポートアイランドリハビリテーション病院、一般財団法人神戸マリナーズ厚生会ポートアイランド病院、平成28年5月に移転した県立こども病院との連携会議を開催し、役割分担を明確にしたうえで連携を図った。

項目別の状況

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市民病院としての役割の発揮

(1) 救急医療

中期目標

本市の救急医療システムの下、初期救急医療から3次救急医療まで、市民病院の役割に応じて「断らない救急」に努めること。中央市民病院は、救命救急センターとして、重症患者及び重篤患者への対応を常時確保すること。西市民病院は、年間を通じて24時間体制で救急医療の提供に努めること。

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・地域医療機関と密接に連携しながら、引き続き安定した救急医療体制を提供し、「断らない救急」を実践する。（中央市民病院）</p> <p>・救命救急センターとして、地域医療機関との役割分担を明確にした上で密接に連携し、より重症及び重篤な患者に対して年間を通じて24時間救急医療を提供し、市民の生命と健康を守る。</p>	<p>・地域医療機関と密接に連携しながら、引き続き安定した救急医療体制を提供し、「断らない救急」を実践する。</p> <p><b>【中央市民病院】</b></p> <p>・地域医療機関との適切な役割分担の下、救命救急センターとして24時間365日、あらゆる救急需要に対応することにより、引き続き市民病院としての役割を果たしていく。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○救命救急センターを効率的に運用し、より迅速かつ確かな診断及び処置を進めるほか、診療当初からチームによる救急医療を展開するとともに、病床の一元的管理を徹底し、病院全体で救急患者の受け入れ体制の充実を図る</p> <p>○脳卒中、胸痛、産科、小児科ホットラインの運用で、救急患者のスムーズな搬送及び受け入れ体制を強化する</p> <p>○他院からの転送依頼について、受け入れ</p>	<p>・市民の安心・安全を守るため、地域医療機関と密接に連携しながら、両病院においてそれぞれの役割に応じて「断らない救急」の実践に取り組んだ。</p> <p><b>【中央市民病院】</b></p> <p>・救命救急センターとして24時間365日体制の救急医療を提供し、救急外来患者数34,415人（前年度比976人増、2.9%増）、うち入院患者数7,463人（前年度比663人増、9.8%増）、救急車搬送受入数9,659人（前年度比1,007人増、11.6%増）の受入れを行い、市内救急車搬送の応需率は98.6%であった。また、救命率向上の一層の強化を図るため、ドクターカーを157回（前年度比43回減、21.5%減）出動し、ヘリコプターによる救急搬送患者について57件（前年度比11件増、23.9%増）受入れた。</p> <p>・厚生労働省が発表した「平成28年度全国救命救急センター評価」（平成27年度実績）で全国279か所の救命救急センターのうち、総合評価で3年連続全国1位となった。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○救急救命士の資格を持ったクラーク（9名）や専門看護師（急性・重症患者看護）（2名）の配置、総合内科と救急科との連携により、救急医療も含め個々の患者に最も適した医療を提供する体制を継続した。</p> <p>○ECMO（体外式膜型人工肺による治療）プロジェクトに引き続き参加し、勉強会（週1回）や外部講師を招いたECMOオープンカンファレンス（年2回）を開催したほか、重症患者搬送のシミュレーションを行い受け入れ体制を継続した。</p> <p>○救急患者の円滑な搬送及び受け入れを行うため、脳卒中、胸痛、産科及び小児科のホットラインを継続するとともに、他病院からの搬送依頼のうち3次救急相当の患者については、直接救急科の医師が対応し、救急患者の受け入れ体制の充実を図った。</p> <p>○毎月の救急委員会において、救急車搬送の応需件数と理由について検</p>	2	4		<p><b>【評価のポイント・評価委員意見】</b></p> <p>・中央市民病院の救急医療について、年間1万件近くの救急車を受け入れてなお、高い応需率を維持していることは、評価に値する。</p> <p>・働き方改革で医師の労働時間が制限されて一番大きな影響を受けるのは救急。各病院がそれぞれ救急を受けるかたちからシステムを変更する必要が出てくるのではないか。</p> <p>・西市民病院の救急患者数が減少していることについて、原因が外部環境の問題なのか、それとも院内の体制の問題なのかをきっちりと分析することが重要である。</p>

(西市民病院)

- ・年間を通じて24時間体制で救急医療を提供し、地域住民の安心及び安全を守る。

られなかった患者の検証を行い「断らない救急」に努める

- 救急病棟だけでなく、院内全体の病床運営を効率的に行うために、第二救急病棟を設置する

**【西市民病院】**

- ・平成25年度に全面再開した内科系・外科系での24時間救急医療体制を年間通じて着実に継続し、市民病院としての役割を果たす。

**具体的な取り組み**

- 受け入れられなかった救急車搬送患者について、その理由を把握し、毎月の救急委員会で分析を行うとともに、病院全体で救急患者の受け入れ体制の充実を図る

関連指標（単位：人，平成24年度実績）

項目	中央市民病院	西市民病院
救急	31,880	15,314
外来		
患者数	うち入院 6,318 うち救急車受入 7,953	うち入院 2,573 うち救急車受入 2,759

証し、病院幹部会で報告するとともに、他病院からの要請に対して不応需のケースについては、妥当な判断であるか院内で検討のうえ、内容によっては各診療科部長に指導を行った。

- 救急病床の充実と院内全体の病床運営を効率的に行うために、5月1日から第2救急病棟（8床）を開設し、8月1日から精神科身体合併症（MPU）病棟（8床）の運用を開始した。

**【西市民病院】**

- ・24時間救急医療について、着実に提供を継続し、救急外来患者数14,235人（前年度比415人減2.8%減）、うち入院患者数3,060人（前年度比39人増、1.3%増）、救急車搬送受入数2,976人（前年度比177人減、5.6%減）の受入れを行った。また、全科対応ではない中で、市内救急車搬送の応需率は60.3%（前年度比8%減）であった。
- ・外科系診療科を受診した内科救急患者に関しては、外科系医師がトリアージ・初期対応を行った上で内科の専門診療科へ紹介するように促し、救急患者受入れの円滑化を図った。また、救急患者トリアージ実施基準を活用し、専任の担当者による救急受診者のトリアージを継続した。さらに、初期研修医のための外科系救急患者の対応指針を活用し、外科系救急患者の初療研修を行い、初療対応の充実を図った。

**具体的な取り組み**

- 救急車搬送患者受入不能理由について、毎月の救急委員会において状況の分析と改善策の検討を行い、救急応需率については、各診療科部長が出席する業務経営会議でも報告し、「断らない救急」の方針徹底を図り、病院経営における救急診療の重要性について改めて周知した。また、時間内救急体制の受入れについて運用を見直すとともに、中央市民病院救急部の救急専門医による時間内救急対応や、ICU管理への応援体制を試行的に実施したほか、救急医の公募を開始する等、時間内救急体制の改善を図った。

関連指標

（単位：人）

	項目	平成27年度 実績	平成28年度 実績	前年度比 (%)
中央市民病院	救急外来患者数	33,439	34,415	102.9
	うち入院	6,800	7,463	109.8
	うち救急車受入	8,652	9,659	111.6
西市民病院	救急外来患者数	14,650	14,235	97.2
	うち入院	3,021	3,060	101.3
	うち救急車受入	3,153	2,976	94.4



**第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置**

**1 市民病院としての役割の発揮**

**(2) 小児・周産期医療**

<b>中期目標</b>	地域医療機関との連携及び役割分担に基づき小児・周産期医療を担うとともに、安心して子供を産み、かつ、育てられるよう医療の提供を確保する
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウエイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療機関との連携及び役割分担を図り、市域における小児・周産期医療を安定的に提供する。また、市民が安心して子供を産み、かつ、育てられるように、質の高い医療を提供する。 (中央市民病院)</li> <li>・総合周産期母子医療センターとして、県立こども病院との連携及び役割分担の下、ハイリスクな出産への対応をはじめ、小児・周産期医療を安定的に提供する。</li> <li>・小児・周産期医療に加え、産科、新生児科、小児科が一貫した医療を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が安心して子供を産み、かつ、育てられるように、質の高い小児・周産期医療を安定的に提供する。</li> <li>【中央市民病院】</li> <li>・総合周産期母子医療センターとして、医師確保及び養成に努め、ハイリスクな出産にも対応できる受け入れ体制の確立を図る。</li> <li>・成育医療センターにおいて、小児・周産期医療に加え、産科、新生児科、小児科が一体となり、次世代を担う子ども達が健やかな成長発達を遂げるように支援する。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○総合周産期母子医療センターとして、合併症妊娠、重症妊娠中毒症、切迫早産、胎児異常等母体又は児におけるリスクの高い妊娠への対応を積極的に行う。また、低出生体重児や病気をもった新生児についても、最新の医療技術を用いて診断し、救命に努めていく</li> <li>○連携登録医など地域医療機関と、定期的な情報交換と患者情報の共有を図るとともに、母体搬送・産褥への受け入れ、小児科受診への円滑な対応に努める</li> </ul> <li>【西市民病院】</li> <li>・市街地西部の中核病院の周産期施設としての役割を果たすため、正常分娩</li>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフの医療技術の向上に取り組むとともに、市内の医療機関等との連携を図ることによって、安定的な小児・周産期医療の提供を行った。</li> <li>【中央市民病院】</li> <li>・総合周産期母子医療センターは、産科（MFIUCU6床、病児扱いをしない健康新生児を含む）32床と、NICU9床、GCU12床で構成、運営し、小児・周産期医療の安定的な提供を行うため、週1回の院内カンファレンスにおいて症例検討を行い、医療技術の向上に努めるとともに、夜間や休日は必ず小児科医が当直待機し、救急患者の対応処置にあたる体制を継続した。</li> <li>・成育医療センターは、周産期外来、周産期医療センター（産科、新生児科）、小児外来、小児センターの機能を持ち、産科・新生児科・小児科が一体となり、医療・保健を一貫した体制で支援を行った。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○母体に病気がある場合は、各診療科と協力して対応するとともに、胎児に異常がある場合は、胎児超音波検査、胎児血流波形分析、胎児治療等、最新の医療技術を用いて救命に努め、ハイリスク出産への対応を行った。</li> <li>○連携登録施設（平成29年3月現在：産科・産婦人科で34施設、小児科で122施設）について、患者情報の共有化等を図るとともに、患者紹介や緊急搬送の受け入れ、逆紹介等を積極的に行った。</li> </ul> <li>【西市民病院】</li> <li>・周産期センターを中心として、引き続き、周産期医療を安定的に提供するとともに、平成26年度に導入した周産期システムを活用し、予防医学</li>	2	3		

娩を中心に安定した周産期医療を提供するとともに、小児救急においては神戸こども初期急病センターの受け皿となる等、小児医療を安定的に提供する。

に安定した周産期医療を提供するとともに、若年層等リスクの高い分娩に対しても、可能な限り対応する。  
 ・引き続き、小児救急輪番に参加し、神戸こども初期急病センターの受け皿となる等、小児医療の安定的な提供に努める。

**具体的な取り組み**

- 助産師の確保に努め、助産師外来を継続するとともに、新たに院内助産の実施に向けて検討を進め、質の高い周産期医療を提供する
- 小児救急輪番数や小児循環器外来の充実を図るなど、小児医療の安定的な提供に努める

的観点に立ち、妊娠経過、分娩時の異常（リスク因子）を適切に把握し、新生児に起こりうる異常を予測しながら妊娠、分娩、新生児の管理を行う等、ハイリスク分娩への対応を行った。

- ・小児二次救急輪番について、平成 27 年度 11 月より月 6～8 回に増加した二次救急輪番の担当回数を継続し、地域の小児救急医療に貢献した。また、学校や施設の職員を対象に、食物アレルギーとアナフィラキシーに関する講習会を実施する等、地域の小児医療に貢献した。

**具体的な取り組み**

- 助産師外来について、平成 28 年度も継続して週 2 日（火・木）実施し、産婦人科部長がカンファレンス等で周知を図り、平成 28 年度実績で 531 人（前年度比 68 人減、11.4%減）の利用があった。
- 育児外来、アレルギー外来、頭痛外来、県立こども病院の医師による小児循環器の専門外来（月 2 回）を継続した。

関連指標

	項目	平成 27 年度 実績	平成 28 年度 実績	前年度比 (%)
中央 市民 病院	小児科患者数 入院延 (人)	12,257	11,292	92.1
	外来延 (人)	15,232	13,735	90.2
	小児科救急患者数 (人)	3,488	2,161	62.0
	うち入院 (人)	853	763	89.4
	N I C U 患者数 (人)	3,064	2,799	91.4
	分娩件数 (件)	789	797	101.0
	うち帝王切開 (件)	277	310	111.9
	ハイリスク妊娠件数 (件)	80	105	131.3
	ハイリスク分娩件数 (件)	140	140	100.0
	助産師外来患者数 (人)	338	227	67.2
西 市民 病院	小児科患者数 入院延 (人)	3,992	3,595	90.1
	外来延 (人)	9,693	8,890	91.7
	小児科救急患者数 (人)	445	432	97.1
	うち入院 (人)	215	189	87.9
	N I C U 患者数 (人)	-	-	-
	分娩件数 (件)	552	479	86.8
	うち帝王切開 (件)	128	111	86.7
	ハイリスク妊娠件数 (件)	35	32	91.4
	ハイリスク分娩件数 (件)	36	48	133.3
	助産師外来患者数 (人)	599	531	88.6

関連指標 (平成 24 年度実績)

項目	中央市民病院	西市民病院
小児科患者数(人)	入院延 11,663 外来延 13,530	入院延 3,838 外来延 11,124
小児科救急患者数(人)	2,655 うち入院 574	414 うち入院 132
N I C U 患者数(人)	3,269	N I C U 未設置
分娩件数(人)	827 うち帝王切開 318	539 うち帝王切開 118
ハイリスク妊娠件数(件)	116	46
ハイリスク分娩件数(件)	171	87
助産師外来患者数(人)	251	657

関連指標 (平成 26 年度実績)

項目	中央市民病院	西市民病院
小児科患者数(人)	入院延 10,801 外来延 14,504	入院延 4,266 外来延 10,318
小児科救急患者数(人)	2,907 うち入院 762	453 うち入院 242
N I C U 患者数(人)	2,667	N I C U 未設置
分娩件数(人)	792 うち帝王切開 314	616 うち帝王切開 146
ハイリスク妊娠件数(件)	91	26
ハイリスク分娩件数(件)	132	62
助産師外来患者数(人)	299	621

**第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置**

**1 市民病院としての役割の発揮**

**(3) 災害医療及び感染症医療その他の緊急時における医療**

<b>中期目標</b>	<p>阪神・淡路大震災及び新型インフルエンザの経験や東日本大震災で得た教訓を生かし、災害時における病院機能を維持し、及び緊急時に対応し得る医療のリーダーとして迅速かつ適切な初動対応に備えるための体制づくりや訓練を行うこと。</p> <p>また、災害時や新興感染症発生時などの緊急時には、神戸市地域防災計画、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）等に基づき、市長の求めに応じて対応するとともに、自らの判断でも医療救護活動を行うこと。</p> <p>特に中央市民病院は、感染症指定医療機関等としての役割を果たすこと。</p>
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・大規模災害や新興感染症発生時等には、災害拠点病院及び感染症指定医療機関である中央市民病院を中心に、市、県及び地域医療機関と連携を図りながら市民の安全確保に率先して取り組む。また、非常時にも継続して医療を提供できるように平時から対応マニュアルの整備や訓練及び研修会への参加等に積極的に取り組み、危機対応能力を高め、自ら考え行動できる職員を育成する。</p> <p><b>（中央市民病院）</b></p> <p>・阪神・淡路大震災及び東日本大震災等の経験を生かし、大規模地震をはじめとした様々な災害に万全の対応を図る。また、新興感染症発生時には、新型インフルエンザ患者の受け入れ経験を生かし、市、県及び地域医療機関と連携を図りながら速やかに患者を受け入れられる体制を整備する。</p>	<p>・大規模災害や新興感染症発生時等には、災害拠点病院及び感染症指定医療機関である中央市民病院を中心に、市、県及び地域医療機関と連携を図りながら市民の安全確保に率先して取り組む。</p> <p><b>【中央市民病院】</b></p> <p>・阪神・淡路大震災及び東日本大震災等の経験を生かし、大規模地震をはじめとした様々な災害に万全の対応を図る。また、新興感染症発生時には、新型インフルエンザ患者の受け入れ経験を生かし、市、県及び地域医療機関と連携を図りながら速やかに患者を受け入れられる体制を整備する。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○大規模災害、新興感染症発生時に救命救急センターとしての役割を果たせるよう、受け入れ体制を万全にする</p> <p>○危機管理体制について、平成27年度の院内合同防災訓練の結果等もふまえ、「災害拠点病院」としての危機管理の在り方について、引き続き危機管理体制整備会議等で議論を行い、</p>	<p>・大規模災害や新興感染症発生時には、災害拠点病院及び感染症指定医療機関である中央市民病院を中心に、市・県及び地域医療機関とも連携を図れる体制を継続した。</p> <p><b>【中央市民病院】</b></p> <p>・災害拠点病院として、災害その他の緊急時に、役割に応じた機能が発揮できるよう災害訓練等を実施するとともに、新興感染症発生の際には、いつでも市・県及び地域の医療機関とも連携を図れる体制を継続した。</p> <p>・4月に起きた熊本地震においては、災害時派遣医療チーム（DMAT）隊員4名（医師1名、看護師2名、事務1名）を派遣し、被災病院から患者の域外搬送、避難所のサーベイランス、巡回診療等の支援を行った。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○特に、院内の災害発生時の初動体制の構築に取り組み、災害対策本部の組織体制や運営方法と、各部署の動きとを連動させ、指示命令を円滑に行えるよう情報収集機能を強化し、混乱を最小限に止める体制作りを行った。</p> <p>○院内全体による院内合同防災訓練及び院内防災避難訓練を継続して実施し、職員の意識を高めるとともに、「災害拠点病院」としての危機管理の在り方について、引き続き危機管理体制整備会議等で議論を行い、体制整備を行った。また、12月に実施した訓練では、災害対策本部に伝達すべき情報の選別を行う対策本部支援室を新たに設置し、情報収集機能や整理機</p>	2	4		

<p><b>（西市民病院）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模災害や新興感染症発生時等には、中央市民病院や市、県及び地域医療機関と連携を行い、円滑な対応を図ることで、市民の安全を確保する。</li> <li>・新興感染症発生時には、感染症医療の専門医師及び感染対策チームメンバーを中心として、課題へ対応する。</li> </ul>	<p>体制整備を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新興感染症発生時に対応できるよう、行政機関が行う訓練に参加する等関係機関と連携した対応を円滑に行うほか、市全域における安全確保に向けて率先した対応を行う</li> <li>○エボラ出血熱をはじめとした一類感染症、鳥インフルエンザ、結核等に対応する感染症指定医療機関としての役割を果たすため、感染管理室が中心となって、職員の安全面を確保のうえ取り組む</li> </ul> <p><b>【西市民病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模災害や新興感染症発生時等には、中央市民病院や市、県及び地域医療機関と連携を行い、円滑な対応を図ることで、市民の安全を確保する。</li> <li>・新興感染症発生時には、中央市民病院の患者の転院を受け入れる等連携を図るとともに、感染対策チームメンバーを中心として、医療課題への対応に取り組む。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○災害時等に備え、危機対応能力を高め、自ら考え行動できるよう防災訓練等を行うとともに、災害対応マニュアルの改訂など災害対策の改善に向けて病院全体で組織的な取り組みを進める</li> </ul>	<p>能の強化を図り、災害発生時の初動体制の構築に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○神戸市インフルエンザ等対策病院連絡協議会に毎回出席し、市内の主な病院、関係機関と平時から有事に備えた（28年度開催3回）。</li> <li>○3月に神戸市保健所主催で、エボラ出血熱患者のご遺体処理訓練を実施した。神戸市内の斎園9業者、感染管理室、9階西病棟看護師が参加し、斎園業者に処置や棺の消毒方法を見てもらい、不安軽減を図った。</li> <li>○2月に救急部と感染管理室が合同で、MER S受け入れ訓練を実施し、その結果を踏まえ、防護具着脱用鏡の設置や、患者通路の扉開閉スイッチを手の届きやすい場所へ変更する等、改善を図った。</li> <li>○新興感染症等に対応するため、空気感染対策として、関連部署のスタッフ及び新規採用者に対し、N95マスク（微粒子用マスク）のフィットテストを実施した（5月8日間で約400名に実施）。</li> </ul> <p><b>【西市民病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模災害や新興感染症拡大の際には、中央市民病院を中心として、県・市とも連携を図れる体制を継続した。</li> <li>・4月に起きた熊本地震において、看護師1名、薬剤師1名を派遣し、被災地における健康相談・診療介助、服薬相談等の支援を行った。</li> <li>・感染管理認定看護師の専従配置を継続するとともに、感染管理室を中心に、感染防止の積極的な取り組みや、新興感染症対策を行った。また、職員、パート、委託業者を対象としたインフルエンザワクチン接種を継続し、罹患及び媒介となるリスクの低減を図った。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○神戸市地域災害救急医療マニュアルにおける、災害発生時に患者の受け入れや、避難救護所等への備蓄医薬品等の提供を行う「神戸市災害対応病院」に平成27年1月に指定され、必要な医薬品や衛生資材等の備蓄を行うとともに、災害対策委員会で災害対応マニュアルの改訂等の検討を進め、平成28年度には部署ごとに初動対応のダイジェスト版を作成した。また、長田区在宅推進協議会・災害対策部会に参加し、災害時の地域連携について検討し、平成28年2月には、長田区在宅推進協議会・災害対策部会主催の「災害フォーラム」において災害対応病院としての取組みを紹介した。さらに、「神戸市地域災害救急医療マニュアル訓練」に参加し、関係団体との連携強化を図るとともに、今後の対応について検討した。</li> <li>○職員が災害その他の緊急時に速やかに対応するため、少人数傷病者同時来院時対応訓練（8月）、平日時間内震災対応訓練（11月、2月）を実施する</li> </ul>				
---	--	--	--	--	--	--

<p>関連指標（単位：人，平成 24 年度実績）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>中央市民病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感染症患者数（一類）</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>感染症患者数（二類）</td> <td>109</td> </tr> </tbody> </table> <p>関連指標（平成 24 年度実績）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>中央市民病院</th> <th>西市民病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>災害訓練回</td> <td>47</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>災害訓練参加者数(人)</td> <td>1,101</td> <td>400</td> </tr> <tr> <td>災害研修回数(回)</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>被災地等への派遣件数(件)</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	項目	中央市民病院	感染症患者数（一類）	0	感染症患者数（二類）	109	項目	中央市民病院	西市民病院	災害訓練回	47	13	災害訓練参加者数(人)	1,101	400	災害研修回数(回)	2	3	被災地等への派遣件数(件)	0	0	<p>関連指標（単位：人，平成 26 年度実績）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>中央市民病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感染症患者数（一類）</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>感染症患者数（二類）</td> <td>120</td> </tr> </tbody> </table> <p>関連指標（平成 26 年度実績）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>中央市民病院</th> <th>西市民病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>災害訓練回</td> <td>35</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>災害訓練参加者数(人)</td> <td>989</td> <td>442</td> </tr> <tr> <td>災害研修回数(回)</td> <td>9</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>被災地等への派遣件数(件)</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	項目	中央市民病院	感染症患者数（一類）	0	感染症患者数（二類）	120	項目	中央市民病院	西市民病院	災害訓練回	35	20	災害訓練参加者数(人)	989	442	災害研修回数(回)	9	3	被災地等への派遣件数(件)	0	0	<p>とともに、兵庫県災害医療従事者研修会（8 月）への参加，および外部講師を招いた災害対応研修会の開催（年 3 回）により，職員の参画意識を高めた。さらに，医師・看護師・救急隊員等を対象とした心肺蘇生法トレーニング（ICLS コース 4 回実施，BLS コース 3 回実施）についても継続的に開催した。</p> <p>○災害時に多数の傷病者が来院した場合を想定した多数傷病者来院時対応訓練を 3 月に実施し，外来のゾーニングや患者のトリアージ等について検討するとともに，指揮命令系統や情報連絡体制の確立を図った。</p> <p>関連指標（中央市民病院）（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成 27 年度実績</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>前年度比 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感染症患者数（一類）</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>感染症患者数（二類）</td> <td>34</td> <td>20</td> <td>58.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>関連指標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>平成 27 年度実績</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>前年度比 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">中央市民病院</td> <td>災害訓練回数（回）</td> <td>30</td> <td>27</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>災害訓練参加者数（人）</td> <td>1,321</td> <td>1,256</td> <td>95.1</td> </tr> <tr> <td>災害研修回数（回）</td> <td>12</td> <td>6</td> <td>50.0</td> </tr> <tr> <td>被災地等への派遣件数（件）</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">西市民病院</td> <td>災害訓練回数（回）</td> <td>22</td> <td>40</td> <td>181.8</td> </tr> <tr> <td>災害訓練参加者数（人）</td> <td>509</td> <td>530</td> <td>104.1</td> </tr> <tr> <td>災害研修回数（回）</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>被災地等への派遣件数（件）</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	前年度比 (%)	感染症患者数（一類）	0	0	-	感染症患者数（二類）	34	20	58.8		項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	前年度比 (%)	中央市民病院	災害訓練回数（回）	30	27	90.0	災害訓練参加者数（人）	1,321	1,256	95.1	災害研修回数（回）	12	6	50.0	被災地等への派遣件数（件）	0	1	-	西市民病院	災害訓練回数（回）	22	40	181.8	災害訓練参加者数（人）	509	530	104.1	災害研修回数（回）	3	3	100.0	被災地等への派遣件数（件）	0	2	-				
項目	中央市民病院																																																																																																		
感染症患者数（一類）	0																																																																																																		
感染症患者数（二類）	109																																																																																																		
項目	中央市民病院	西市民病院																																																																																																	
災害訓練回	47	13																																																																																																	
災害訓練参加者数(人)	1,101	400																																																																																																	
災害研修回数(回)	2	3																																																																																																	
被災地等への派遣件数(件)	0	0																																																																																																	
項目	中央市民病院																																																																																																		
感染症患者数（一類）	0																																																																																																		
感染症患者数（二類）	120																																																																																																		
項目	中央市民病院	西市民病院																																																																																																	
災害訓練回	35	20																																																																																																	
災害訓練参加者数(人)	989	442																																																																																																	
災害研修回数(回)	9	3																																																																																																	
被災地等への派遣件数(件)	0	0																																																																																																	
項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	前年度比 (%)																																																																																																
感染症患者数（一類）	0	0	-																																																																																																
感染症患者数（二類）	34	20	58.8																																																																																																
	項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	前年度比 (%)																																																																																															
中央市民病院	災害訓練回数（回）	30	27	90.0																																																																																															
	災害訓練参加者数（人）	1,321	1,256	95.1																																																																																															
	災害研修回数（回）	12	6	50.0																																																																																															
	被災地等への派遣件数（件）	0	1	-																																																																																															
西市民病院	災害訓練回数（回）	22	40	181.8																																																																																															
	災害訓練参加者数（人）	509	530	104.1																																																																																															
	災害研修回数（回）	3	3	100.0																																																																																															
	被災地等への派遣件数（件）	0	2	-																																																																																															

**第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置**

**2 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献**

**(1) 高度医療及び専門医療の充実並びに医療需要に応じた医療の提供**

<b>中期目標</b>	市民病院が有する医療機能に応じて、より高度な医療及び質の高い総合診療を含む専門的な医療を提供すること。他方、高齢化等に伴い複数の疾患を持つ患者に対して横断的に対応するため、診療科の枠を超えた総合的な診療を行うこと。なお、市民病院としての役割を果たした上で、疾病構造の変化、新たな医療課題、患者の動向などの社会の変化及び市民の多様な要望に柔軟に対応し、診療部門の見直しを行い、及び充実を図るなど、市内の医療需要に応じた医療の提供を行うこと。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>両病院の医療機能に応じたより高度な医療及び専門的な医療を提供する。また、患者のQOL（生活の質）向上のため、より身体の負担が少ない手術や検査の充実に取り組む。</li> <li>疾病構造の変化や医療需要と供給のバランスに応じて適宜、機能に応じた医療を提供する。</li> <li>複数の疾患を持つ患者に対応できるように診療科の枠を超えた医療や質の高い総合的な診療を充実する。</li> </ul> <p><b>【中央市民病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市全域の基幹病院として、専門外来をはじめ各専門医療センターの充実等を通じて、より高度で専門性を必要とする疾患に対応する。</li> <li>医療需要の変化に応じて、他の地域医療機関では提供できない医療に適切に対応する。また、先進医療等に積極的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>両病院の医療機能に応じ、身体の負担が少ない手術や検査の充実等、より高度な医療及び専門的な医療を提供する。また、複数の疾患を持つ患者に対応できるように診療科の枠を超えた医療や質の高い総合的な診療を充実していく。さらに、疾病構造の変化や医療需要と供給のバランスに応じて適宜、機能に応じた医療を提供する。</li> </ul> <p><b>【中央市民病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市全域の基幹病院として専門外来をはじめ、より高度で専門性を必要とする疾患に対応していくため、内科系医師、外科系医師、コメディカル等がチームを組んで治療に当たる体制を充実し、来院当初から最適な治療を提供するために、引き続き高度専門医療センターの運営に取り組む。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○手術支援ロボット（ダヴィンチ）及びTAVI（経カテーテル大動脈弁治療）の導入により、引き続き手術の安全性の向上と患者の負担軽減を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央市民病院は、市全域の基幹病院として、専門外来をはじめとしたより高度で専門性を必要とする疾患に対応し、西市民病院は、専門性の高い医療を提供するとともに、地域密着型病院として、地域が必要とする医療の提供を行った。</li> </ul> <p><b>【中央市民病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他の医療機関では提供できない高度医療機器による検査や手術を行った。特に、腹腔鏡手術や胸腔鏡手術等、高度かつ患者に負担の少ない手術に積極的に取り組んだ。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○内視鏡下の画像の3次元化及びズーム機能による視野の拡大、コンピューターによる手振れの補正、鉗子類に関節を持たせることによる自在性等を備えた手術支援ロボット「ダヴィンチ」による治療を平成26年1月より開始し、継続して実施した（平成28年度実施件数：133件）。また、平成</li> </ul>	2	4		

<p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・循環器内科をはじめとした診療科の体制強化、内視鏡検査部門の充実等により、さらなる専門性の高い医療を提供する。</li> <li>・高齢者医療や生活習慣病医療等、地域が必要とする医療を強化するとともに、総合内科の充実をはじめとする「やさしさのある医療」を提供することにより、病院の特色づくりを行い、魅力ある病院を目指す。</li> </ul>	<p>図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○急性呼吸不全症例に対して、治療成績の向上を図るため体外式膜型人工肺（ECMO）による治療に引き続き取り組む</li> <li>○侵襲性の低い内視鏡下手術を増加させる</li> <li>○総合診療科において、患者ニーズに合わせた総合的な医療及び他の診療科からのコンサルテーション対応等に、引き続き取り組む</li> <li>○腫瘍内科において、各種悪性腫瘍の診断、治療方針の決定及びがん化学療法の実施とともに、地域医療機関（紹介元）との連携に引き続き取り組む</li> <li>○移植・再生医療センターでは、移植医療を実施し、将来的には技術の進展等を見極めながら、患者の選択肢の拡大に向けて高度で質の高い医療の提供に取り組んでいく</li> </ul> <p><b>【西市民病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門性の高い医療を提供するとともに、地域密着型病院として、地域が必要とする医療を強化する。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平成 28 年 1 月に新設した乳腺外科において、専門医の診療により、乳癌など乳腺疾患の専門化・高度化に対応する</li> <li>○増設したCTを活用し、循環器内科分野にも対応しながら、件数が増加している検査を円滑に実施する</li> <li>○件数が増加している内視鏡検査を充実させるため、既存施設の改修に合わせ、内視鏡センターの拡張について具体的な検討を行う</li> </ul>	<p>26 年 2 月より実施している TAVI（経カテーテル大動脈弁治療）についても継続して実施した（平成 28 年度実施件数：29 件）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○急性呼吸不全症例に対する体外式膜型人工肺による治療成績の向上を目的とした、体外式循環 ECMO による治療について、平成 28 年度の実施はなかった。（平成 29 年 4 月 1 件実施）。</li> <li>○各診療科において患者への負担が少ない内視鏡下手術を行った（平成 28 年度実績：がん内視鏡下手術件数 402 件、前年度比 12 件増、3.1%増）。</li> <li>○複数疾患を同時に持っている患者、多臓器に問題がある患者、一般的な内科疾患のある患者等、臓器別の枠を超えて患者のニーズに合わせた医療を提供するため、総合内科において引き続き総合的な医療の提供に取り組んだ（平成 28 年度実績：延外来患者数 11,961 人、延入院患者数 12,527 人）。</li> <li>○腫瘍内科において、各診療科と連携して、がん化学療法等を行った（平成 28 年度実績：延外来患者数 7,218 人、前年度比 718 人増、延入院患者数 1,507 人、前年度比 476 人増）。</li> <li>○移植・再生医療センターでは、無菌室（3 床）、準無菌室（9 床）を含む 45 床で構成し、患者の治療の選択肢の拡大と、より質の高い医療の提供を目指し治療に取り組んだ。</li> </ul> <p><b>【西市民病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門性の高い医療を提供するとともに、地域密着型病院として、地域が必要とする医療を強化した。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平成 28 年 1 月に新設した乳腺外科において、中央市民病院とも連携しながら、乳腺外科専門医が疾患の専門化・高度化に対応した診療を行った。また平成 28 年度より、中央市民病院や西神戸医療センターの医師と定期的にカンファレンスを実施した。</li> <li>○増加傾向にある CT 検査に対応し、急性期病院としての機能を果たすため、複数の X 線照射装置を備えた CT（MDCT）を平成 26 年 6 月に増設し、冠動脈撮影を含めた検査体制の充実を図った。</li> <li>○平成 29 年度に予定している既存施設の改修において、内視鏡センターを拡張し、医療機能の向上を図っていく。</li> <li>○総合内科を中心に、外来初診患者の診療体制を確保し、初診患者の専</li> </ul>				
---	---	---	--	--	--	--

○総合内科に初診内科の機能を持たせ、詳細内科への振り分けも含め、患者に適切な医療の提供を行う  
 ○こうべ市歯科センターの救急対応及び後送システムを継続するとともに、日帰り全身麻酔手術を積極的に行う  
 ○腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術及び内視鏡手術等、侵襲性の低い手術や検査を引き続き積極的に行う

関連指標（平成 24 年度実績）

項目	中央市民病院	西市民病院
検査人数(CT)(人)	38,509	13,066
検査人数(MRI)(人)	16,397	5,125
検査人数(PET)(人)	2,125	-
検査人数 (心臓血管造影)(人)	1,434	147
検査人数 (脳血管造影)(人)	1,082	-
手術件数(手術室で実施)(件)	11,696	3,528
	うち腹腔鏡・ 胸腔鏡	うち腹腔鏡・ 胸腔鏡
	1,340	653
内視鏡による手術件数(件)	1,946	893
全身麻酔実施件数(件)	8,279	2,903
HIV患者数(人)	83	-

関連指標（平成 26 年度実績）

項目	中央市民病院	西市民病院
検査人数(CT)(人)	42,758	13,791
検査人数(MRI)(人)	17,109	4,882
検査人数(PET)(人)	2,141	-
検査人数 (心臓血管造影)(人)	1,068	541
検査人数 (脳血管造影)(人)	706	-
手術件数(手術室で実施)(件)	12,261	3,117
	うち腹腔鏡・ 胸腔鏡	うち腹腔鏡・ 胸腔鏡
	1,546	658
内視鏡による手術件数(件)	2,326	1,119
全身麻酔実施件数(件)	8,897	1,988
HIV患者数(人)	59	-

門診療科への適切な振り分けを行い、患者の流れの円滑化を図った。  
 ○歯科の日帰り全身麻酔手術の体制を継続し、こうべ市歯科センターの救急対応・後送システムに対応した。また、毎週火曜日午後の日帰り全身麻酔手術枠を継続し、毎週 1,2 件の症例を実施した。  
 ○ハイビジョン内視鏡下手術システムを活用し、外科、泌尿器科、産婦人科、整形外科、耳鼻咽喉科において高度かつ侵襲性の低い手術や検査を行った。また、腹腔鏡下手術および胸腔鏡下手術で使用する内視鏡システムの更新（平成 28 年 3 月）や、手術中の透視、撮影を行う手術室用 X 線装置の更新（7 月）を行い、より安全で低侵襲な手術が行える環境を整えた。  
 ○平成 28 年 2 月より、低侵襲・高精度で、短時間での検査が可能な大腸 CT 検査を開始し、検査体制の充実を図った。

関連指標

	項目	平成 27 年 度実績	平成 28 年 度実績	前年度比 (%)
中 央 市 民 病 院	検査人数(CT)(人)	44,634	49,286	110.4
	検査人数(MRI)(人)	17,538	17,296	98.6
	検査人数(PET)(人)	2,209	2,296	103.9
	検査人数(心臓血管造影)(人)	1,125	1,060	94.2
	検査人数(脳血管造影)(人)	721	726	100.7
	手術件数(手術室で実施)(件)	12,544	13,177	105.0
	うち腹腔鏡・胸腔鏡	1,588	1,803	113.5
	内視鏡による手術件数(件)	2,812	3,029	107.7
	全身麻酔実施件数(件)	9,039	9,626	106.5
	HIV患者数(人)	53	47	88.7
西 市 民 病 院	検査人数(CT)(人)	14,557	15,684	107.7
	検査人数(MRI)(人)	4,570	4,449	97.4
	検査人数(PET)(人)	-	-	-
	検査人数(心臓血管造影)(人)	189	218	115.3
	検査人数(脳血管造影)(人)	-	-	-
	手術件数(手術室で実施)(件)	2,899	3,032	104.6
	うち腹腔鏡・胸腔鏡	617	714	115.7
	内視鏡による手術件数(件)	1,233	1,377	111.7
	全身麻酔実施件数(件)	1,893	2,062	108.9
	HIV患者数(人)	-	-	-



**第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置**

**2 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献**

**(2) 5 疾病（がん，脳卒中，急性心筋梗塞，糖尿病及び精神疾患）への対応**

<b>中期目標</b>	5 疾病への対応は，市民の健康の重要課題であり，地域医療機関と役割を分担した上で，市民病院の機能に応じた医療を提供すること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>がん，脳卒中，急性心筋梗塞については，地域医療機関との役割分担及び連携を明確にした上で，両病院に求められている使命を果たす。</li> <li>糖尿病については，教育入院や糖尿病教室を引き続き行うとともに，糖尿病地域連携パスの利用を促進する等，生活習慣病医療を強化する。また，糖尿病合併症については，関係診療科との連携を図りながら取り組む。</li> <li>精神疾患については，地域の専門病院と連携を図りながら，身体合併症等への対応を中心に取り組む。</li> </ul> <p><b>（中央市民病院）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域がん診療連携拠点病院として，がん診断治療の分野において，高度の標準治療を提供するとともに，化学療法及び放射線治療等のより負担の少ない治療を提供する。</li> <li>脳卒中をはじめとした脳血管障害や急性心筋梗塞をはじめとした心臓循環器領域の疾患に対しては，内科系医師，外科系医師，看護師及びコメディカル等がチームを組んで最適な医療を提供する体制を一層強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの疾患について，地域医療機関との役割分担及び連携を明確にしたうえで，両病院に求められている使命を果たす。なお，精神疾患については，身体合併症への対応を中心に取り組む。</li> </ul> <p><b>【中央市民病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>がん治療については，地域がん診療連携拠点病院として，地域連携パスを活用しながら地域医療機関との連携を図り，侵襲性の低い治療，化学療法及び放射線治療等をより多くの患者に提供する。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○がんセンターでは，高度ながん治療と緩和医療を提供することにより，がん患者のQOL（生活の質），治癒率の向上を図る</li> <li>○5 大がん（肺がん・胃がん・肝臓がん・大腸がん・乳がん）の兵庫県統一「地域連携パス」を活用し地域の医療機関との連携の下，患者の視点に立った，安心して質の高い医療を提供していくことを目指す</li> <li>○新規の抗がん剤についても積極的に導入し，最適ながん薬物療法を提供する。新規の抗がん剤は未知の副作用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央市民病院は市全域の基幹病院として，西市民病院は市街地西部の中核病院として，地域医療機関との役割分担及び連携の下，それぞれの医療機能に応じて以下の通り 5 疾患への対応を行った。</li> </ul> <p><b>【中央市民病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域がん診療連携拠点病院として，がん診療の中心的役割を担い，地域連携パスを活用しながら地域医療機関との連携を図った。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○引き続き腫瘍内科において診療を行ったほか，がん診断と治療に関係した各診療科ががんセンターの中心となって運用した。また，兵庫県がん診療連携協議会（4 月），兵庫県がん診療連携協議会幹事会（6 月，2 月）に，がんセンター長が出席し，情報共有等を図った。</li> <li>○5 大がん（肺がん・胃がん・肝臓がん・大腸がん・乳がん）の兵庫県統一「地域連携パス」を活用し，地域の医療機関との連携を図った（平成 28 年度実績：連携医療機関 231 施設，127 件）。</li> <li>○新規の抗がん剤について，医薬品医療機器総合機構（PMDA）や製薬企業へ副作用報告を行うことで情報提供に協力し，未知の副作用の早期発見に努めた。また，8 月には免疫チェックポイント阻害剤であるオプジーボ</li> </ul>	1	3		

	<p>用発現の可能性もあるため、薬剤師は医師診察前予診などを利用し副作用の早期発見に努める</p> <p>○平成 25 年 4 月にがんセンターに設立した臓器別ユニット外来において、胃がんは消化器内科や消化器外科、肺がんは呼吸器内科や呼吸器外科といった各臓器に対応可能な医師が診療にあたり、また外来化学療法センター、放射線治療部門、手術部等とも協働し、各診療科と連携することにより、専門的にがんに対応する</p> <p>○外来化学療法センターにおいて薬剤師による副作用の説明や治療開始後のモニタリングを行うことにより、安全な治療を提供する。また、外来化学療法センターでは、外来通院治療機能の充実を図るために、がん患者に対する化学療法や血液浄化療法及び外来腹膜透析の管理指導等を行う</p> <p>○緩和ケア外来において、医師、看護師、薬剤師等多職種によるがん患者の症状コントロール、不安・不眠等の心理的な問題への対応、患者や家族の悩み相談等により、がん患者の QOL の改善に貢献する</p> <p>○がん診療オープンカンファレンス及び研修会を開催し、地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たす</p> <p>・脳卒中治療については、継続して高</p>	<p>が治切除不能又は転移性の腎細胞がんで適用され、泌尿器科、内分泌内科等と連絡し、安全に使用できるよう取り組み、2 月には新たな免疫チェックポイント阻害薬であるキイトルーダが発売され、オプジーボと同様、薬剤師による副作用モニタリングを実施した。さらに、平成 28 年度に肺がん及び腎がんで免疫チェックポイント阻害剤が投与された 68 名全患者に対し、薬剤師の薬学的管理指導を行った。</p> <p>○臓器別ユニット外来において、各臓器に対応可能な医師が診療にあたりとともに、外来化学療法センター、放射線治療部門、手術部等とも協働し、各診療科と連携して診療科の壁を取り払い、より専門的にがんに対応できるよう患者にとって最善の治療を行った。</p> <p>○初めてがん化学療法を受ける患者や、がん化学療法の新たな治療計画を開始する患者に対し、薬剤師が事前の副作用説明・対策を行うことで、患者の不安を取り除き、円滑に治療が行えるよう取り組んだ。さらに副作用をモニタリングし、用量・用法の変更、支持療法の処方提案をすることで患者の副作用軽減を図った（平成 28 年度実績：初回副作用説明 243 件、副作用説明外来 534 件、疑義照会件数 2,694 件）。</p> <p>○緩和ケア内科において、がん疾病等の患者の早期転院、円滑な在宅支援及びがん救急による緊急入院の回避を図るとともに、地域がん診療連携拠点病院として地域連携を深めるための取組みを引き続き行った（平成 28 年度実績：延外来患者数 2,048 人）。また、緩和ケア外来の薬剤師は、患者の症状変化に合わせ、薬物によるがん患者の症状コントロールを行い、がん患者の QOL の改善に引き続き取り組んだ（平成 28 年度実績：緩和ケア外来における薬剤師同席件数 728 件、処方提案件数は 308 件（うち受入れ件数 300 件）、外来緩和ケア管理料算定件数 410 件）。</p> <p>○平成 27 年度に引き続き、がん診療連携オープンカンファレンスを年 4 回開催し、計 154 名が参加した。また、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会を年 3 回開催した（受講者 78 名（うち中央市民病院医師 70 名））。</p> <p>・脳卒中治療については、脳卒中センターにおいて、継続して高度な治療技</p>				
--	---	--	--	--	--	--

<p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん治療については、患者の負担が少ない手術や高水準の治療をより積極的にを行い、患者のQOLの向上に</li> </ul>	<p>度な治療技術を提供し、患者や家族の要望を踏まえた上で、出来る限り早期にリハビリへの移行を図ることができるよう体制の強化を図る。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○脳卒中センターでは、SCU（脳卒中ケアユニット）を設置し、救命救急センターとの連携の下、ホットラインを活用し24時間体制で専門医による脳卒中診療を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・急性心筋梗塞治療については、継続して高度な治療技術を提供するとともに、糖尿病性合併症等については、フットケア等のチーム医療活動の充実を図る。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○心臓センターでは圏域内の心・大血管疾患の中心的病院として救命救急センターとの連携の下24時間対応できる体制により、救命に寄与する</p> <p>○糖尿病透析予防指導について、医師、看護師、管理栄養士が取り組み、体制の強化を図る</p> <p>○精神科身体合併症病棟を設置し、精神疾患に合併した急性期の身体疾患により、入院治療の必要性のある患者を受け入れる</p> <p><b>【西市民病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5疾病については、引き続き地域医療機関と連携を図りながら、地域で求められている役割を果たす。特に、</li> </ul>	<p>術を提供し、患者や家族の要望を踏まえた上で、できる限り早期にリハビリへの移行を図ることができるよう体制の強化を図った。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○脳神経外科と神経内科が協力して脳卒中センター（SCUと一般病床）の一体的運用を図り、救命救急センターとの連携のもと、24時間体制で脳卒中専門医による脳卒中診察を行い、救命率の向上、後遺症発生率の低減、早期のリハビリへの移行を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・循環器医師、皮膚科医師、専門看護師のチームでフットケア症例検討を行い、血流障害治療、潰瘍治療、全身状態の管理、足のケア教育に取り組んだ（平成28年度実績：フットケア外来299件、リンパ浮腫ケア外来213件）。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○循環器内科と心臓血管外科が協力して心臓センター（CCUとC-HCUと一般病床）の一体的運用を行い、救命救急センターとの連携の下、心筋梗塞、狭心症等の疾患だけでなく、入院患者を含め虚血性心疾患や大動脈疾患等の心血管患者を対象とした。また、急性心筋梗塞治療についても、継続して高度な治療技術を提供した。平成28年度は緊急カテーテル治療（PCI）を125件（前年度比41件増、48.8%増）、冠動脈造影検査（CAG）を1,862件（前年度比43件増、2.4%増）実施した。</p> <p>○糖尿病患者や糖尿病性腎症第2期以上の患者に対し、医師、看護師、管理栄養士が患者の病期分類、食塩制限等の食事指導、運動指導、その他生活習慣に関する指導を行った。</p> <p>○平成28年8月から精神科身体合併症病棟（8床）を開設し、前方支援、後方支援の広報活動として、精神・神経科部長、救急科部長を伴い、近郊の精神科病院へ訪問活動を行った（平成28年度実績：延入院患者1,357人、平均在院日数15.7日、利用率69.8%、平均単価38,196円）。</p> <p>○薬剤師が副作用モニタリング等の医師への提案を行っており、薬剤総合評価調整加算を4件算定した。また、薬剤師主導で看護師に対して精神系薬剤の勉強会を3回実施した。</p> <p><b>【西市民病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん治療については、平成24年度より、「がん診療連携拠点病院に準じる病院」に認定されるとともに、県保健医療計画の「専門的ながん診療の機能を有する医療機関」に位置づけられ、がん登録・がん治療検</li> </ul>				
---	---	--	--	--	--	--

<p>取り組むとともに、化学療法や市民病院群との連携による放射線治療の充実を図る等、専門的ながん診療機能を有する医療機関としての役割を發揮する。</p>	<p>がん治療については、より侵襲性が低く安全な手術や温存術及び化学療法等に取り組むとともに、市関連病院、市内の放射線治療装置を設置している施設と密接な連携をとりながら放射線治療を行い、患者のQOLの向上に努める。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○手術支援ロボット（ダヴィンチ）を活用し、泌尿器科において、前立腺悪性腫瘍に対し、より侵襲性が低く安全な手術に取り組む</li> <li>○「がん看護相談室」を引き続き実施し、がん患者及び家族に対するがん治療への精神的支援や啓発活動を積極的に行う</li> <li>○急性心筋梗塞については、引き続き循環器内科において、冠動脈造影検査や血管内治療への対応を広げる</li> <li>○糖尿病については、引き続き、糖尿病教室の開催等に取り組むとともに、糖尿病地域連携パスの運用において地域医療機関との連携を図る</li> <li>○精神疾患については、各精神科病院から「こころの健康センター」経由で身体合併症患者を受け入れるほか、地域の専門病院との連携にも努める</li> <li>○認知症鑑別診断を引き続き実施し、神戸市長田区認知症連携パスの運用</li> </ul>	<p>討委員会等において、外来化学療法、緩和ケアチーム活動、がんリハビリテーション、がんカウンセリング等についての情報共有や意見交換を積極的に行い、がん治療への取り組みの充実を図った。特に、外科的手術を中心に、患者への負担の少ない安全な腹腔鏡下、胸腔鏡下での手術を積極的に行うとともに、外来化学療法センターにおいて引き続き外来化学療法治療を実施し、放射線治療が必要な患者については、市関連病院及び市内の放射線治療装置を有する施設と密接な連携を図りながら治療を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年 1 月のがん登録の法制化に対応するため、「がん登録システム」を導入し、がん患者情報のデータ管理における精度の向上や、がん登録情報を活用した治療の質の向上に取り組んだ。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○内視鏡下の画像の 3 次元化及びズーム機能による視野の拡大、コンピュータによる手振れの補正、鉗子類に関節を持たせることによる自在性等を備えた手術支援ロボット「ダヴィンチ」を平成 27 年 10 月に導入し、内視鏡手術の安全性の向上と患者の負担軽減を図った（平成 28 年度前立腺悪性腫瘍手術件数：45 件）。</li> <li>○「がん看護相談室」を毎日実施し、化学療法を受ける患者や家族に対する副作用症状のマネジメントや意思決定への支援など、がん治療への精神的支援を積極的に行った。</li> <li>○時間内の救急受入れ及び循環器内科医師の日当直日における時間外救急受入れを円滑に行うとともに、血管造影検査、血管内治療を積極的に実施した。また、心肺運動負荷試験装置（CPX）・心臓運動負荷モニタリングシステムを活用した外来での心臓リハビリテーションの実施に向けて検討を開始した。</li> <li>○糖尿病合併症予防等の教育・啓発のため、引き続き、糖尿病教室を積極的に実施した（平成 28 年度実績：開催回数 10 回）。また、神戸市医師会の発案により運用を開始した、病院と診療所が協力して患者の治療にあたる K o b e D M n e t（神戸糖尿病地域連携）において、累積で 92 診療所以上、438 症例以上の連携実績をあげた。</li> <li>○精神障害者の身体合併症病床（4 床）を活用し、各精神科病院から「こころの健康センター」経由で受入れを行ったほか、地域の専門病院との連携に取り組んだ。</li> <li>○神戸市長田区認知症連携パスの運用に積極的に関わり、認知症鑑別診断を引き続き実施した。また、認知症患者の地域での生活を支えるた</li> </ul>				
--	--	--	--	--	--	--

<p>関連指標 (平成 24 年度実績)</p>	<p>も継続する</p> <p>関連指標 (平成 26 年度実績)</p>	<p>め、地域のケアマネジャー等を対象に、認知症対応能力研修を開催した。</p> <p>関連指標</p>																																																																																																																																																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>中央市民病院</th> <th>西市民病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>がん退院患者数(人)</td><td>4,286</td><td>2,616</td></tr> <tr><td>がん患者外来化学療法数(人)</td><td>9,279</td><td>4,447</td></tr> <tr><td>がん患者放射線治療数※1(人)</td><td>10,327</td><td>139</td></tr> <tr><td>緩和ケア外来延べ患者数(人)</td><td>1,953</td><td>-</td></tr> <tr><td>がん患者相談受付件数(件)</td><td>1,429</td><td>32</td></tr> <tr><td>脳卒中退院患者数(人)</td><td>1,227</td><td>54</td></tr> <tr><td>急性心筋梗塞退院患者数(人)</td><td>134</td><td>12</td></tr> <tr><td>糖尿病退院患者数(人)</td><td>214</td><td>200</td></tr> <tr><td>精神・神経科が関わった救急入院患者数※2(人)</td><td>61</td><td>-</td></tr> <tr><td>身体合併症受入延患者数(人)</td><td>132</td><td>168</td></tr> <tr><td>認知症鑑別診断数(件)</td><td>135</td><td>153</td></tr> </tbody> </table>	項目	中央市民病院	西市民病院	がん退院患者数(人)	4,286	2,616	がん患者外来化学療法数(人)	9,279	4,447	がん患者放射線治療数※1(人)	10,327	139	緩和ケア外来延べ患者数(人)	1,953	-	がん患者相談受付件数(件)	1,429	32	脳卒中退院患者数(人)	1,227	54	急性心筋梗塞退院患者数(人)	134	12	糖尿病退院患者数(人)	214	200	精神・神経科が関わった救急入院患者数※2(人)	61	-	身体合併症受入延患者数(人)	132	168	認知症鑑別診断数(件)	135	153	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>中央市民病院</th> <th>西市民病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>がん退院患者数(人)</td><td>4,205</td><td>2,282</td></tr> <tr><td>がん患者外来化学療法数(人)</td><td>7,326</td><td>2,775</td></tr> <tr><td>がん患者放射線治療数※1(人)</td><td>9,288</td><td>168</td></tr> <tr><td>緩和ケア外来延べ患者数(人)</td><td>2,096</td><td>-</td></tr> <tr><td>がん患者相談受付件数(件)</td><td>468</td><td>59</td></tr> <tr><td>脳卒中退院患者数(人)</td><td>1,087</td><td>53</td></tr> <tr><td>急性心筋梗塞退院患者数(人)</td><td>97</td><td>20</td></tr> <tr><td>糖尿病退院患者数(人)</td><td>202</td><td>156</td></tr> <tr><td>精神・神経科が関わった救急入院患者数※2(人)</td><td>30</td><td>-</td></tr> <tr><td>身体合併症受入延患者数(人)</td><td>1,611</td><td>310</td></tr> <tr><td>認知症鑑別診断数(件)</td><td>140</td><td>153</td></tr> </tbody> </table>	項目	中央市民病院	西市民病院	がん退院患者数(人)	4,205	2,282	がん患者外来化学療法数(人)	7,326	2,775	がん患者放射線治療数※1(人)	9,288	168	緩和ケア外来延べ患者数(人)	2,096	-	がん患者相談受付件数(件)	468	59	脳卒中退院患者数(人)	1,087	53	急性心筋梗塞退院患者数(人)	97	20	糖尿病退院患者数(人)	202	156	精神・神経科が関わった救急入院患者数※2(人)	30	-	身体合併症受入延患者数(人)	1,611	310	認知症鑑別診断数(件)	140	153	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>平成 27 年度実績</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>前年度比 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="10">中央市民病院</td><td>がん退院患者数(人)</td><td>4,214</td><td>4,464</td><td>105.9</td></tr> <tr><td>がん患者外来化学療法数(人)</td><td>7,721</td><td>9,496</td><td>123.0</td></tr> <tr><td>がん患者放射線治療数(人)</td><td>8,295</td><td>9,420</td><td>113.6</td></tr> <tr><td>緩和ケア外来延べ患者数(人)</td><td>1,914</td><td>2,048</td><td>107.0</td></tr> <tr><td>がん患者相談受付件数(件)</td><td>641</td><td>691</td><td>107.8</td></tr> <tr><td>脳卒中退院患者数(人)</td><td>1,078</td><td>1,100</td><td>102.0</td></tr> <tr><td>急性心筋梗塞退院患者数(人)</td><td>91</td><td>122</td><td>134.1</td></tr> <tr><td>糖尿病退院患者数(人)</td><td>216</td><td>166</td><td>76.9</td></tr> <tr><td>精神・神経科が関わった救急入院患者数※2(人)</td><td>24</td><td>50</td><td>208.3</td></tr> <tr><td>身体合併症受入延患者数(人)</td><td>1,198</td><td>1,849</td><td>154.3</td></tr> <tr><td>認知症鑑別診断数(件)</td><td>149</td><td>95</td><td>63.8</td></tr> <tr><td rowspan="10">西市民病院</td><td>がん退院患者数(人)</td><td>2,191</td><td>2,073</td><td>94.6</td></tr> <tr><td>がん患者外来化学療法数(人)</td><td>2,155</td><td>2,373</td><td>110.1</td></tr> <tr><td>がん患者放射線治療数※1(人)</td><td>136</td><td>109</td><td>80.1</td></tr> <tr><td>緩和ケア外来延べ患者数(人)</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>がん患者相談受付件数(件)</td><td>29</td><td>15</td><td>51.7</td></tr> <tr><td>脳卒中退院患者数(人)</td><td>39</td><td>54</td><td>138.5</td></tr> <tr><td>急性心筋梗塞退院患者数(人)</td><td>16</td><td>12</td><td>75.0</td></tr> <tr><td>糖尿病退院患者数(人)</td><td>138</td><td>114</td><td>82.6</td></tr> <tr><td>精神・神経科が関わった救急入院患者数※2(人)</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>身体合併症受入延患者数(人)</td><td>182</td><td>273</td><td>150.0</td></tr> <tr><td>認知症鑑別診断数(件)</td><td>176</td><td>144</td><td>81.8</td></tr> </tbody> </table>		項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	前年度比 (%)	中央市民病院	がん退院患者数(人)	4,214	4,464	105.9	がん患者外来化学療法数(人)	7,721	9,496	123.0	がん患者放射線治療数(人)	8,295	9,420	113.6	緩和ケア外来延べ患者数(人)	1,914	2,048	107.0	がん患者相談受付件数(件)	641	691	107.8	脳卒中退院患者数(人)	1,078	1,100	102.0	急性心筋梗塞退院患者数(人)	91	122	134.1	糖尿病退院患者数(人)	216	166	76.9	精神・神経科が関わった救急入院患者数※2(人)	24	50	208.3	身体合併症受入延患者数(人)	1,198	1,849	154.3	認知症鑑別診断数(件)	149	95	63.8	西市民病院	がん退院患者数(人)	2,191	2,073	94.6	がん患者外来化学療法数(人)	2,155	2,373	110.1	がん患者放射線治療数※1(人)	136	109	80.1	緩和ケア外来延べ患者数(人)	-	-	-	がん患者相談受付件数(件)	29	15	51.7	脳卒中退院患者数(人)	39	54	138.5	急性心筋梗塞退院患者数(人)	16	12	75.0	糖尿病退院患者数(人)	138	114	82.6	精神・神経科が関わった救急入院患者数※2(人)	-	-	-	身体合併症受入延患者数(人)	182	273	150.0	認知症鑑別診断数(件)	176	144	81.8			
項目	中央市民病院	西市民病院																																																																																																																																																																										
がん退院患者数(人)	4,286	2,616																																																																																																																																																																										
がん患者外来化学療法数(人)	9,279	4,447																																																																																																																																																																										
がん患者放射線治療数※1(人)	10,327	139																																																																																																																																																																										
緩和ケア外来延べ患者数(人)	1,953	-																																																																																																																																																																										
がん患者相談受付件数(件)	1,429	32																																																																																																																																																																										
脳卒中退院患者数(人)	1,227	54																																																																																																																																																																										
急性心筋梗塞退院患者数(人)	134	12																																																																																																																																																																										
糖尿病退院患者数(人)	214	200																																																																																																																																																																										
精神・神経科が関わった救急入院患者数※2(人)	61	-																																																																																																																																																																										
身体合併症受入延患者数(人)	132	168																																																																																																																																																																										
認知症鑑別診断数(件)	135	153																																																																																																																																																																										
項目	中央市民病院	西市民病院																																																																																																																																																																										
がん退院患者数(人)	4,205	2,282																																																																																																																																																																										
がん患者外来化学療法数(人)	7,326	2,775																																																																																																																																																																										
がん患者放射線治療数※1(人)	9,288	168																																																																																																																																																																										
緩和ケア外来延べ患者数(人)	2,096	-																																																																																																																																																																										
がん患者相談受付件数(件)	468	59																																																																																																																																																																										
脳卒中退院患者数(人)	1,087	53																																																																																																																																																																										
急性心筋梗塞退院患者数(人)	97	20																																																																																																																																																																										
糖尿病退院患者数(人)	202	156																																																																																																																																																																										
精神・神経科が関わった救急入院患者数※2(人)	30	-																																																																																																																																																																										
身体合併症受入延患者数(人)	1,611	310																																																																																																																																																																										
認知症鑑別診断数(件)	140	153																																																																																																																																																																										
	項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	前年度比 (%)																																																																																																																																																																								
中央市民病院	がん退院患者数(人)	4,214	4,464	105.9																																																																																																																																																																								
	がん患者外来化学療法数(人)	7,721	9,496	123.0																																																																																																																																																																								
	がん患者放射線治療数(人)	8,295	9,420	113.6																																																																																																																																																																								
	緩和ケア外来延べ患者数(人)	1,914	2,048	107.0																																																																																																																																																																								
	がん患者相談受付件数(件)	641	691	107.8																																																																																																																																																																								
	脳卒中退院患者数(人)	1,078	1,100	102.0																																																																																																																																																																								
	急性心筋梗塞退院患者数(人)	91	122	134.1																																																																																																																																																																								
	糖尿病退院患者数(人)	216	166	76.9																																																																																																																																																																								
	精神・神経科が関わった救急入院患者数※2(人)	24	50	208.3																																																																																																																																																																								
	身体合併症受入延患者数(人)	1,198	1,849	154.3																																																																																																																																																																								
認知症鑑別診断数(件)	149	95	63.8																																																																																																																																																																									
西市民病院	がん退院患者数(人)	2,191	2,073	94.6																																																																																																																																																																								
	がん患者外来化学療法数(人)	2,155	2,373	110.1																																																																																																																																																																								
	がん患者放射線治療数※1(人)	136	109	80.1																																																																																																																																																																								
	緩和ケア外来延べ患者数(人)	-	-	-																																																																																																																																																																								
	がん患者相談受付件数(件)	29	15	51.7																																																																																																																																																																								
	脳卒中退院患者数(人)	39	54	138.5																																																																																																																																																																								
	急性心筋梗塞退院患者数(人)	16	12	75.0																																																																																																																																																																								
	糖尿病退院患者数(人)	138	114	82.6																																																																																																																																																																								
	精神・神経科が関わった救急入院患者数※2(人)	-	-	-																																																																																																																																																																								
	身体合併症受入延患者数(人)	182	273	150.0																																																																																																																																																																								
認知症鑑別診断数(件)	176	144	81.8																																																																																																																																																																									
<p>※1 西市民病院のがん患者放射線治療数は平成 24 年度の他病院への紹介患者数を算定している患者数</p> <p>※2 精神疾患診断初回加算(自殺企図等による重篤な救命救急入院の患者であって精神科の医師が精神疾患に対する診断治療を行った場合に算定可能)を算定している患者数</p>	<p>※1 西市民病院のがん患者放射線治療数は平成 26 年度の他病院への紹介患者数を算定している患者数</p> <p>※2 精神疾患診断初回加算(自殺企図等による重篤な救命救急入院の患者であって精神科の医師が精神疾患に対する診断治療を行った場合に算定可能)を算定している患者数</p>	<p>※1 西市民病院のがん患者放射線治療数は他病院への紹介患者数を算定している患者数</p> <p>※2 精神疾患診断初回加算(自殺企図等による重篤な救命救急入院の患者であって精神科の医師が精神疾患に対する診断治療を行った場合に算定可能)を算定している患者数</p>																																																																																																																																																																										

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置

2 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献

(3) チーム医療の実践及び専門性の発揮

中期目標

全ての医療現場において、医療に携わる全ての職員が、部門や職種を超えた良好なコミュニケーションの下で、チーム医療を実践するとともに、それぞれの専門性を発揮した医療を提供すること。

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化社会の下、高度複雑化する疾患や高度に進化した治療法に対応するため、あらゆる部門や職種を超えた良好なコミュニケーションの下に、より専門的な診療を実現するため、チーム医療を一層推進する。</li> <li>各専門職がそれぞれの専門性を発揮し、より良い医療を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる部門や職種を超えた良好なコミュニケーションの下に、より専門的な診療を実現するため、チーム医療を一層推進する。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b> (中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○心臓血管外科と内科とで、大動脈弁狭窄症やコロナリー（冠動脈）手術及び術後ケアに関する連携を強化する</li> <li>○下肢静脈瘤について、形成外科と皮膚科とで連携した診療体制を構築する</li> <li>○膠原病患者に対しては、総合診療科を中心に関係各科が連携した診療体制を構築する</li> <li>○腫瘍内科においては、患者や診療科のニーズに合わせた横断的な腫瘍のための医療を提供していく</li> <li>○入院前または入院当初より、患者の病歴をはじめ身体的・社会的危険を評価するリスクアセスメントを行い、早期より各種チームが連携して問題解決に取り組み、安全で安心な医療を提供する</li> </ul> <p>(西市民病院)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる部門や職種を超えた良好なコミュニケーションの下に、より専門的な診療を実現するため、両病院においてチーム医療の推進に取り組んだ。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b> (中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○心臓血管外科に加え、循環器内科、呼吸器内科、また、患者の全身状態に応じて腎臓内科、消化器内科、神経内科等も治療に加わりチーム医療を行った。</li> <li>○下肢静脈瘤について、形成外科及び皮膚科の連携による診療体制の構築に向けた検討を行った。</li> <li>○膠原病については、総合診療科を中心に関係各科が連携し、治療にあたった。</li> <li>○腫瘍内科については、消化器内科や外科等と連携することで、診療科の枠を超えた横断的な医療を提供した。</li> <li>○入院前準備センターとデイサージャリーセンターにおいて、リスクアセスメントを実施した。看護師はリスクアセスメントの取得、薬剤師は常用薬の確認を行う等、早期より各種チームが連携して問題解決に取り組んだ。</li> <li>○平成27年1月に移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）の施設基準が受理されたことに伴い、移植専任医師、看護師、薬剤師が共同し、治療計画を立て指導を行った。また、医師の指導の下、薬剤部と臨床検査技術部が、引き続き共同で細胞調製を実施した。</li> </ul> <p>(西市民病院)</p>	2	3		

	<p>○複数の診療科医師，看護師，コメディカルで構成するチームにおいて，定期的なカンファレンスで，コミュニケーションを図るとともに，事例検討等で情報交換を行い，患者へのより良い治療・ケアにつなげる</p> <p>○チームによる回診を定期的に行い，患者を中心とした活動を積極的に行う</p> <p>○診療科医師，看護師，薬剤師等の連携により，全診療科において入院前オリエンテーションを実施し，患者の安心感・安全性の向上を図る</p> <p>・各専門職がそれぞれの専門性を発揮し，より良い医療を提供する。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> (中央市民病院)</p> <p>○NST(栄養サポートチーム)，摂食嚥下チーム，褥瘡対策チーム，口腔ケアチーム，緩和ケアチーム，呼吸管理ケアチーム，フットケアチーム，HIV/AIDSサポートグループ，せん妄ケアチーム，精神科リエゾンチーム，ICT(感染管理チーム)，CAPS(児童虐待防止チーム)，AAA(成人虐待防止チーム)による専門性を生かしたチーム医療を引き続き実践していく</p> <p>○院内の栄養管理体制の充実を図り，それぞれの職種の役割を明確にし，病院全体の栄養管理の質の向上を図るとともに，クリニカルパス等院内の体制の中で栄養指導件数の増加を目指す</p> <p>○入院診療計画書の特別な栄養管理の</p>	<p>○複数の診療科医師，看護師，コメディカルで構成される各チームが定期的にミーティングを実施し，コミュニケーションを図ったほか，事例検討等の勉強会や情報交換を行い，患者へのより良い治療・ケアにつなげた。また，チーム医療推進部が，各チームの活動を発表する「チーム医療発表会」を開催(年1回)し，各チームの活動推進に取り組んだ。</p> <p>○院内ラウンドや市民向け教室の運営を行ったほか，定期的なカンファレンスや回診を行う等，患者を中心とした活動を積極的に行った。</p> <p>○入院患者の在院日数の短縮，患者の不安軽減，外来医師の負担軽減等を目的に平成26年度から外科系の診療科で実施していた入院前オリエンテーションについて，消化器内科・呼吸器内科においても平成27年度より全例実施を継続し，今後も他の内科系診療科について状況を見ながら順次拡大していく。</p> <p>・各専門職がそれぞれの専門性を発揮し，より良い医療を提供した。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> (中央市民病院)</p> <p>○院内の多職種のメンバーで構成された各チームにおいて，専門性を生かしたチーム医療を引き続き実践した。</p> <p>○平成26年1月に「虐待防止委員会」を設置し，児童虐待・成人虐待における検討チームを発足させ，看護師・MSWの専門性を活かしながら対応策について議論を継続するとともに，隔月で虐待事例検討会を開催した。また，こども家庭センターとの連携のもと，虐待疑い事例に対する院内外のスムーズな連携及び手順の検討を行った(平成28年度実績：報告症例件数528件，うち，こども家庭センターへの通報件数12件，こども家庭センターからの通報による受診依頼件数27件)。</p> <p>○神戸市男女共同参画審議会のDV対策基本計画部会において，DVに対する医療機関としての役割・支援について，学識者，市民団体，公安，消防，行政等との連携をテーマに意見交換を行った。</p> <p>○栄養指導が組み込まれた10種類のクリニカルパスを設定し(糖尿病教育入院，腎不全保存期，食物負荷試験，胃切(2回)，大腸切除(腹腔鏡)，膵頭十二指腸切除，膵体尾部切除，上部消化管出血止血後，胃食道ESD，胃EMR)，院内の栄養管理体制の充実を図った。</p> <p>○管理栄養士が入院時早期から介入し，医師や看護師とともに「入院診療</p>				
--	---	---	--	--	--	--

	<p>有無については、入院時に医師、看護師、管理栄養士等、多職種で確認する。また、特別な栄養管理の必要性の有無の基準を明確にするとともに、特別な栄養管理が必要な患者への介入を確実に行う</p> <p>○NSTコアと各病棟でのNSTサテライトとが連携を強化し、NST加算算定の増額につなげる。また、退院後も栄養管理が必要な場合は退院前に栄養指導を確実に実施し、退院支援を行う。転院時は、必要に応じて栄養サマリーで情報提供を行う</p> <p>○管理栄養士は入院患者全員に入院時栄養アセスメントを行い、入院前の情報を参考にしながら、栄養投与法の選択や必要な治療食等の情報提供を行うとともに、栄養不良患者の早期介入に貢献する</p> <p>○栄養管理に関わるTNT（臨床栄養教育プログラム）修了医師やNST専門療法士を増やしていく</p> <p>○リハビリテーションへの的確な移行時期を把握するため、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士と医師、病棟看護師との連携を引き続き実践していく (西市民病院)</p> <p>○NST（栄養サポートチーム）、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、リエゾンチーム、糖尿病チーム、感染対策チーム（ICT）、呼吸管理ケアチーム、CPR（心肺蘇生）チーム、改善活動チーム等による専門性を生かしたチーム医療を引き続き実践していく</p> <p>○病棟での薬剤師業務を継続し、看護</p>	<p>計画書の特別な栄養管理の必要性」の有無の決定に関与した。また、特別な栄養管理が必要な患者に対し、確実に介入を行った（特別な栄養管理の必要性有の割合：平成28年度平均29.4%）。</p> <p>○病棟担当管理栄養士が連携に関与し、NSTコアとサテライトの活動を有効な形とし、退院後の栄養管理についても栄養サマリーや情報提供、栄養指導等の関与を行った（平成28年度実績：NST加算算定件数458件、NSTサテライトチーム件数(14病棟で実施)2,595件、NSTコアチーム対象のうち、管理栄養士が関与し、推薦された患者数161人）。</p> <p>○入院患者全員に栄養アセスメントを行い、栄養管理や栄養指導の必要な患者に介入を行った（平成28年度実績：入院患者の栄養指導1,976人うち、病棟で実施990人）。</p> <p>○栄養管理に関わるTNT（臨床栄養教育プログラム）修了医師やNST専門療法士の育成を行った（平成28年度末実績：TNT修了医師21名、NST専門療法士15名(管理栄養士5名、看護師6名、薬剤師3名、臨床検査技師1名)）。</p> <p>○早期離床を目指して、365日リハビリを提供するとともに、専従リハビリスタッフの配置を重症部門から一般病棟にも一部拡充（6階～8階）し、医師及び病棟看護師との連携をより一層強化することにより、適切なりハビリ介入時期の把握に取り組んだ。</p> <p><b>(西市民病院)</b></p> <p>○院内の多職種のメンバーで構成された各チームにおいて、各職種がそれぞれの専門性を発揮し、より良い医療の提供に努めた。</p> <p>○全病棟への薬剤師の常駐を継続し、全ての患者の持参薬の鑑別から</p>				
--	---	---	--	--	--	--



師の負担を減らすとともに、医療安全・患者サービスを向上させる

○各職種の連携のもと、土曜日リハビリテーション診療を含め、充実したリハビリテーションの提供を継続する

関連指標（単位：件、平成 24 年度実績）

項目	中央市民病院	西市民病院
薬剤管理指導件数	24,605	7,337
栄養指導件数	個別 1,944 集団 467	個別 1,212 集団 37
リハビリ実施件数	運動器 15,866 脳血管疾患等 33,542 呼吸器 5,087 心大血管疾患 10,661 がん患者 4,548 廃用症候群 6,543	運動器 17,425 脳血管疾患等 9,411 呼吸器 5,881 心大血管疾患 - がん患者 483 廃用症候群 15,571
口腔ケア実施件数	3,163	1,962

関連指標（単位：件、平成 26 年度実績）

項目	中央市民病院	西市民病院
薬剤管理指導件数	22,260	10,311
栄養指導件数	個別 2,751 集団 452	個別 1,821 集団 70
リハビリ実施件数	運動器 17,454 脳血管疾患等 54,465 呼吸器 11,700 心大血管疾患 13,669 がん患者 5,952 廃用症候群 2,578	運動器 11,853 脳血管疾患等 5,329 呼吸器 6,425 心大血管疾患 644 がん患者 1,307 廃用症候群 5,681
口腔ケア実施件数	3,138	2,334

副作用や重複服用等の確認、患者が服薬しやすいように持参薬を含めた 1 包化を行い、看護師の負担軽減や患者サービスに繋げるとともに、病棟での医薬品管理を徹底し、病棟での薬物治療の安全性を高めた。また、注射薬の払い出しについては、患者個人毎・1 施用毎の払い出しを継続するとともに、平成 27 年 7 月からは、週末も含めて毎日行うことで病棟での注射薬混合の安全性を高めた。さらに、電子カルテの運用開始に伴い、注射薬払出における患者誤認や投薬誤りを防止するため、平成 27 年 9 月末より開始した患者・看護師・注射薬を照合する三点認証システムによる運用を継続した。

○より効果的・効率的なリハビリテーションの実施のため、平成 27 年 5 月から開始した土曜日リハビリテーションを継続して実施した。

関連指標

（単位：件）

	項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	前年度比 (%)	
中央市民病院	薬剤管理指導件数	21,584	25,245	117.0	
	栄養指導件数	個別	2,851	3,253	114.1
		集団	423	341	80.6
	リハビリ実施件数	運動器	18,229	24,031	131.8
		脳血管疾患等	64,387	52,932	82.2
		呼吸器	13,270	18,098	136.4
		心大血管疾患	14,585	14,510	99.5
		がん患者	6,645	9,657	145.3
		廃用症候群	7,951	10,280	129.3
	口腔ケア実施件数	3,189	3,340	104.7	
西市民病院	薬剤管理指導件数	11,882	13,784	116.0	
	栄養指導件数	個別	1,825	1,908	104.5
		集団	75	77	102.7
	リハビリ実施件数	運動器	11,190	12,253	109.5
		脳血管疾患等	4,353	5,027	115.5
		呼吸器	9,046	10,271	113.5
		心大血管疾患	426	855	200.7
		がん患者	1,396	1,386	99.3
		廃用症候群	7,131	10,041	140.8
口腔ケア実施件数	2,428	1,732	71.3		

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置

2 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献

(4) 臨床研究及び治験の推進

中期目標	より多くの市民に提供できる医療となるよう、医療機器や新薬の開発への貢献や再生医療等の高度な医療の早期実用化に向けて体制整備の充実を図るなど、臨床研究及び治験を推進すること。なお、推進にあたっては、患者への十分な説明の下で行うとともに、安全性及び倫理性を十分に確保すること。
------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・より有効で安全性の高い治療を目指し、様々な職種の参画あるいは他病院との共同研究も含め、より多角的な視点から新薬や新医療機器の開発及び再生医療等の高度な医療の早期実用化等に貢献するため、治験及び臨床研究に積極的に取り組む。なお、実施にあたっては、患者の自由意思によるインフォームド・コンセント（患者が自ら受ける医療の内容に納得し、及び自分に合った治療法を選択できるよう、患者への分かりやすい説明を行った上で同意を得ること。）を得るとともに、人権の保護、安全性の確保、倫理的配慮等を十分に行う。</p>	<p>・より有効で安全性の高い治療を目指し、より多角的な視点から新薬や新医療機器の開発及び再生医療等の高度な医療の早期実用化等に貢献するため、治験及び臨床研究に積極的に取り組む。なお、実施にあたっては、患者の自由意思によるインフォームド・コンセント（患者が自ら受ける医療の内容に納得し、及び自分に合った治療法を選択できるよう、患者への分かりやすい説明を行った上で同意を得ること。）を得るとともに、人権の保護、安全性の確保、倫理的配慮等を十分に行う。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> （中央市民病院）</p> <p>○臨床研究中核病院の要件を踏まえて治験・臨床研究推進に向けた体制、機能の充実に取り組む</p> <p>○治験・臨床試験管理センターにおいて、データマネージメントスキルを有する職員を活用しデータセンターなどの環境の整備に努めるとともに、治験・臨床研究のさらなる推進・充実を図る</p>	<p>・両病院において、治験及び臨床研究を継続して積極的に推進した。また、患者への説明責任を徹底するとともに、臨床研究及び治験に関する標準業務手順書等の更新を適宜行った。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> （中央市民病院）</p> <p>○治験・臨床研究推進に向けた体制づくりのため、臨床研究中核病院準備委員会を発足させ、すでに同様に取り組んでいる施設を調査し、施設認定に向けて必要な項目の洗い出しを行った。また、治験コーディネーター（CRC）が常勤1名、非常勤4名体制で脳神経外科、血液内科、呼吸器内科、腫瘍内科、神経内科、眼科の治験とiPS臨床研究を支援している。</p> <p>○平成27年4月に、臨床試験データマネジャーを1名採用し、ローカルマネジメント業務、セントラルマネジメント業務等を実施し、データセンターの立ち上げをはじめ、がん専門薬剤師とデータマネジャーの協働によりがん臨床支援までの発展を遂げた。平成27年度に腫瘍内科、乳腺外科、呼吸器外科、泌尿器科、平成28年度に血液内科への支援を開始した。</p>	1	4		<p><b>【評価のポイント・評価委員意見】</b></p> <p>・先端医療センター統合により、臨床研究機能等を中央市民病院が、継承するとのことであるが、中央市民病院にとって負担となることはないのか。</p>

<p>・高度で多岐に渡る医療の実践により蓄積された豊富な臨床データを下に、今後の医療の方向性を指し示せる情報を発信する。また、論文投稿や学会発表等により医療の発展に貢献する。</p>	<p>○院内講習会等を通じて臨床研究倫理についての啓発に努めるとともに、利益相反管理委員会において利益相反についての透明性の確保や適正な管理に取り組む</p> <p>○再生医療等の高度な医療の早期実用化等に貢献するため、先端医療センターや独立行政法人理化学研究所神戸事業所と連携し、治験及び臨床研究に取り組んでいく</p> <p>・高度で多岐に渡る医療の実践により蓄積された豊富な臨床データをもとに、今後の医療の方向性を指し示せる情報を発信する。また、論文投稿や学会発表等により医療の発展に貢献する。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> (中央市民病院)</p> <p>○学術支援センターにおいて、論文の書き方や統計解析のセミナーの開催、相談窓口の設置、ポスター作成、データ入力等、論文投稿や学会発表等の支援を行い、論文投稿や学会発表等の実績や意欲の向上を図り、医療の発展に貢献していく</p>	<p>(平成 28 年度実績:臨床試験データマネージャーによる支援臨床試験 8 件(患者数 83 人))。</p> <p>○今後、利益相反管理委員会の重要性がこれまで以上に高まってくるため、必要に応じて、利益相反管理委員会の機能等をより充実させることを検討していく。</p> <p>○国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) からの資金を基に、加齢黄斑膜変性の i P S 細胞を用いた網膜移植の臨床研究を行うべく、中央市民病院、大阪大学、京都大学 i P S 細胞研究所、理化学研究所の 4 者による共同体制を発足し、3 月に第 1 例目の移植手術を行った。</p> <p>○先端医療センター臨床研究支援部に薬剤師を 1 名 (週 1.5 日) 派遣して連携を強化し、治験・臨床研究推進体制の構築に向けた業務を行った。また、先端医療センターとの統合にあたり、統合後の治験臨床試験管理センターの組織、支援体制について検討し、継承する治験及び臨床研究の継続実施のための手順、スケジュール調整に取り組んだ。</p> <p>・高度で多岐に渡る医療の実践により蓄積された豊富な臨床データをもとに、今後の医療の方向性を指し示せる情報を発信するとともに、論文投稿や学会発表に両病院とも積極的に取り組んだ。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> (中央市民病院)</p> <p>○学術支援センターにおいて研究立案から発表、論文作成に至る支援業務を実施し、臨床研修セミナーを開催した。</p>				
---	--	---	--	--	--	--

関連指標 (単位: 件, 平成 24 年度実績)		
項目	中央市民病院	西市民病院
治験実施件数	59	5
受託研究件数	162	66
臨床研究件数	113	25
論文掲載件数	166	44
学会発表件数	981	181

関連指標 (単位: 件, 平成 26 年度実績)		
項目	中央市民病院	西市民病院
治験実施件数	109	6
受託研究件数	178	34
臨床研究件数	140	20
論文掲載件数	225	18
学会発表件数	664	84

**【平成 28 年度実績】**

	業務内容	合計
研究計画立案支援	学術研究アドバイザー相談	71
基礎データ作成支援	研究用データ入力	2,457
	術野画像の取り出し・編集	2,501
研究発表支援	スライド作成	11
	ポスター作成	329
	挿入用イラスト作成	0
	挿入用動画編集	8
論文作成支援	英語論文翻訳校閲	119
その他	学会等主催データ入力	8,935
	学会研究会開催支援	2
	その他	50
講習会等の開催	臨床研修セミナー	12

関連指標 (単位: 件)

	項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	前年度比 (%)
中央市民病院	治験実施件数	117	124	106.0
	受託研究件数	205	212	103.4
	臨床研究件数	126	152	120.6
	論文掲載件数	205	238	116.1
	学会発表件数	762	860	112.9
西市民病院	治験実施件数	8	4	50.0
	受託研究件数	44	49	111.4
	臨床研究件数	16	20	125.0
	論文掲載件数	26	36	138.5
	学会発表件数	77	96	124.7

**第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置**

**3 安全で質の高い医療を提供する体制の維持**

**(1) 医療の質を管理することの徹底（クリニカルパス及び臨床評価指標の充実等）**

<b>中期目標</b>	より質の高い医療を提供するため、クリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）の充実と活用に積極的に取り組むこと。 また、電子化を推進し、並びにDPC（診断群分類別包括評価）による診療情報のデータを活用し、臨床評価指標などを設定し、及び分析することによって、医療の質の向上と標準化を図るとともに、患者に最適でより効果的な医療を提供すること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・質の高い医療を提供するため、クリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）、臨床評価指標及びDPC/PDPS（診断群分類に基づく1日当たり定額報酬算定制度）データ等を活用する。また、ICT化の促進等により、医療の質を継続的に管理できる体制を確立する。</p>	<p>・質の高い医療を提供するため、クリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）、臨床評価指標及びDPC/PDPS（診断群分類に基づく1日当たり定額報酬算定制度）データ等を活用する。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> （中央市民病院）</p> <p>○各診療科がクリニカルパスによる診療の評価やバリエーション分析を行い、診療内容を変更し、クリニカルパスの改定を行う</p> <p>○DPCを用いてコスト等の面からクリニカルパスを評価し、改善する。また、診療報酬改定による疾患ごと</p>	<p>・両病院において、クリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）、臨床評価指標及びDPC/PDPS（診断群分類に基づく1日当たり定額報酬算定制度）データ等を活用し、質の高い医療の提供に取り組んだ。</p> <p>・入院患者の在院日数を意識した病床運営を徹底するため、電子カルテ上でDPC入院期間を把握できるシステムに改善した。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> （中央市民病院）</p> <p>○クリニカルパスの運用と分析について、広報活動を強化するため、4月に前出講習会、5月にクリニカルパス推進委員への講習会を実施し、6月に医師へクリニカルパス運用の注意点をまとめた冊子を配布した。</p> <p>○平成28年度に分析を行うパスについて、各診療科へアンケート調査を実施するとともに、各所属のパス推進委員にクリニカルパス全大会の概要と委員の役割について説明を行い、アウトカム評価率の向上に取り組んだ（平成28年度実績：アウトカム評価率95.2%、前年度比+3.3%）。</p> <p>○電子カルテの更新時にアウトカムマスタを学会標準のものに移行するため、外部講師による講習会を10月に開催した。また、バリエーション入力に関するシステム改修を行い、アウトカムが未達成時にバリエーション入力が必要となるようにし、改修前のバリエーション登録率40.8%から85.8%に改善した。</p> <p>○クリニカルパス活動を活発に行い、日本クリニカルパス学会に7演題発表し、5演題が座長賞を受賞した。また、2月に開催したクリニカルパス大会に、過去最高の278名が参加し（18診療科が参加）、診療内容やパス改訂の評価など分析内容を深めた。</p> <p>○DPCデータを活用し、全診療科におけるクリニカルパス適応症例のコスト評価を継続して実施した。また、平成28年度の診療報酬改定を受け、利用回数の多いパスについて入院期間が適切であるか検証を行い、9月</p>	1	3		

<p>・医療機能評価の受審等，外部評価も積極的に活用し医療の質向上を図る。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>・ICT化による医療情報データベースを最大限に活用するとともに，診療情報を一元管理し，医療の質向上と経営の効率化を図る。</p>	<p>の入院期間の変更に対し，クリニカルパスの見直しを診療科に提案していく</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○院長ヒアリングや業務経営改善委員会等において，DPC分析を行い，改善提案等を各診療科に向けて積極的に行う</p> <p>○クリニカルパスについては，実状に合わせて追加・改定，及び削除を行い医療の質の標準化を進める</p> <p>・医療機能評価の受審等，外部評価も積極的に活用し医療の質向上を図る。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○病院機能評価並びに卒後臨床研修評価の更新時の評価項目を踏まえ，引き続き医療の質の向上に取り組んでいく</p> <p>○医療情報システムの内部監査を年1回行い，医療情報システム運用の安全性の向上を図る</p> <p>○診療録記載要綱に従って診療録監査要綱を改訂し，診療録監査要綱に従</p>	<p>に診療科へ提案を行った。</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○主要診療科についてDPC分析を行い，院長ヒアリングにおいて，改善提案を行うとともに，適切なコーディングを行うため，DPC保険対策委員会を毎月開催し，毎月の査定事例の詳細な検討や情報共有を行い，査定減対策を図った。また，包括から出来高となる薬剤や点数の改定，病名の付け方等，平成28年度診療報酬改定の要点について，医師に対し周知を行った。</p> <p>○クリニカルパス委員会を毎月開催し，現状の把握とパス適用率向上に向けた進め方について検討するとともに，医療職への積極的な働きかけや，使用されていないパスの利用促進，DPCデータを用いた疾患別パスの提案を引き続き行い，パスの適用率の向上に取り組んだ。また，医事課で傷病別の診療構造を分析し，パスに適用可能な症例については，新しいパス作成の参考資料として各診療科に提示した。</p> <p>○パスの円滑な利用促進のため，平成28年3月よりクリニカルパスマニュアルの見直しを行い，8月にパス未適用患者の入院時病名リストを作成し，新規パス作成の促進に取り組んだ。</p> <p>・両病院において，医療機能評価の受審等，外部評価も積極的に活用し医療の質向上を図った。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○平成25年11月に公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の更新審査を受け，すべての項目について概ね良好との講評を得て，平成26年3月に5年間の認定証の交付を受けた。また，平成27年度は，卒後臨床研修評価機構の更新書面審査を受審し，前回調査の指摘事項に関して，大部分は書面上改善されているとの講評を得て，平成28年度も引き続き，病院機能の維持向上に取り組んだ。</p> <p>○8月に監査内容，対象部署等を決定して計画書を作成し，医療情報システムの内部監査を実施し，指導項目に対する改善を指導した。監査結果については，3月に院長へ報告を行った。</p> <p>○4月に診療録記載要綱の全医師への配布，新規採用者・異動者への説明を行い，5月に平成28年度の取り組み課題を決定したうえ，7月に診療</p>				
---	---	--	--	--	--	--

	<p>い監査を行う</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○平成 25 年度に受審した病院機能評価の結果等の外部評価をもとに、必要な事項は改善し、医療の質向上に努める</p> <p>○卒後臨床研修評価の認定取得に向けて具体的に準備を進める</p> <p><b>【中央市民病院】</b></p> <p>・ICT化による医療情報データベースを最大限に活用するとともに、診療情報を一元管理し、医療の質向上と経営の効率化を図る。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○電子カルテを含む医療情報システムの更新基本計画を基に、平成 29 年度からの更新に向けての準備を進める</p> <p>○C I (臨床指標)・Q I (医療の質評価指標)について定期的な検討会で分析内容を検討した上で、改善策を講じ、改善結果をデータで確認する</p>	<p>録記載の注意事項をまとめて、院内周知を行った。11月に診療録の質的監査を実施した結果、すべての患者に必要な記録については改善が見られ、引き続き、診療録の質向上に取り組んでいく。</p> <p><b>(西市民病院)</b></p> <p>○公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を平成 26 年 2 月に受審し、平成 26 年 5 月に 5 年間の更新認定を受けた。また、療養環境の整備に加え、各職種が集まり事務処理面における課題についても点検・検討を重ね、感染対策マニュアル等の各種マニュアルの改訂を行うとともに、カルテの記載の仕方を統一する等の事務改善を図った。</p> <p>○NPO法人卒後臨床研修評価機構の認定施設登録について、平成 28 年 6 月 30 日に訪問調査を受審し、高い評価を受け、2 年の施設認定を受けた(平成 28 年 8 月 1 日～平成 30 年 7 月 31 日)。また、臨床研修の基本理念をベースに臨床研修プログラムの改訂及び診療科毎の研修プログラムの見直しを随時進め、引き続き臨床研修体制の向上に取り組んだ。</p> <p><b>【中央市民病院】</b></p> <p>・ICT化による医療情報データベースを最大限に活用するとともに、診療情報を一元管理し、医療の質向上と経営の効率化を図った。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○放射線部門(RIS・PACS・Report)のワーキング会議を組織して仕様書を検討し、9月の仕様書作成委員会で承認を受け、12月に入札を実施してシステムベンダを決定した。</p> <p>○電子カルテ等基幹システムの仕様書検討のため、ワーキング会議を組織し、電子カルテ主要3ベンダによるプレゼンテーション(6月)及びデモンストレーション(8月、9月)を実施するとともに、基幹システムのワーキングにより機能仕様書案をまとめ、基幹システムの調達方式として総合評価落札方式とすることを決定した(3月)。</p> <p>○C I (臨床指標)については、平成 27 年度の臨床指標結果を各診療科部長へ報告し、ホームページへの掲載指標を確認(4～5月)、CI検討会で公表指標の承認を得て、6月にホームページへの公表を行った。</p> <p>○Q I (医療の質評価指標)については、日本病院会及び全国自治体病院協議会の新規指標講習会に参加するとともに、Q I検討会(5月、7月、1月)で、病院独自で取り組んでいる各指標の確認、褥瘡に関する分析データの検討、感染管理に関する新規指標の報告、また、フィードバックデータの確認を行った。</p>				
--	--	--	--	--	--	--

<p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子カルテを中心とした総合的な医療情報システムを円滑に導入する。また、導入により医療の質向上と安全確保を図るとともに、患者へのきめ細かい情報提供や経営の効率化にも繋げる。</li> <li>電子カルテを中心とした医療情報システムの導入により有用な臨床評価指標を設定し、医療の質の改善及び向上を図る。</li> </ul>	<p>○診療補助や学術研究のために、診療情報を2次利用した院内開発を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療情報の共有化を進め、市関連病院をはじめとした地域医療機関とのさらなる連携を行う。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○市関連病院を中心とした医療情報システムの相互閲覧を検討する</p> <p>○医療クラスター内の医療機関との医療情報連携を検討する</p> <p><b>【西市民病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子カルテ及び部門システムを中心に院内ICT化を促進する。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○電子カルテの円滑な運用と医療情報システムの充実により、医療安全や患者サービスの向上、業務の効率化を図る</p> <p>○年1回以上情報セキュリティに関する研修を行うなど、情報セキュリティ対策を推進する</p> <p>○中央市民病院との連携を一層推進するため、カルテの相互閲覧等医療情</p>	<p>○診療現場の多様なニーズに柔軟に対応するため、診療情報データを活用したツールを院内で開発した(平成28年度実績:新規32件,改造27件)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市関連病院をはじめとした地域医療機関とのさらなる連携を行うため、医療情報の共有化について検討を行った。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○西市民病院との医療情報相互閲覧システムについて、6月に神戸市個人情報保護審議会において承認を受け、1月よりシステムを構築し、運用開始に向け準備を行った。</p> <p>○県立こども病院との医療情報相互閲覧システムを5月に構築し、詳細な運用の検討を行ったうえ、運用細則及び運用管理規程の整備を行った。また、10月に双方の小児科医師間で連携テスト実施し、両病院間で問題なく稼働することを確認したのち、対象診療科医師に対し、説明会を開催し、終了した診療科より本稼働とした。</p> <p><b>【西市民病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子カルテ及び部門システムを中心に院内ICT化の促進に取り組んだ。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○平成26年度末に電子カルテを導入し、平成27年1月に入院カルテ、3月に外来カルテをの運用を開始した。医療情報委員会や電子カルテ部会において、部門システムの新規導入や新たな機能を付与した更新、電子カルテとの連携強化についての必要性・優先順位を順次検討し、業務の効率化を図った。</p> <p>○リース期間の終了に伴い、12月に医療用画像管理システム(PACS)を更新し、データ移行や運用を円滑に行った。また、3月にバイタルサインの入力業務省力化や転記ミスの防止を可能とする通信機能付バイタルサイン測定機器を導入し、看護職員の患者ケアの時間を確保することで、安全な看護に繋がった。</p> <p>○情報セキュリティ対策については、平成26年度に策定した「情報セキュリティ関係規程集」を基に、情報セキュリティの強化を図った。また、患者の診療情報の漏洩を防ぐため、マニュアル作成や安全対策についての検討を開始し、院内での情報セキュリティ監査についても今後の実施計画を策定して順次実施した。</p> <p>○中央市民病院との連携を一層推進するため、カルテの相互閲覧について、システムを構築し、運用開始に向け準備を行った。</p>				
--	---	--	--	--	--	--



<p>報システムの連携を進める</p> <p>○引き続き臨床評価指標を更新するとともに、電子カルテ導入によるデータの蓄積状況を踏まえ、より有用な指標の設定に向けた検討を行う</p> <p>関連指標 (平成 24 年度実績)</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>中央市民病院</th> <th>西市民病院</th> </tr> <tr> <td>クリニカルパス数 (種類)</td> <td>308</td> <td>179</td> </tr> </table> <p>目標値 (実績値は平成 24 年度・目標値は毎年度)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">中央市民病院</th> <th colspan="2">西市民病院</th> </tr> <tr> <th>実績値</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> <tr> <td>クリニカルパス適用率 (%)</td> <td>55.6</td> <td>60.0以上</td> <td>46.7</td> <td>50.0以上</td> </tr> </table>	項目	中央市民病院	西市民病院	クリニカルパス数 (種類)	308	179	項目	中央市民病院		西市民病院		実績値	目標値	実績値	目標値	クリニカルパス適用率 (%)	55.6	60.0以上	46.7	50.0以上	<p>報システムの連携を進める</p> <p>○引き続き臨床評価指標を更新するとともに、電子カルテ導入によるデータの蓄積状況を踏まえ、より有用な指標の設定に向けた検討を行う</p> <p>関連指標 (平成 26 年度実績)</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>中央市民病院</th> <th>西市民病院</th> </tr> <tr> <td>クリニカルパス数 (種類)</td> <td>367</td> <td>203</td> </tr> </table> <p>目標値 (実績値は平成 26 年度・目標値は 28 年度)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">中央市民病院</th> <th colspan="2">西市民病院</th> </tr> <tr> <th>実績値</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> <tr> <td>クリニカルパス適用率 (%)</td> <td>59.9</td> <td>63.0以上</td> <td>49.8</td> <td>50.0以上</td> </tr> </table>	項目	中央市民病院	西市民病院	クリニカルパス数 (種類)	367	203	項目	中央市民病院		西市民病院		実績値	目標値	実績値	目標値	クリニカルパス適用率 (%)	59.9	63.0以上	49.8	50.0以上	<p>○患者数や病床利用率等の基本情報や退院患者統計データである臨床評価指標のホームページへの掲載を継続した。今後、電子カルテのデータの蓄積状況も踏まえ、より有用な指標の設定についても検討を行っていく。</p> <p>○診療データの遠隔保存のため、政府の健康・医療戦略等に基づくプロジェクトである「千年カルテプロジェクト」への参加を決定した。</p> <p>関連指標</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>平成 27 年度実績</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>前年度差</th> </tr> <tr> <td>中央市民病院</td> <td>クリニカルパス数 (種類)</td> <td>396</td> <td>445</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>西市民病院</td> <td>クリニカルパス数 (種類)</td> <td>209</td> <td>217</td> <td>8</td> </tr> </table> <p>目標値</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>平成 28 年度目標値</th> <th>平成 27 年度実績値</th> <th>平成 28 年度実績値</th> <th>目標差</th> </tr> <tr> <td>中央市民病院</td> <td>クリニカルパス適用率 (%)</td> <td>63.0 以上</td> <td>63.8</td> <td>62.6</td> <td>▲0.4</td> </tr> <tr> <td>西市民病院</td> <td>クリニカルパス適用率 (%)</td> <td>50.0 以上</td> <td>45.0</td> <td>47.7</td> <td>▲2.3</td> </tr> </table>		項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	前年度差	中央市民病院	クリニカルパス数 (種類)	396	445	49	西市民病院	クリニカルパス数 (種類)	209	217	8		項目	平成 28 年度目標値	平成 27 年度実績値	平成 28 年度実績値	目標差	中央市民病院	クリニカルパス適用率 (%)	63.0 以上	63.8	62.6	▲0.4	西市民病院	クリニカルパス適用率 (%)	50.0 以上	45.0	47.7	▲2.3				
項目	中央市民病院	西市民病院																																																																													
クリニカルパス数 (種類)	308	179																																																																													
項目	中央市民病院		西市民病院																																																																												
	実績値	目標値	実績値	目標値																																																																											
クリニカルパス適用率 (%)	55.6	60.0以上	46.7	50.0以上																																																																											
項目	中央市民病院	西市民病院																																																																													
クリニカルパス数 (種類)	367	203																																																																													
項目	中央市民病院		西市民病院																																																																												
	実績値	目標値	実績値	目標値																																																																											
クリニカルパス適用率 (%)	59.9	63.0以上	49.8	50.0以上																																																																											
	項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	前年度差																																																																											
中央市民病院	クリニカルパス数 (種類)	396	445	49																																																																											
西市民病院	クリニカルパス数 (種類)	209	217	8																																																																											
	項目	平成 28 年度目標値	平成 27 年度実績値	平成 28 年度実績値	目標差																																																																										
中央市民病院	クリニカルパス適用率 (%)	63.0 以上	63.8	62.6	▲0.4																																																																										
西市民病院	クリニカルパス適用率 (%)	50.0 以上	45.0	47.7	▲2.3																																																																										

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置

3 安全で質の高い医療を提供する体制の維持

(2) 医療安全対策及び医療関連感染（院内感染）対策の強化

<b>中期目標</b>	<p>医療の質の管理を徹底するため、引き続き組織として医療安全文化（医療職も患者と共に医療の安全について考えていくことで事故防止を目指す考え方）の醸成に努め、医療の全過程に関して、全ての職員が意識して、インシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した、患者に被害を及ぼすことはなかったが注意を喚起すべき事例）及びアクシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した、患者に傷害を及ぼした事例）に関する情報の収集及び分析を行い、その結果を反映させた上で、医療事故の予防及び再発の防止に取り組むなど、医療安全対策を徹底すること。</p> <p>また、医療関連感染（院内感染）についても、職員への教育及び啓発を徹底するなど、院内感染対策を確実に実践すること。</p>
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・全職員が患者の安全を最優先に万全な対応を行うことができるように、医師及び看護師等からなる医療安全管理室を中心に、医療安全に関する情報の収集及び分析を行い、医療安全対策の徹底及び医療安全文化（医療職も患者と共に医療の安全について考えていくことで事故防止を目指す考え方）を醸成する。</p>	<p>・全職員が患者の安全を最優先に万全な対応を行うことができるように、医師及び看護師等からなる医療安全管理室を中心に、医療安全に関する情報の収集及び分析を行い、医療安全対策の徹底及び医療安全文化（医療職も患者と共に医療の安全について考えていくことで事故防止を目指す考え方）を醸成する。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> （中央市民病院）</p> <p>○全職員年2回以上の医療安全研修の受講ができるよう計画的に研修企画を行う。講演会を含め、年間の計画を公表し、計画的に受講できるように働きかける</p> <p>○医療安全教育のためのケーススタディeラーニングをベースとした新しい機材の導入を図り、医療安全研修の一環とする</p> <p>○改定が必要なマニュアルに関しては医療安全管理会議等で討議し、決定事項について医療安全リーダーを通じて各部署の職員へ周知する</p>	<p>・両病院において、患者の安全を最優先に万全な対応がとれるよう、医師及び看護師等からなる医療安全管理室を中心に、医療安全に関する情報の収集及び分析を行い、医療安全対策の徹底及び医療安全文化の醸成に取り組んだ。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> （中央市民病院）</p> <p>○全職員が医療安全研修を年2回以上受講することを目標とし、研修を実施した。4月に新規採用者を中心に医療ガス講習会を実施（250名参加、）したほか、CVカテーテル挿入研修会（計4回実施、33名参加）、MRI高磁場体験（計3回実施、479名参加）等、医療安全に関する様々な研修会を年間通じて継続的に実施し、また、弁護士を招いた医療安全講演会を開催（204名参加）して、職員の医療安全に対する意識向上に取り組んだ。</p> <p>○eラーニング「safetyplus」を導入し、7月の医療安全リーダー会で使用方法を周知したうえ受講者の把握を行い、1項目受講することで医療安全研修1回受講とみなす運用を開始した（902名受講）。</p> <p>○各科当直マニュアル、精神科身体合併症病棟の行動制限運用マニュアル等の作成をしたほか、医療安全管理会議において必要時にマニュアル改訂を進めた。また、医療安全についての周知徹底を図るために、医療安全ニュースを適宜発行した。</p>	2	3		<p><b>【評価のポイント・評価委員意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インシデント報告件数が増えているが、病院の規模からすると、依然として物足りなく、今後も医療安全文化の醸成に引き続き取り組む必要がある。</li> <li>・医療事故調査制度に基づく報告については、医療者の理解促進も必要である。</li> <li>・中央市民病院の病床利用率は約94%と高率で、職員はおそらく多忙を極めていると考える。医療安全面でもこの状態は注視する必要があるのではないか。</li> </ul>

	<p>○医療安全文化に関するアンケートに関しては、医療安全文化の醸成を測るスケールとして考え、実施を検討する</p> <p>○医療安全のためのチームワーク推進活動である「TeaMSTEPPS」に関しては、研修の方法について検討し、実施していく</p> <p>○RRS（院内救急対応システム）を全部署で展開できるようになってきたため、院内CPAの発生件数等で評価し、今後の活動に繋げる</p> <p>○医療安全管理室・薬剤部との連携による院内講習会の開催により、医薬品適正使用の推進を啓発する</p> <p>○インスリン療法に関する研修を医師・看護師・薬剤師を講師として企画し、実施する</p> <p>○内服薬管理について、入院を機に内服薬の整理を薬剤師提案で管理していくことが出来ないか検討する</p> <p>（西市民病院）</p> <p>○医療安全集中管理ソフトを活用し、迅速な情報収集を図るとともに、分析にも努め、再発防止及び発生予防に取り組む</p> <p>○医療安全管理委員会を定期的を開催するとともに、要点を業務経営会議で報告することにより、各診療科・各部門に周知する</p>	<p>○平成 25 年、26 年と 2 年連続してアンケート調査を実施したため、平成 27 年度及び平成 28 年度は大きな変化はないと判断して実施しなかった。今後も状況を鑑み調査の判断をしていく。</p> <p>○平成 27 年度は 1 日研修で行っていたが、平成 28 年度は内容を 3 分割して 1 回 60～75 分で研修を企画し、初期研修医 1 年目には必須研修として実施し、チーム医療の推進を図った。</p> <p>○院内全体へRRS（院内救急対応システム）の導入を進め、毎月のフィードバックの会を継続して開催し、患者急変時の問題点等議論したうえで、必要時は医療安全管理会議の議題とし、患者の安全につなげた。また、RRS フィードバックの会の結果は医療安全管理会議で報告し、院内CPAの件数、RRS 起動件数等データを収集する各部署のブラッシュアップの研修を行い、質の担保と向上を図った。院内CPA発生件数は低い数値であり（H26 年度 30 件、H27 年度 15 件、平成 28 年度 26 件）、RRS 導入効果が出ていると判断できる（RRS 起動件数 84 件）。</p> <p>○11 月の医療安全リーダー会において、「眠剤について」の院内講演会を実施し、医薬品適正使用の推進に取り組んだ。</p> <p>○糖尿病内科医師、薬剤部、看護部が連携し、メディカルスタッフを対象にインスリンに関する講習会を実施した（計 3 回実施、531 名参加）。</p> <p>○平成 28 年度診療報酬改定において、入院患者に対して処方内容を総合的評価したうえで調整し、薬剤数の減少を伴う指導を行った場合の評価として、薬剤総合評価調整加算が新設され、4 月からの算定について、ほぼ全て薬剤師が介入し、合計 67 件算定された。今後は医療安全管理部と連携し、電子カルテの処方提案機能を用いたポリファーマシー対策に取り組んでいく。</p> <p>（西市民病院）</p> <p>○医療安全集中管理ソフト「セーフマスター」を継続して活用し、迅速な情報収集を行うとともに、週 1 回の医療安全管理室での事例検討会において、インシデント・アクシデントに関して討議し、情報共有等を行った。また、医療安全対策専従看護師を中心に、医療安全管理室メンバーによるインシデント・アクシデント調査・分析を実施した。</p> <p>○医療安全管理委員会を月 1 回定期的に開催するとともに、その要点を業務経営会議で詳細に報告することにより、各診療科・各部門にも周知を行った。</p>				
--	---	--	--	--	--	--

<p>・院内で発生したインシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した，患者に被害を及ぼすことはなかったが注意を喚起すべき事例）及びアクシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した，患者に傷害を及ぼした事例）についての報告を強化し，その内容を分析することにより再発防止に取り組む。</p>	<p>○病院職員全体を対象とした，医療安全研修会を実施する</p> <p>・院内で発生したインシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した，患者に被害を及ぼすことはなかったが注意を喚起すべき事例）及びアクシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した，患者に傷害を及ぼした事例）についての報告を強化し，その内容を分析することにより再発防止に取り組む。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> （中央市民病院）</p> <p>○医療安全ニュースや注意喚起文を発行するとともに，他病院での医療事故報道も含め，関連事項に関する研修会を企画し，実施する</p> <p>○提出されたレポートについて，カルテ記録，指示内容などを確認して対応するとともに，必要時は事実確認を行うため現場視察により，問題点を明確にしたうえで，毎朝の医療安全ミーティングで改善策を検討し実施する</p> <p>○アクシデント報告については，報告会を開催し，医療過誤の有無，改善対策について検討する</p> <p>○院内事故調査制度について，中央市民病院医療安全会議で決定した院内事故調査の方針に基づいて，院内全死亡例に対して対応する （西市民病院）</p>	<p>○病院職員全体を対象に，アナフィラキシーショック，人工呼吸器の取り扱い，平成 27 年度インシデント報告の現況，MR 講習会等のテーマで，医療安全研修会を定期的に開催（年 19 回）し，情報共有を行う等，積極的な医療安全対策に取り組んだ。</p> <p>・両病院においてインシデント及びアクシデントについての報告を強化しその内容を分析することにより再発防止に取り組んだ。また，平成 28 年度は特に，両病院とも医師からのインシデント報告件数を増やすため，インシデント報告の必要性について周知徹底をして報告促進に取り組んだ。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> （中央市民病院）</p> <p>○医療安全に関する検討会を 238 回実施し，ヒヤリ・ハット，インシデント，アクシデントについて検討を行い，医療事故調査について 13 件報告をした。また，包括公表を行った「移乗介助時の骨折」に関連し，移乗介助の方法だけでなく，患者がどこまで動けるか，そのような介助が必要かをアセスメントできるよう，「移乗介助」の研修を実施した。</p> <p>○看護部を中心にインシデントレポートに対する KYT や SHELL 分析を行い，インシデントレポートの内容を部署で共有し，対策を講じた。また，医療安全ミーティングにおいて，カルテ記録を確認し，医師の指示，指示コメント，看護記録等インシデント報告になる内容の確認を行い，看護計画や転倒転落アセスメント等を確認してからコメントを入力し，必要時は医療安全管理室がコメントを確認した。（平成 28 年度実績：インシデント KYT338 件，SHELL 分析 3 件）</p> <p>○アクシデント及びインシデント事例から，看護部 4 部署に対して，車いすへの移乗動作に関する基本的介助方法について理学療法士から実技も交えた研修の実施や，日帰りの検査・手術に関しては胸部レントゲン・心電図を実施しないことを決定する等，運用の改善を随時行った。</p> <p>○院内死亡事例について，全例医療安全管理室で入院から死亡退院までの診療録を 1 次検証として確認を行い，その中で 2 次検証が必要な事例（平成 28 年度実績：12 例）に関しては，検証会を実施した。事故調査の対象（1 件）については，外部調査委員を交え，事故調査委員会を実施した。 （西市民病院）</p>			
--	---	---	--	--	--

<p>・医療事故が発生した場合には、公表基準に基づき公表し、信頼性と透明性を確保する。</p> <p>・感染管理医師、感染管理看護師を中心に、感染に関する情報発信を積極的に行うとともに、複数の医療職から構成する感染対策チームによる院内ラウンドを実施し、院内での感染状況の評価や感染対策活動を積極的に行う。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>・研修や講演会を適宜実施し、院内すべての従事者に対して医療安全と感染症及び感染防止に関する正しい知識の維持向上を図る等、教育を充実する。また、医療事故の再発防止や院内感染の予防対策が確実に実行できるように体制を強化する。</p>	<p>○安全管理ニューズレターを発行し、職員に周知することにより、有害事象の共有化、再発防止、予防の徹底を行う</p> <p>・医療事故が発生した場合には、医療事故調査制度に基づき適切な対応を取るとともに、公表指針に基づき公表し、信頼性と透明性を確保する</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○公表にあたっては、引き続き外部委員、中央、西、西神戸医療センター及び先端医療センターを交えた市民病院群医療安全会議において検討を行い、信頼性と透明性の確保に努める</p> <p>・感染管理医師、感染管理看護師を中心に、感染に関する情報発信を積極的に行うとともに、複数の医療職から構成する感染対策チームによる院内ラウンドを実施し、院内での感染状況の評価や感染対策活動を積極的に行う。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○専任の医師及び専従看護師を配置した感染管理室やリンクナースを中心に、効率的な感染対策への取り組みを進める</p> <p>○標準予防策、接触感染対策を全職員が実践できるように研修を行い、感染情報を全職員と共有し、耐性菌の検出率を減少できるように、体制を整える</p>	<p>○安全管理ニューズレターを適宜発行（平成28年度実績：22回発行）し、有害事象の共有化、再発防止、予防の徹底を図った。</p> <p>・医療事故が発生した場合には、公表基準に基づき公表し、信頼性と透明性の確保に取り組んだ。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○四半期ごとに市民病院群医療安全会議を実施し、公表基準に基づき、医療事故について公表を行った（包括公表計2件（中央市民病院））。また、平成27年11月には、更に医療の安全性を高めるため公表基準を改定し、公表指針を策定した。</p> <p>・両病院において、感染管理医師、感染管理看護師を中心に、研修会や各種会議、院内メール等を活用し、感染に関する情報発信を積極的に行うとともに、複数の医療職から構成する感染対策チームによる院内ラウンド等を実施し、院内での感染状況の評価や感染対策活動を積極的に行った。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○感染管理専従看護師（ICN）を2名配置し、感染予防教育、各種サーベイランス（手術部位感染、血流感染、人工呼吸器関連感染、尿路感染、手指消毒使用量と遵守率調査等）と対策立案、感染症の発生事例対応等を行い、効率的な感染対策への取り組みを進めた。</p> <p>○各々の職種に対して感染管理研修を実施し、ケア前後の手指衛生や適切な防護具の着用及び着脱、針刺し・血液曝露対策等の感染管理教育を実施した。また、看護部感染対策委員会を通じてリンクナースの教育を行い、毎月テーマを決めて講義を実施し、リンクナース、管理職を対象に知識確認テストを行った。</p> <p>○ICTメンバーによるラウンドを実施したほか（1回/週）、サーベイランスラウンドを実施し（2回/週）、薬剤耐性菌、術後創部感染、血流感染、人工呼吸器関連肺炎、尿路感染の発生率とアウトブレイクの早期発</p>				
--	---	---	--	--	--	--

	<p>【中央市民病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品及び医療機器の安全確保のため、安全に関する情報の的確な提供・管理体制の充実を図る。また最新の医療薬学に基づいて患者中心の医療に沿った薬物治療を提供するとともに、職種間の連携を図りながら、医薬品適正使用の推進と医療の安全性の向上を図る。</li> </ul>	<p>見を図った。サーベイランス結果については、関係部署にフィードバックを行ったほか、必要に応じて関係部署に介入を行い、運用の確認や指導を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平成 28 年度は、特に粘膜曝露対策や、予防可能な曝露事例の減少に取り組む、針刺し・切創、血液曝露件数が 87 件と昨年と比較して 13 件減少した。今後も発生件数ゼロを目指し、予防可能な事例を減らしていく。</li> </ul> <p><b>（西市民病院）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○感染管理認定看護師（C N I C）の専従配置を継続するとともに、感染制御医師（I C D）を室長とする感染管理室を中心に、耐性菌対策、流行性疾患対策等に取り組んだ。I C D、C N I C、薬剤師、臨床検査技師による院内ラウンドを週 1 回実施するとともに、手指衛生のタイミングラウンド（週 2 日）や輸液調剤・薬品管理ラウンド（月 6 回）、胃腸炎やインフルエンザ等の有症状者ラウンドを適宜実施した。また、平成 28 年度より薬剤耐性菌検出時の細菌検査室からの F A X 通知を開始した。</li> <li>○厚生労働省の院内感染対策サーベイランス事業（全患者部門及び検査部門）に参加し、国内の耐性菌検出における西市民病院の位置と傾向についての把握を行った。</li> <li>○ニューズレターを発行し、院内感染に係わる情報や治療に必要な最新の情報を発信し、継続して最新の情報提供を行った（平成 28 年度実績：発行回数 16 回）。</li> <li>○職員感染対策については、新生児採血における安全機構付針の導入や、肺結核塗抹陽性患者の対応、職員が発症した流行性角結膜炎の対応を行い、伝播防止に取り組んだ。</li> <li>○感染制御のための知識・技術の周知を図るため、院内を対象とした研修会及び院外も対象に含めたオープンカンファレンスを実施（平成 28 年度実績：実施回数：33 回、延参加人数：1,501 人）したほか、必要に応じて部署ごとに講習会を実施した。</li> </ul> <p><b>【中央市民病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品情報管理室（D I 室）では、最新情報の収集・評価に努め、院内に最新の医薬品情報提供を行った。</li> </ul>				
--	---	---	--	--	--	--

<p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器の計画的更新及び保守による安全管理の徹底と医療機能の確保を図るとともに、薬剤師の病棟配置による医薬品処方、調剤及び与薬における安全管理を徹底する。</li> </ul>	<p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○薬剤部D I (医薬品情報) 業務の充実を図り、院内への医薬品情報(医薬品安全性情報、副作用情報等)提供を行う。また、院内で発生した副作用情報については、引き続き迅速に情報収集し、医薬品医療機器総合機構(PMDA)への報告を行う</li> <li>○各病棟に薬剤師を常駐させ、入院患者に対する持参薬の確認等を行うことで、適正な薬物治療実施のサポートに努める。また、集中治療室、救急部門を含めた全病棟で薬剤管理指導のより一層の充実に努め、安全性の向上を図る。さらに、各病棟の担当薬剤師を固定化することで病棟スタッフとのコミュニケーションや患者の病態把握を充実させ、処方提案を実践する</li> <li>○薬剤師は手術室・デイサージャリーセンター等の中央診療部門において、麻薬、麻酔薬、向精神薬を管理し、麻酔医の負担軽減や適正な在庫管理を行う</li> <li>○薬剤師は外来がん患者に対する医師診察前予診による服薬支援等、薬剤師外来を活用した患者指導の充実を図ることで、抗がん剤投与に伴う安全性の確保に努める</li> </ul> <p><b>【西市民病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機器の計画的更新及び主要機器の保守等、安全管理の徹底と医療機能の確保を図る。また薬剤師の病棟配置による医薬品処方、調剤及び与薬における安全管理を徹底する。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全病棟への病棟薬剤師の配置を継続し、病棟での薬物治療の安全管理を</li> </ul>	<p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○医薬品情報管理室(D I室)では、PMDAメディアナビや各製薬会社からの最新の情報を収集し、必要に応じて病棟薬剤師や院内スタッフに情報提供を行うとともに、院内スタッフからの医薬品に関する問い合わせに対応した。また、院内で発生した副作用情報については、薬事法に従い医師と協力して報告を行った(平成28年度実績:PMDAメディアナビからの情報収集件数231件、院内スタッフからの医薬品に関する問い合わせ件数3,093件、PMDAまたは製薬企業への情報提供25件)</li> <li>○全病棟に専任の薬剤師が常駐して病棟薬剤業務を継続実施するとともに、手術室に専任の薬剤師を常駐させ医薬品の安全管理に取り組んだ。さらに、外来においても薬剤師外来を設け、患者指導や副作用マネジメントを実施した。(平成28年度実績:入院前準備センターでの対応件数3,589件、病棟服薬指導件数25,245件、退院時指導件数5,103件、(薬剤師外来:内服薬確認外来693件、デイサージャリー2,110件))</li> <li>○手術室にサテライトファーマシーを設置して薬剤師が常駐し、麻酔薬、筋弛緩薬、向精神薬の入ったリアルタイム薬品管理装置をすべての手術室に導入し、常時薬品管理を行った。(平成28年度手術室サテライトファーマシー業務量実績:手術件数13,458件、麻酔科関与(麻薬件数)6,668件、関与率49.5%)</li> <li>○薬剤師外来及びがん患者指導管理料の算定を継続し、支持療法に関する処方提案をはじめ、患者の精神的なフォローを実施し、外来経口抗がん剤治療の安全性、有効性の向上に寄与した(平成28年度がん患者指導管理料3算定件数:658件、前年度比+61件)。</li> </ul> <p><b>【西市民病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な医療機器の保守契約等を徹底し、定期点検や故障時の至急対応を行い、安全管理の徹底を図った。また、医療機器の計画的な更新を行うため、病院全体の医療機器全般において、故障や修理の状況等、臨床工学技士や医師から頻りに情報を収集し、医療機能の確保を図った。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全病棟への薬剤師の配置を継続し、薬剤師から医師への処方提案を行い、医薬品の適正使用に寄与する等、医療安全・患者サービスの</li> </ul>			
--	---	--	--	--	--

徹底するとともに、患者サービスを向上させる

○注射薬について、患者個人毎・1施用毎の払い出しを継続するとともに、患者誤認や投薬誤りを防止する三点認証システムの円滑な運用を継続する

○「入院前お薬確認外来」を開設し、入院前に常用薬のチェックを行うことで、より安全な医療を提供する

関連指標 (平成 24 年実績値)

項目	中央市民病院	西市民病院
医療安全委員会等開催回数(回)	12	12
医療安全研修等実施回数(回)	17	5
インシデントレポート報告件数(件)	3,594	1,129
うちアクシデントレポート報告件数(件)	14 (47) ※	8
感染症対策委員会等開催回数(回)	12	12
感染管理チームラウンド回数(回)	週1回(対象菌発生時にはその都度実施)	49
感染管理研修等実施回数(回)	5	2

※ ( ) 書きは合併症(検査や治療に伴って、ある確立で不可避に生じる病気や症状)を含む。

向上に積極的に取り組んだ。また、病棟での医薬品管理を徹底するため、患者の処方・注射の内容確認から薬の実際の使用についても注意し、病棟での薬物治療の安全性を高めた。

○注射薬の払い出しについて、患者個人毎・1施用毎の払い出しを継続し、週末も含めて毎日行うことで病棟での注射薬混合の安全性を高めた。また、電子カルテの運用開始に伴い、注射薬払出における患者誤認や投薬誤りを防止するため、患者・看護師・注射薬を照合する三点認証システムによる運用を継続して行った。

○平成 28 年 3 月より、抗凝固剤など手術前に中止すべき薬剤を入院前にチェックし、予定手術の延期を防ぐとともに、入院後の服用薬の安全管理をより高めるため、薬剤部にて「入院前おくすり確認外来」の運用を外科と泌尿器科で開始し、8 月より消化器内科、3 月より整形外科へ順次拡大した。

関連指標 (平成 26 年実績値)

項目	中央市民病院	西市民病院
医療安全委員会等開催回数(回)	12	12
医療安全研修等実施回数(回)	107	22
インシデントレポート報告件数(件)	4,105	1,630
うちアクシデントレポート報告件数(件)	31 (43) ※	8
感染症対策委員会等開催回数(回)	12	12
感染管理チームラウンド回数(回)	週1回(対象菌発生時にはその都度実施)	51
感染管理研修等実施回数(回)	16	16

※ ( ) 書きは合併症(検査や治療に伴って、ある確立で不可避に生じる病気や症状)を含む。

向上に積極的に取り組んだ。また、病棟での医薬品管理を徹底するため、患者の処方・注射の内容確認から薬の実際の使用についても注意し、病棟での薬物治療の安全性を高めた。

○注射薬の払い出しについて、患者個人毎・1施用毎の払い出しを継続し、週末も含めて毎日行うことで病棟での注射薬混合の安全性を高めた。また、電子カルテの運用開始に伴い、注射薬払出における患者誤認や投薬誤りを防止するため、患者・看護師・注射薬を照合する三点認証システムによる運用を継続して行った。

○平成 28 年 3 月より、抗凝固剤など手術前に中止すべき薬剤を入院前にチェックし、予定手術の延期を防ぐとともに、入院後の服用薬の安全管理をより高めるため、薬剤部にて「入院前おくすり確認外来」の運用を外科と泌尿器科で開始し、8 月より消化器内科、3 月より整形外科へ順次拡大した。

関連指標

	項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	前年度比 (%)
中央市民病院	医療安全委員会等開催回数(回)	12	12	100.0
	医療安全研修等実施回数(回)	105	167	159.0
	インシデントレポート報告件数(件)	4,798	5,106	106.4
	うちアクシデントレポート報告件数(件)	15(20)	10(19)	66.7(95.0)
	感染症対策委員会等開催回数(回)	12	12	100.0
	感染管理チームラウンド回数(回)	週1	週1	
	感染管理研修等実施回数(回)	80	71	88.8
西市民病院	医療安全委員会等開催回数(回)	12	12	100.0
	医療安全研修等実施回数(回)	16	19	118.8
	インシデントレポート報告件数(件)	1,617	1,784	110.3
	うちアクシデントレポート報告件数(件)	6	6	100.0
	感染症対策委員会等開催回数(回)	12	12	100.0
	感染管理チームラウンド回数(回)	51	61	119.6
	感染管理研修等実施回数(回)	34	33	97.1

※ 1 ( ) 書きは合併症(検査や治療に伴って、ある確立で不可避に生じる病気や症状)を含む。 ※ 2 対象菌発生時にはその都度



**第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置**

**3 安全で質の高い医療を提供する体制の維持**

**(3) 法令及び行動規範の遵守（コンプライアンス）の徹底**

<b>中期目標</b>	市民病院としての使命を適切に果たすため、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）をはじめとする関係法令を遵守することはもとより、個人情報の保護や情報公開に関しては本市の条例に基づき適切な対応を行うなど、行動規範と倫理を確立し、社会的信用を高めることで、市民から信頼される病院となるよう努めること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民病院としての使命を適切に果たし、市民からの信頼を確保するために、職員一人ひとりが医療提供者であるという意識を持ち、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）をはじめ市の条例が適用される個人情報保護や情報公開等も含めた関係法令の遵守を徹底する。</li> <li>法令及び行動規範遵守の重要性を全職員が認識及び実践するため、院内における職場研修を定期的実施し周知徹底を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民からの信頼を確保するために、職員一人ひとりが医療提供者であるという意識を持ち、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）をはじめ市の条例が適用される個人情報保護や情報公開等も含めた関係法令の遵守を徹底するため、院内における職場研修を定期的実施し周知徹底を図る。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コンプライアンス推進本部を中心に、コンプライアンスの取り組みを強化していく</li> <li>○コンプライアンスの重要性を全職員が認識・実践することを目的として、職場内研修や新規採用職員研修・フォローアップ研修等の各階層における研修において、コンプライアンスや服務事故防止策等を取り入れた研修を実施する</li> <li>○監事や会計監査人による監査に適切に対応するとともに、自主監査の強化として、内部監査や情報セキュリティに関する監査を実施する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員一人ひとりが関係法令の遵守を徹底するため、院内における職場研修を定期的実施し周知徹底を図った。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コンプライアンス推進本部会議を 4 月に開催し、平成 27 年度の取組状況について報告を行うとともに、自主監査の強化等、平成 28 年度の取り組み方針を決定した。</li> <li>○コンプライアンスの重要性を全職員が認識・実践するために、新規採用職員研修、中堅職員研修、フォローアップ研修、主任看護師研修、看護師長研修、採用 3 年次研修及び全職場において、コンプライアンス研修を実施した。</li> <li>○平成 27 年度決算監査については、法令に基づく会計監査人による監査及び監事監査規程に基づく監事による会計監査等を実施し、概ね適正との結果を 6 月の理事会で報告を行った。今後も、引き続き適正な業務執行に努めていく。</li> <li>○情報セキュリティについては、第 1 回情報セキュリティ委員会（7 月）において、情報セキュリティ監査の実施計画を決定し、両病院及び法人本部において情報セキュリティ監査を実施した。また、情報セキュリティへの意識を高めるため、集合研修を開催した。</li> <li>○4 月に両病院及び法人本部の自主監査（決算監査）を実施し、9 月から 10 月にかけて講評を行うとともに、3 月に期中監査を実施した。</li> </ul>	2	3		

**第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置**

**4 市民及び患者とともに築くやさしい病院**

**(1) 患者のニーズに応じたサービスの提供**

<b>中期目標</b>	患者のニーズを適切に把握し、インフォームド・コンセント（患者が自ら受ける医療の内容に納得し、及び自分に合った治療法を選択できるよう、患者への分かりやすい説明を行った上で同意を得ること。）や診療等の待ち時間対策などを実施するとともに、誰もが利用しやすい病院となるよう環境を整備するなど患者及びその家族の立場を踏まえ、患者に対するサービスの向上に努めること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・患者満足度調査や意見箱に寄せられた意見等により患者ニーズを把握し、必要な改善を適宜行い、ボランティアとも連携し、患者の視点に沿った病院づくりを進める。</p>	<p>・患者満足度調査等の実施により患者ニーズを把握し、必要な改善を適宜行い、ボランティアとも連携し、患者の視点に沿った病院づくりを進める。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> （中央市民病院）</p> <p>○病院スタッフの接遇や療養環境などに対する患者満足度の現状把握及び改善すべき事項の抽出を行う</p> <p>○意見箱の設置や退院時アンケートから患者ニーズを把握し、サービス向上に努める</p> <p>○引き続き、入院前検査センターでの入院オリエンテーション、入院時のリスク評価の実施による患者への安心感・安全性の向上に努めるとともに、社会的背景の確認による早期の患者支援を図る</p> <p>○増築による外来スペースの拡張により、外来の混雑緩和、プライバシーの向上、専門外来の設置を行い、患者サービスの向上を図る</p>	<p>・患者満足度調査の実施や、意見箱を引き続き設置することで、来院者からの要望・意見等の把握に取り組むとともに、院内全体にも情報共有し、患者の視点に沿った病院づくりのため改善を図った。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> （中央市民病院）</p> <p>○9月に患者満足度調査及び待ち時間調査を実施し、病院スタッフの接遇や療養環境等に対する患者満足度の現状把握及び改善すべき事項の抽出を行った。</p> <p>○意見箱を引き続き設置（平成28年度投稿件数：516件）するとともに、入院患者全員に「退院時アンケート」を実施し、患者のニーズ把握等に取り組んだ。また、患者満足度向上の一環として、接遇月間マナーを決め、病院全体で取り組んだ。</p> <p>○標準医療の実施による計画的な病床運用を目的とした入院前準備センターを機能させるため、看護師、薬剤師、MSW、管理栄養士等が連携し、リスクを有すると判断される患者に積極的に介入し、入院までに患者が問題解決できるよう支援した。また、10月に入院前準備センターを医局の跡地に移設することで、プライバシーの向上を図り、同じエリアに病状説明外来を新たに設置して、スムーズな流れで病状説明ができるよう改善した。</p> <p>○北館及び研修棟の増築（8月供用開始）により、外来診療のニーズに見合う外来待合スペース、外来診察室を確保するとともに、インフォームド・コンセント充実のため十分な説明室を確保し、専門外来も含めて十分な診療体制を組み、患者サービスの向上を図った。また、6月に入退院受付と紹介窓口の壁を撤去して待合スペースを一体化し、混雑緩和を図り、窓口を3ブースから5ブースに拡げた。</p> <p>○12月より、入院前準備センターの跡地に保険証窓口を移設し、総合受付</p>	2	3		

<p>・患者やその家族が院内で快適に過ごすことができるよう、総合的な待ち時間対策や療養環境の向上、安全かつ良好で食生活の改善に繋がる入院食の提供、安らぎと楽しみを与えられる取り組みの実施等、患者サービスの向上を図る。</p>	<p>(西市民病院)</p> <p>○引き続き、ボランティアとの意見交流会を定期的実施し、患者ニーズの把握を行い、必要な改善を行う</p> <p>・患者やその家族が院内で快適に過ごすことができるよう、総合的な待ち時間対策や療養環境の向上、安全かつ良好で食生活の改善に繋がる入院食の提供、安らぎと楽しみを与えられる取り組みの実施等、患者サービスの向上を図る。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○携帯端末を用いた呼び出しシステムによる待ち時間の有効活用及び自動精算機による会計待ち時間の短縮を推進する。特にFAX紹介の新患を優遇し、待ち時間のないように調整するとともに、引き続き外来の待ち時間調査を実施し対策を検討する</p> <p>○FAX予約については、地域医療機関の要望に沿えるよう受け入れの円滑化に努める。また、FAX予約患者への優遇措置の充実に取り組み、FAX予約の利用を地域医療機関に働きかける</p> <p>○増築により待合スペースを広げ、BGMを流すなど外来環境を向上させ、待ち時間を快適に過ごせるための対策を進める</p> <p>○入院食の内容の充実や選択食の認知度・選択率の向上に向けた取り組みを行い、入院食事アンケートの満足度の向上を図る</p>	<p>内の混雑緩和を図るとともに、患者待合スペースに椅子を増設した。</p> <p><b>(西市民病院)</b></p> <p>○ボランティア調整会議を3か月に1回定期的に開催して意見交換を行い、患者ニーズの把握に取り組んだ。また、外来看護担当マネージャー及びフロアマネージャーが、ボランティアに参加された方々の意見を随時聴取することで、さらなる患者サービスの向上を図った。</p> <p>・両病院において、総合的な待ち時間対策や療養環境の向上、安全かつ良好で食生活の改善に繋がる入院食の提供、安らぎと楽しみを与えられる取り組みの実施等、患者サービスの向上に引き続き取り組んだ。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p><b>(中央市民病院)</b></p> <p>○外来患者待ち時間調査を9月に実施し、現状の把握を行うとともに、待ち時間のより一層の短縮及び外来の混雑緩和に向け検討を行った。外来の混雑緩和策として、診察及び採血の受付開始時間を15分早め外来予約枠の見直しを継続した。また、FAX予約による待ち時間の短縮を周知するため、広報ポスターを掲示するとともに、待ち時間を有効活用できるよう、デジタルサイネージを外来に3箇所設置し、2月より運用を開始した。</p> <p>○FAX予約患者はできるだけ待ち時間なく診察が受けられるよう優遇措置を徹底し、FAX予約の積極的な利用を地域医療機関に働きかけた。また、FAX予約の簡便な申込み(予約申込時の記載省略、仮予約)について改めて周知徹底するため、広報チラシの作成やホームページでの掲載を行い、病院ニュースへの推奨記事の掲載と地域連携懇話会の参加者への説明を行った。(平成28年度実績：FAX予約件数15,967件、前年度比106.2%)</p> <p>○増築により、外来診療のニーズに見合う外来待合スペースを確保するとともに、1,2階外来部門・4階手術部門の待合で平日8時から20時にBGMを流す運用を継続した。</p> <p>○満足度の向上を図るため、11月に病院給食状況調査を実施し、前回(平成26年度)に比べ、主食・副食の味について改善がみられた。(平成28年度選択食選択率3.5%、特別食加算率27.6%)</p>				
--	--	---	--	--	--	--

	<p>○特別治療食の必要な患者には適正な治療食を喫食し、治療効果につなげ、また特別食加算の算定増を目指す。さらに特別治療食を提供している患者に栄養指導を実施していく</p> <p>○引き続き、小児病棟において、病棟保育士やボランティアを活用することにより、親子ともに入院生活を過ごしやすいとする等、療養環境の向上を図る</p> <p>○入院前検査センターにおいて、必要に応じて管理栄養士が栄養食事関連（食物アレルギー含む）の情報を確認し、入院後の食事内容や栄養管理に反映するとともに、栄養不良の患者に早期介入を行う (西市民病院)</p> <p>○総合案内機能を継続し、どの診療科を受診して良いか分からない患者へのアドバイス、患者が多い時のきめ細かい対応等を行う</p> <p>○院内コンサートや夏まつりの継続開催等による、やすらぎの提供のほか、患者サービスの向上を図る</p> <p>○入院食事アンケートの結果も踏まえ、引き続き、選択食等の入院食の内容を充実させる等、入院食の満足度の向上を図る</p>	<p>○医事課や入院前準備センター師長等と特別食加算算定のための病名入力について調整を行い、入院前準備センターでの病名確認を強化するため、栄養管理部に連絡をもらい、カルテに病名入力がない場合は、栄養管理部から主治医へ依頼し、病名の入力があれば、適切な治療食に変更するよう改善を図った。また、加算率増加のため、病名と食種の関連を示した「病名ガイド」を作成し、情報発信した。</p> <p>○小児病棟において、ボランティアの活用により、おはなし会、マジック、腹話術等を引き続き毎月1回程度開催するほか、夏祭りやハロウィンパレード等、季節ごとのイベントを行い、療養環境の向上を図った。</p> <p>○入院前準備センターに管理栄養士がオンコールにて出務し、食物アレルギーの摂取食品の範囲の確認、治療食の内容の確認、ヨード制限食等入院までに必要な食事指導等を行い、入院時の適切な食事提供、栄養不良者への早期介入と退院支援に取り組んだ。</p> <p><b>(西市民病院)</b></p> <p>○外来看護担当マネージャー（外来患者の診察に関するアドバイス等）、フロアマネージャー（案内や苦情の対応）、医事課職員の配置を継続し、苦情や質問にきめ細かく対応できるよう体制を強化し、総合案内機能の充実を継続した。</p> <p>○入院患者やその家族等を対象として、合唱や演奏会等の院内コンサートを7回開催した。また、7月には恒例の夏祭りを開催し、約150名が参加した。さらに、患者へのやすらぎの提供と病院の魅力向上のため、緑化リニューアルを行った6階庭園や1階周りの植栽について、ボランティア等の協力を得ながら、継続的に管理を行った。</p> <p>○栄養サポートチーム（NST）において、勉強会及びコアスタッフミーティングを毎月1回開催し、栄養管理の観点からの治療向上に向けての検討を行った。また、医師がオーダーしやすいよう医療情報端末での注意喚起や、栄養管理室が中心となって入院患者の既往歴に応じた適切な特別食の提供を行う等、栄養サポートチーム加算の取得に積極的に取り組んだ（平成28年度実績：459件）。</p> <p>○病院食は治療効果を高め、退院後の参考にもなることから、特に特別食を喫食している入院患者への病棟での栄養指導に取り組み、外来患者に対しても、栄養指導の予約枠や小児食物アレルギーに対する指導枠を順次拡大した。また、入院時食事療養費の患者負担引上げを受け、給食委託業者と協力して、8月より選択食の対象食種を成</p>				
--	--	--	--	--	--	--

<p>・「患者の権利章典」の下、患者中心の医療を常に実践し、インフォームド・コンセントを徹底するとともに、引き続きセカンドオピニオンについても対応する。</p> <p>・患者の利便性がより向上するよう、病院へのアクセス改善や国際化の進展による多言語への対応等、だれもが利用しやすい病院づくりを行う。</p>	<p>・「患者の権利章典」の下、患者中心の医療を常に実践し、インフォームド・コンセントを徹底するとともに、患者自身が医療方針を適切に自己決定できるように支援する。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> (中央市民病院)</p> <p>○患者が治療の不安を解消しながら、「かかりつけ医」を持てるよう、患者サポートセンターを立ち上げ、「かかりつけ医相談窓口」による患者支援の充実と逆紹介機能の強化を図る</p> <p>○患者からの依頼に応じ、引き続きセカンドオピニオン（患者及びその家族が病状や治療法等について主治医と別の専門医の意見を聴くこと）についても対応する</p> <p>・患者の利便性がより向上するよう、病院へのアクセス改善や国際化の進展による多言語への対応等、だれもが利用しやすい病院づくりを行う。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○医療通訳派遣制度に参画するなど、外国人患者にとって安心かつ適切な医療サービスの提供に取り組む</p>	<p>人食のみからシニア食にも拡大し、患者サービスの向上を図った。</p> <p>・両病院において、「患者の権利章典」の下、医師等は医療行為を行う際には、必要な事項を患者や家族にわかりやすい言葉や絵図を用いるなど、患者が理解し納得できるように説明するとともに、十分に説明し、十分な理解のもとに意志決定（同意）できるように努め、引き続きセカンドオピニオンについても対応した。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> (中央市民病院)</p> <p>○かかりつけ医を持つこと及び紹介状・FAX 予約の推奨について、市民向けの啓発を行政に働きかけるとともに、患者向けに外来待合や一般市民の出入りが多い各区役所の庁舎内や神戸市営地下鉄の駅公舎内等でのポスター掲示を行った。</p> <p>○旧入院前検査センター跡地に患者サポートセンターを12月に開設し、かかりつけ医相談・患者相談業務等を外来診察室の近くに設置することで、患者が相談に行きやすい環境を整備した。かかりつけ医相談窓口では、かかりつけ医を持っていない患者に、自宅や職場から近い地域の医療機関を案内して、逆紹介の強化を図り、患者相談窓口では、医療・医療安全・介護・福祉等の相談について、看護師と医療ソーシャルワーカーが対応をした。（平成28年度実績：かかりつけ医相談窓口相談件数1,808件）</p> <p>○患者が十分納得して治療を受けることができるよう、病状、治療内容、診断や今後の治療方針について、引き続き、セカンドオピニオンを実施した（平成28年度実績：171件）。</p> <p>・両病院において、患者の利便性がより向上するよう、病院へのアクセス改善や国際化の進展等による多言語への対応等、だれもが利用しやすい病院づくりを行った。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○両病院において医療通訳制度を利用し、外国人患者にとっても安心かつ適切な医療を受けられるよう取り組んだ。</p> <p>《平成28年度医療通訳実績》</p> <p>中央市民病院：実患者数57人、201件（中国語：51件、英語：53件、ベトナム語：29件、ロシア語：10件、ポルトガル語：1件、スペイン語：40件、タイ語：2件、韓国語：3件、ペルシャ語：4件、イタリア語：1件、</p>				
---	---	--	--	--	--	--

	<p>(中央市民病院)</p> <p>○案内表示の多言語化表記に加えて、患者へ配付する印刷物やホームページ等についても、多言語化対応を継続していく</p> <p>○外国人に対して、一般外来フロアに外国語に対応できるスタッフの配置やボランティアによる通訳のほか、民間通訳事業者の紹介などを行う</p>	<p>インドネシア語：7件)</p> <p>西市民病院：実患者数 57 人，122 件（ベトナム語 114 件，韓国語 2 件，中国語 6 件)</p> <p><b>(中央市民病院)</b></p> <p>○案内表示やホームページの多言語化（英語，中国語，韓国語）を行っており，患者に配布する印刷物についても，外来パンフレットの多言語化（英語，中国語，韓国語）を実施した。今後，入院パンフレットについても，多言語化を実施していく。また，産婦人科で配布する出産説明文の英語翻訳や，渡航歴について記した文書（英語は作成済）の中国語・韓国語版を作成し，10 月から配布を開始した。</p> <p>○外国語に対応できるスタッフの外来配置を継続した（英語，中国語，韓国語）。また，対応可能な外国語のピンバッジ（国旗）を制服に着けることで，患者が識別できるようにした。</p>																																																																																																					
<p>関連指標 (平成 24 年度実績)</p>	<p>関連指標 (平成 26 年度実績)</p>	<p>関連指標</p>																																																																																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>中央市民病院</th> <th>西市民病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者満足度調査結果(入院患者)(%) (満足+やや満足)</td> <td>99</td> <td>89.3</td> </tr> <tr> <td>患者満足度調査結果(外来患者)(%) (満足+やや満足)</td> <td>95.6</td> <td>89.4</td> </tr> <tr> <td>入院食事アンケート結果(%) (満足+やや満足)</td> <td>80.4**</td> <td>78.5**</td> </tr> <tr> <td>ボランティア登録人数(人)</td> <td>184</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>ボランティア活動時間(時間)</td> <td>690</td> <td>136</td> </tr> <tr> <td>セカンドオピニオン受付数(件)</td> <td>200</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table>	項目	中央市民病院	西市民病院	患者満足度調査結果(入院患者)(%) (満足+やや満足)	99	89.3	患者満足度調査結果(外来患者)(%) (満足+やや満足)	95.6	89.4	入院食事アンケート結果(%) (満足+やや満足)	80.4**	78.5**	ボランティア登録人数(人)	184	33	ボランティア活動時間(時間)	690	136	セカンドオピニオン受付数(件)	200	9	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>中央市民病院</th> <th>西市民病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者満足度調査結果(入院患者)(%) (満足+やや満足)</td> <td>96.8</td> <td>95.3</td> </tr> <tr> <td>患者満足度調査結果(外来患者)(%) (満足+やや満足)</td> <td>92.8</td> <td>91.8</td> </tr> <tr> <td>入院食事アンケート結果(%) (満足+やや満足)</td> <td>73.9**</td> <td>85.5**</td> </tr> <tr> <td>ボランティア登録人数(人)</td> <td>234</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>ボランティア活動時間(時間)</td> <td>693</td> <td>136</td> </tr> <tr> <td>セカンドオピニオン受付数(件)</td> <td>224</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	項目	中央市民病院	西市民病院	患者満足度調査結果(入院患者)(%) (満足+やや満足)	96.8	95.3	患者満足度調査結果(外来患者)(%) (満足+やや満足)	92.8	91.8	入院食事アンケート結果(%) (満足+やや満足)	73.9**	85.5**	ボランティア登録人数(人)	234	31	ボランティア活動時間(時間)	693	136	セカンドオピニオン受付数(件)	224	1	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>平成 27 年度実績</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">中央市民病院</td> <td>患者満足度調査結果（入院患者）（％）（満足＋やや満足）</td> <td>98.2</td> <td>99.5</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>患者満足度調査結果（外来患者）（％）（満足＋やや満足）</td> <td>93.1</td> <td>97.2</td> <td>4.1</td> </tr> <tr> <td>入院食事アンケート結果（％）（満足＋やや満足）</td> <td>80.7</td> <td>81.6</td> <td>0.9</td> </tr> <tr> <td>ボランティア登録人数（人）</td> <td>92</td> <td>78</td> <td>▲14</td> </tr> <tr> <td>ボランティア活動時間（時間/月）</td> <td>741</td> <td>494</td> <td>▲247</td> </tr> <tr> <td>セカンドオピニオン受付数（件）</td> <td>201</td> <td>171</td> <td>▲30</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">西市民病院</td> <td>患者満足度調査結果（入院患者）（％）（満足＋やや満足）</td> <td>96.4</td> <td>94.3</td> <td>▲2.1</td> </tr> <tr> <td>患者満足度調査結果（外来患者）（％）（満足＋やや満足）</td> <td>95.0</td> <td>94.6</td> <td>▲0.4</td> </tr> <tr> <td>入院食事アンケート結果（％）（満足＋やや満足）</td> <td>84.7</td> <td>81.7</td> <td>▲3.0</td> </tr> <tr> <td>ボランティア登録人数（人）</td> <td>36</td> <td>32</td> <td>▲4</td> </tr> <tr> <td>ボランティア活動時間（時間/月）</td> <td>150</td> <td>170</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>セカンドオピニオン受付数（件）</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	前年度差	中央市民病院	患者満足度調査結果（入院患者）（％）（満足＋やや満足）	98.2	99.5	1.3	患者満足度調査結果（外来患者）（％）（満足＋やや満足）	93.1	97.2	4.1	入院食事アンケート結果（％）（満足＋やや満足）	80.7	81.6	0.9	ボランティア登録人数（人）	92	78	▲14	ボランティア活動時間（時間/月）	741	494	▲247	セカンドオピニオン受付数（件）	201	171	▲30	西市民病院	患者満足度調査結果（入院患者）（％）（満足＋やや満足）	96.4	94.3	▲2.1	患者満足度調査結果（外来患者）（％）（満足＋やや満足）	95.0	94.6	▲0.4	入院食事アンケート結果（％）（満足＋やや満足）	84.7	81.7	▲3.0	ボランティア登録人数（人）	36	32	▲4	ボランティア活動時間（時間/月）	150	170	20	セカンドオピニオン受付数（件）	3	3	0				
項目	中央市民病院	西市民病院																																																																																																					
患者満足度調査結果(入院患者)(%) (満足+やや満足)	99	89.3																																																																																																					
患者満足度調査結果(外来患者)(%) (満足+やや満足)	95.6	89.4																																																																																																					
入院食事アンケート結果(%) (満足+やや満足)	80.4**	78.5**																																																																																																					
ボランティア登録人数(人)	184	33																																																																																																					
ボランティア活動時間(時間)	690	136																																																																																																					
セカンドオピニオン受付数(件)	200	9																																																																																																					
項目	中央市民病院	西市民病院																																																																																																					
患者満足度調査結果(入院患者)(%) (満足+やや満足)	96.8	95.3																																																																																																					
患者満足度調査結果(外来患者)(%) (満足+やや満足)	92.8	91.8																																																																																																					
入院食事アンケート結果(%) (満足+やや満足)	73.9**	85.5**																																																																																																					
ボランティア登録人数(人)	234	31																																																																																																					
ボランティア活動時間(時間)	693	136																																																																																																					
セカンドオピニオン受付数(件)	224	1																																																																																																					
	項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	前年度差																																																																																																			
中央市民病院	患者満足度調査結果（入院患者）（％）（満足＋やや満足）	98.2	99.5	1.3																																																																																																			
	患者満足度調査結果（外来患者）（％）（満足＋やや満足）	93.1	97.2	4.1																																																																																																			
	入院食事アンケート結果（％）（満足＋やや満足）	80.7	81.6	0.9																																																																																																			
	ボランティア登録人数（人）	92	78	▲14																																																																																																			
	ボランティア活動時間（時間/月）	741	494	▲247																																																																																																			
	セカンドオピニオン受付数（件）	201	171	▲30																																																																																																			
西市民病院	患者満足度調査結果（入院患者）（％）（満足＋やや満足）	96.4	94.3	▲2.1																																																																																																			
	患者満足度調査結果（外来患者）（％）（満足＋やや満足）	95.0	94.6	▲0.4																																																																																																			
	入院食事アンケート結果（％）（満足＋やや満足）	84.7	81.7	▲3.0																																																																																																			
	ボランティア登録人数（人）	36	32	▲4																																																																																																			
	ボランティア活動時間（時間/月）	150	170	20																																																																																																			
	セカンドオピニオン受付数（件）	3	3	0																																																																																																			
<p>※ 患者満足度調査結果より（中央市民病院：平成 25 年 8 月実施，西市民病院：平成 25 年 2 月実施）</p>	<p>※ 患者満足度調査結果より（中央市民病院：平成 26 年 1 月実施，西市民病院：平成 26 年 2 月実施）</p>																																																																																																						

**第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置**

**4 市民及び患者とともに築くやさしい病院**

**(2) 市民及び患者へ開かれた病院（市民への情報発信）**

**中期目標**

市民及び患者に対し，市民病院の役割，機能などについてホームページ等により分かりやすく情報提供を行うとともに，健康づくりのための情報発信を積極的に行うことにより，市民及び患者へ開かれた病院になるよう努めること。

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・両病院の特色や疾患の治療方針，地域医療機関との連携状況，さらには急性期病院であるといった市民病院の機能や役割について市民及び患者に広く知ってもらうため，広報誌やホームページを充実する等，情報を積極的に発信する。</p> <p>・患者のみならず広く市民を対象とした公開講座や各種教室及び患者サロン等の充実を図り，全ての市民の健康向上のため，市とともに健康づくり施策に取り組む。</p>	<p>・市民病院の機能や役割について市民及び患者に広く知ってもらうため，広報誌やホームページを充実する等，情報を積極的に発信する。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> （中央市民病院）</p> <p>○引き続き，市民への情報提供を強化するために，ホームページの充実や適宜更新に努めるとともに，患者向け広報誌を定期的に発行する等市民に適切な情報をわかりやすく提供する</p> <p>（西市民病院）</p> <p>○利用者及び一般市民を対象とした広報誌「虹のはし」の発行やホームページの充実により，診療情報や新しい取り組みについて情報を提供する</p> <p>・患者のみならず広く市民を対象とした公開講座や各種教室及び患者サロン等の充実を図り，全ての市民の健康向上のため，市とともに健康づくり施策に取り組む。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> （中央市民病院）</p>	<p>・両病院において，市民病院の機能や役割について市民及び患者に広く知ってもらうため，広報誌やホームページ等を活用して情報を積極的に発信した。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> （中央市民病院）</p> <p>○ホームページの各コンテンツの更新の進捗管理を行うとともに，コンテンツの整理や充実，アクセシビリティの向上等を目的に，1月にホームページのリニューアルを行い，患者向け広報誌「しおかぜ通信」及び職員向け広報誌「しおかぜ」について，親しみやすい広報媒体となるよう定期的に発行した。また，「精神科身体合併症病棟の供用開始」や「がん相談支援センターのリニューアルオープン」等タイムリーに情報発信を行った。</p> <p>（西市民病院）</p> <p>○利用者及び一般市民を対象とした広報誌「虹のはし」を発行し，診療情報や医療スタッフの役割，新しい取り組みについて情報提供を行った。また，スマートフォンやタブレット端末への対応に加え，音声読み上げソフトでの読み込みに対応したレイアウトへの改善等，ウェブアクセシビリティの改善及び運用業務の簡便化を図るため，平成29年4月の病院ホームページのリニューアルに向け準備を進めた。</p> <p>・両病院において，患者や市民を対象とした公開講座や各種教室等を開催し，さまざまな情報提供を行い，市民の健康向上に取り組んだ。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> （中央市民病院）</p>	1	3		

○院内外を問わず、あらゆるがんの患者やその家族への開かれた相談窓口として運営していくため、がん相談支援センターを拡張し支援機能の充実を図る

○がん相談支援センターにおいて、がん患者への支援や情報提供を行い、がんサロン開催や暮らしの相談（就労支援）の導入に取り組む等、がん患者支援の強化を図る

○糖尿病教室や消化器病教室等各種患者及び市民向け教室の開催と充実に取り組む

○コンビニエンスストア等と共同し、健康・疾病予防・疾病と食事の関連を具体的に示し、情報を発信する

(西市民病院)

○市民公開講座や患者向け教室において、1つのテーマに対し、医師やコメディカルがそれぞれの立場で講師を行い、患者へよりきめ細かい情報提供を行う

関連指標(単位:回,平成24年度実績)

項目	中央市民病院	西市民病院
各種教室等開催回数	28	25
	(心臓・糖尿病・腎臓・消化器病)	(糖尿病・禁煙・市民公開講座)
市民向け広報発行回数	しおかぜ通信 2	虹のはし 1
ホームページアクセス回数	3,420,291	121,915

関連指標(単位:回,平成26年度実績)

項目	中央市民病院	西市民病院
各種教室等開催回数	31	26
	(心臓・糖尿病・腎臓・消化器病)	(糖尿病・禁煙・市民公開講座)
市民向け広報発行回数	しおかぜ通信 3	虹のはし 2
ホームページアクセス回数	3,239,976	179,422

○10月よりがん相談支援センターをリニューアルオープンし、相談員が常駐して毎日がん相談を行い、ウィッグの展示や、がんに関する書籍・パンフレットの設置等、がん関連の資料の充実を図った(平成28年度実績:相談者540人)。

○がん相談室に相談員が常駐し、がん患者やその家族に対し、がん相談室開放や「がんサロン(2か月に1回)」を継続して実施するとともに、9月より、社会保険労務士による「がん患者の仕事と暮らしの相談会」を毎月開催した。さらに、がん市民フォーラムを4回開催し、がん患者の支援に取り組んだ(平成28年度実績:がん相談開放日相談者540名、がんサロン参加者106名、がんフォーラム参加者582名)。

○患者や市民に各疾患についての教室を開催し(糖尿病9回、心臓病10回、腎臓病8回、消化器病6回)、地域への情報発信を行った(年間参加者総数598名)。

○病院の外来患者や入院患者の退院後、地域住民に疾病の治療や予防に必要な食塩量や食事量を知ってもらうため、栄養管理士がファミリーマートの弁当を監修した(平成28年度13アイテム)。また6月より、エネルギーと糖質を控えた健康パン(7アイテム)、エネルギー160kcal以下に抑えたデザート(6アイテム)の監修も行った。

**(西市民病院)**

○患者家族や市民も対象として、医師・看護師・コメディカルが中心となり、患者向け教室を開催した(糖尿病10回、禁煙10回、市民公開講座6回、年間参加者総数680名)。

関連指標

(単位:回)

	項目	平成27年度 実績	平成28年度 実績	前年度 比(%)
中央	各種教室等開催回数	32 <sup>*1</sup>	33 <sup>*1</sup>	103.1
市民 病院	市民向け広報発行回数	しおかぜ通信 2	しおかぜ通信 4	200.0
	ホームページアクセス回数	3,299,683	3,144,352	95.3
西 市民 病院	各種教室等開催回数	24 <sup>*2</sup>	26 <sup>*2</sup>	108.3
	市民向け広報発行回数	虹のはし 3	虹のはし 3	100.0
	ホームページアクセス回数	221,027	82,895 <sup>*3</sup>	37.5

※1 心臓, 糖尿病, 腎臓, 消化器病教室

※2 糖尿病, 禁煙教室, 市民公開講座

※3 管理サーバー移行のため、9/1以降の実績としている



**第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置**

**5 地域医療連携の推進**

**(1) 地域医療機関との更なる連携**

<b>中期目標</b>	地域医療連携体制の構築に資するため、地域医療機関との連携及び協力体制を更に充実させ、医療機能や役割に応じて患者の紹介（地域医療機関からの患者の紹介）を受け、又は逆紹介（地域医療機関に対する患者の紹介）を行い、病病・病診連携（市民病院が行う地域の病院及び診療所との連携）を推進すること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域医療機関のニーズを把握し、両病院の役割に応じた患者の紹介・逆紹介を行うとともに、地域連携パスの活用、持参薬情報の整理と共有等、地域医療機関との連携をより一層推進する。</li> <li>オープンカンファレンスや研修会の開催、講師派遣等により顔の見える地域連携を実現する。 <b>（中央市民病院）</b></li> <li>高度医療機器の共同利用促進や連携登録医とのさらなる連携等、地域医療機関との協力体制を充実するとともに、後方支援病院の確保に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域医療機関のニーズを把握し、両病院の役割に応じた患者の紹介・逆紹介を行う等、地域医療機関との連携をより一層推進する。 <b>【中央市民病院】</b></li> <li>連携登録医とのさらなる連携や高度医療機器の共同利用促進等、地域医療機関との協力体制を充実するとともに、後方支援病院の確保に努める。また、介護施設や福祉関係機関との情報交換も積極的に行う。 <b>具体的な取り組み</b></li> <li>○地域医療連携センターにおいて、入院前検査センター等と連携して、患者が円滑かつ安心な治療を受けられるよう支援を行う</li> <li>○神戸市民間病院協会の会員病院など地域の医療機関との情報交換を密にし、急性期及び亜急性期の患者の転院や後方連携の強化に取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域医療機関のニーズを把握し、両病院の役割に応じた患者の紹介・逆紹介を行う等、地域医療機関との連携をより一層推進した。 <b>【中央市民病院】</b></li> <li>地域医療支援事業運営委員会を9月に開催し、中央市民病院の地域医療支援病院としての事業運営について外部委員も交えて議論した。</li> <li>退院支援看護師とMSWのペア構成に基づいたチーム制を継続し、弾力的かつ一体的な運用で退院支援し、後方連携の強化を図った。 <b>具体的な取り組み</b></li> <li>○入院前準備センターにおいてリスクアセスメントを行い、入院当初から退院後の療養について相談を受け、支援を行った（平成28年度実績：入院前準備センターからの相談依頼受付数556件）。</li> <li>○退院支援業務にタブレット端末を活用し、患者・家族への端末画面によるわかりやすい説明、病棟等での迅速な情報収集を継続した（平成28年度実績：退院支援実績4,063件、転院2,596人、自宅退院1,180人、施設149人）。また、外来からの他院入院紹介（転送）も実施した（平成28年度実績：430人）。</li> <li>○神戸市民間病院協会加盟病院への急性期、回復期、慢性期転院については、患者情報シートを活用し、連携強化と円滑な転院を図った。また、病病連携の強化のため、中央区内の病院の地域連携部門の連絡調整や情報交換の場として、神戸市中央区地域医療連携部門連絡協議会に参加した。</li> <li>○一般財団法人神戸マリナーズ厚生会ポートアイランド病院と隔月で連携会</li> </ul>	2	3		<p><b>【評価のポイント・評価委員意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括ケアの推進という観点から、地域の医療関係者や介護関係者等に対しても、市民病院としての方向性を示していく必要がある。</li> </ul>

<p>・地域医療における機能分担と連携強化に繋がるよう、関心の高いテーマを中心にオープンカンファレンスや研修会を計画的に開催する。</p>	<p>○大腿骨頸部骨折や脳卒中等急性期から回復期へのリハビリテーションについては、地域連携パスを活用し、患者や家族のニーズを踏まえたうえで、できるだけ早期に継続したリハビリテーションが実施できるよう地域との連携を密に機能回復を図る。また、5大がんやその他の疾患についても地域連携パスの導入及び活用を進め、地域の医療機関との連携を図る</p> <p>○高度医療に対応した最新医療機器の導入等により、高度医療機器の共同利用等の促進に取り組み患者にやさしい検査・治療を提供する</p> <p>○地域医療機関との顔の見える連携促進を図り、新たな連携先を開拓する</p> <p>・地域医療水準の向上を図り、地域における機能分担と連携強化に繋がるよう、関心の高いテーマを中心にオープンカンファレンスや研修会を計画的に開催する。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○連携登録医に対しては、病院の情報を積極的に提供し連携しやすい環境を作るとともに、顔の見える連携の強化を図り、地域連携懇話会を開催する</p> <p>○オープンカンファレンス等の研修会を引き続き開催し、地域医療機関等にとって有用な情報を提供する等内容の充実に努め、院外から</p>	<p>議を継続して開催し、具体的な紹介実績、問題事例を挙げながら協議を行った（平成28年度転院支援218件）。また、神戸平成病院へ呼吸器内科医師及び総合診療科医師を派遣した（平成28年度転院支援245件）。</p> <p>○大腿骨頸部骨折や脳卒中地域連携パスの積極的な活用を行った。地域連携パスで転院した患者は、大腿骨頸部骨折5人、脳卒中224人であった。また、がん連携パスについても積極的に活用した。</p> <p>○CT、MRI等の高度医療機器検査についてFAXによる予約申込を受け付け、地域医療機関からの利用を図った（平成28年度実績：地域医療機関からのFAX検査予約688件、前年度比120.7%）。</p> <p>○新規開院の医療機関に患者紹介を呼びかけるために、FAX予約や緊急連絡用のホットライン（脳卒中・胸痛・産科）等の案内を送付し連携登録医の登録勧奨を行ったほか、返書管理システムに患者カルテ起動機能を追加する等の改善を行い、各診療科・医師による返書管理の利便性の向上を図った。</p> <p>・地域医療水準の向上を図るとともに、地域における機能分担と連携強化に繋がるよう、関心の高いテーマを中心にオープンカンファレンスや研修会を計画的に開催した。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○引き続き、圏域内の地域医療機関を対象に連携登録医を募集し、登録を行った（平成29年3月末現在：登録医療機関数1,018機関、登録医数1,297人）。また、1月に患者サポートセンターの前の壁にデジタルサイネージを設置し、連携登録医と各種案内をわかりやすく表示することで、逆紹介の促進に取り組んだ。</p> <p>○「中央市民病院ニュース」を引き続き発行し、中央市民病院の取り組みやカンファレンスの情報を地域医療機関へ発信するとともに、連携登録医へは、講演会やカンファレンス開催のお知らせ等をEメールでも発信し緊密なコミュニケーションに取り組んだ（平成28年度実績：42件）。また、連</p>			
---	--	---	--	--	--

<p>(西市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各診療科の医師と地域医療機関の医師が顔の見える連携を図り、信頼関係を構築することで、紹介・逆紹介をさらに推進し、市街地西部の中核病院として地域医療支援病院の役割を果たす。</li> </ul>	<p>の参加の促進を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>病診病連携の推進や地域の医療従事者の交流を図るため、引き続き医師会と協力して学術集談会を開催する</li> </ul> <p><b>【西市民病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各診療科の医師と地域医療機関の医師が顔の見える連携を図り信頼関係を構築することで、紹介・逆紹介をさらに推進し、市街地西部の中核病院として地域医療支援病院の役割を果たす。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域医療支援病院としての役割の継続・強化に向け、地域医療部が中心となり、紹介患者の増加、逆紹介のさらなる推進を図る</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>診療科部長等とともに、より目的を明確化して地域医療機関訪問を行うことによって、さらなる連携強化に取り組む</li> </ul>	<p>携登録医等の市内医療従事者との地域連携懇話会を11月に開催し、地域連携の強化を図った(参加者数 院内110人、院外195人)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>紹介患者を増やすため、地域の医療機関等の医療従事者に向けて、中央市民病院の各診療科で実施している治療方法等について地域連携セミナーの開催(参加者数54人)、地域医療機関への訪問や来院時の面談を積極的に行った(地域医療機関への訪問62件、地域医療機関の来院67件)。</li> <li>地域の医療従事者との合同カンファレンスを通じて、地域医療機関とのさらなる連携強化を図った。また、リハビリテーション地域連携講演会を6月に開催した(院外参加者数806人)。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>神戸市医師会、中央市民病院(当番病院)、西市民病院、西神戸医療センター及び神戸市との共催で8月25日に病診病連携学術集談会を開催した。テーマ:「地域医療の中で薬物療法を安全につなぐ」(参加者数298人)</li> </ul> <p><b>【西市民病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各診療科の医師と地域医療機関の医師が顔の見える連携を図り信頼関係を構築することで、紹介・逆紹介をさらに推進し、市街地西部の中核病院として地域医療支援病院の役割に取り組んだ。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域医療支援病院としての役割の継続に向け、地域医療部が中心となり、紹介患者の増加、逆紹介のさらなる推進を図るための方策について精力的に検討するとともに、「かかりつけ医相談窓口」を継続して設置し、かかりつけ医を持ってもらうための相談体制を継続した。</li> <li>紹介患者の増加に向け、地域医療連携システムで医師に診療情報提供書の作成状況を通知し、確実に返書を促す運用を継続した。また、FAX予約の円滑化のため、各診療科へFAX予約患者の優先診療の方針を2月に再度周知し、開業医からの依頼後2週間以内のFAX予約を前提とした運用を4月より開始した。</li> <li>兵庫・長田二次救急病院連携の会において、近隣の医療機関と急性期・亜急性期における患者転院紹介や受入事情について意見交換を行った(平成28年度3回開催)。</li> <li>地域医療機関との役割分担や機能連携を明確にするため、地域医療部長や各診療科長等による地域医療機関への訪問(平成28年度実績:93件)を行い、また、地域医療機関からの訪問受入れ(平成28年度実績:23件)を行った(平成29年3月末現在:連携登録医療機関420機関、連携登録医533人)。</li> </ul>				
--	--	--	--	--	--	--

<p>目標値（単位：％，実績値は平成 24 年度・目標は毎年度）</p>	<p>○各診療科・部門については，積極的にオープンカンファレンスを実施し，地域医療機関との連携強化に取り組む</p> <p>○地域医療連携をより密接にはかる目的で，連携している病院や医院等との交流会を年 1 回実施する</p> <p>目標値（単位：％，実績値は平成 26 年度・目標は平成 28 年度）</p>	<p>○各診療科，チームにおいて積極的にオープンカンファレンスを実施し，地域医療機関との関係を密にすることで，連携の強化を図った。</p> <p>○地域医療機関との連携の強化を図るため，3 区（長田・兵庫・須磨）医師会との交流会である「地域連携のつどい」を 2 月に開催した（参加者：174 人，うち院外参加者 106 人）。</p> <p>目標値（単位：％）</p>																																																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">中央市民病院</th> <th colspan="2">西市民病院</th> </tr> <tr> <th>実績値</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>54.4</td> <td>55.0以上</td> <td>43.2</td> <td>45.0以上</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>83.5</td> <td>84.0以上</td> <td>62.6</td> <td>65.0以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>※紹介率，逆紹介率は地域医療支援病院算定式によるもの</p>	項目	中央市民病院		西市民病院		実績値	目標値	実績値	目標値	紹介率	54.4	55.0以上	43.2	45.0以上	逆紹介率	83.5	84.0以上	62.6	65.0以上	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">中央市民病院</th> <th colspan="2">西市民病院</th> </tr> <tr> <th>実績値</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>54.1</td> <td>58.0以上</td> <td>41.7</td> <td>50.0以上</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>111.8</td> <td>100.0以上</td> <td>91.3</td> <td>70.0以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>※紹介率，逆紹介率は地域医療支援病院算定式によるもの</p>	項目	中央市民病院		西市民病院		実績値	目標値	実績値	目標値	紹介率	54.1	58.0以上	41.7	50.0以上	逆紹介率	111.8	100.0以上	91.3	70.0以上	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">項目</th> <th>平成 28 年度目標値</th> <th>平成 27 年度実績値</th> <th>平成 28 年度実績値</th> <th>目標比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央市民病院</td> <td>紹介率</td> <td>58.0 以上</td> <td>57.4</td> <td>62.5</td> <td>4.5</td> </tr> <tr> <td></td> <td>逆紹介率</td> <td>100.0 以上</td> <td>111.8</td> <td>126.7</td> <td>26.7</td> </tr> <tr> <td>西市民病院</td> <td>紹介率</td> <td>50.0 以上</td> <td>46.7</td> <td>53.0</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>逆紹介率</td> <td>70.0 以上</td> <td>89.2</td> <td>101.1</td> <td>31.1</td> </tr> </tbody> </table>	項目	項目	平成 28 年度目標値	平成 27 年度実績値	平成 28 年度実績値	目標比	中央市民病院	紹介率	58.0 以上	57.4	62.5	4.5		逆紹介率	100.0 以上	111.8	126.7	26.7	西市民病院	紹介率	50.0 以上	46.7	53.0	3.0		逆紹介率	70.0 以上	89.2	101.1	31.1										
項目		中央市民病院		西市民病院																																																																												
	実績値	目標値	実績値	目標値																																																																												
紹介率	54.4	55.0以上	43.2	45.0以上																																																																												
逆紹介率	83.5	84.0以上	62.6	65.0以上																																																																												
項目	中央市民病院		西市民病院																																																																													
	実績値	目標値	実績値	目標値																																																																												
紹介率	54.1	58.0以上	41.7	50.0以上																																																																												
逆紹介率	111.8	100.0以上	91.3	70.0以上																																																																												
項目	項目	平成 28 年度目標値	平成 27 年度実績値	平成 28 年度実績値	目標比																																																																											
		中央市民病院	紹介率	58.0 以上	57.4	62.5	4.5																																																																									
	逆紹介率	100.0 以上	111.8	126.7	26.7																																																																											
西市民病院	紹介率	50.0 以上	46.7	53.0	3.0																																																																											
	逆紹介率	70.0 以上	89.2	101.1	31.1																																																																											
<p>関連指標（平成 24 年度実績）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>中央市民病院</th> <th>西市民病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域連携パス適用患者数<sup>※</sup>（人）</td> <td>264</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>地域医療機関向け広報発行回数</td> <td>6</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>オープンカンファレンス開催回数（回）</td> <td>34</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>オープンカンファレンス院外参加者数（人）</td> <td>801</td> <td>1,163</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 診療報酬上評価されているもの</p>	項目	中央市民病院	西市民病院	地域連携パス適用患者数 <sup>※</sup> （人）	264	66	地域医療機関向け広報発行回数	6	12	オープンカンファレンス開催回数（回）	34	33	オープンカンファレンス院外参加者数（人）	801	1,163	<p>関連指標（平成 26 年度実績）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>中央市民病院</th> <th>西市民病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域連携パス適用患者数<sup>※</sup>（人）</td> <td>349</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>地域医療機関向け広報発行回数</td> <td>4</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>オープンカンファレンス開催回数（回）</td> <td>45</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>オープンカンファレンス院外参加者数（人）</td> <td>1,351</td> <td>720</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 診療報酬上評価されているもの</p>	項目	中央市民病院	西市民病院	地域連携パス適用患者数 <sup>※</sup> （人）	349	68	地域医療機関向け広報発行回数	4	12	オープンカンファレンス開催回数（回）	45	34	オープンカンファレンス院外参加者数（人）	1,351	720	<p>関連指標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">項目</th> <th>平成 27 年度実績</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>前年度比（％）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央市民病院</td> <td>地域連携パス適用患者数<sup>※</sup>（人）</td> <td>360</td> <td>227</td> <td>63.1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>地域医療機関向け広報発行回数（回）</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>オープンカンファレンス開催回数（回）</td> <td>48</td> <td>58</td> <td>120.8</td> </tr> <tr> <td></td> <td>オープンカンファレンス院外参加者数（人）</td> <td>1,845</td> <td>2,400</td> <td>130.1</td> </tr> <tr> <td>西市民病院</td> <td>地域連携パス適用患者数<sup>※</sup>（人）</td> <td>65</td> <td>49</td> <td>75.4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>地域医療機関向け広報発行回数（回）</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>オープンカンファレンス開催回数（回）</td> <td>33</td> <td>30</td> <td>90.9</td> </tr> <tr> <td></td> <td>オープンカンファレンス院外参加者数（人）</td> <td>745</td> <td>1,079</td> <td>144.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 診療報酬上評価されているもの</p>	項目	項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	前年度比（％）	中央市民病院	地域連携パス適用患者数 <sup>※</sup> （人）	360	227	63.1		地域医療機関向け広報発行回数（回）	4	4	100.0		オープンカンファレンス開催回数（回）	48	58	120.8		オープンカンファレンス院外参加者数（人）	1,845	2,400	130.1	西市民病院	地域連携パス適用患者数 <sup>※</sup> （人）	65	49	75.4		地域医療機関向け広報発行回数（回）	12	12	100.0		オープンカンファレンス開催回数（回）	33	30	90.9		オープンカンファレンス院外参加者数（人）	745	1,079	144.8			
項目	中央市民病院	西市民病院																																																																														
地域連携パス適用患者数 <sup>※</sup> （人）	264	66																																																																														
地域医療機関向け広報発行回数	6	12																																																																														
オープンカンファレンス開催回数（回）	34	33																																																																														
オープンカンファレンス院外参加者数（人）	801	1,163																																																																														
項目	中央市民病院	西市民病院																																																																														
地域連携パス適用患者数 <sup>※</sup> （人）	349	68																																																																														
地域医療機関向け広報発行回数	4	12																																																																														
オープンカンファレンス開催回数（回）	45	34																																																																														
オープンカンファレンス院外参加者数（人）	1,351	720																																																																														
項目	項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	前年度比（％）																																																																												
		中央市民病院	地域連携パス適用患者数 <sup>※</sup> （人）	360	227	63.1																																																																										
	地域医療機関向け広報発行回数（回）	4	4	100.0																																																																												
	オープンカンファレンス開催回数（回）	48	58	120.8																																																																												
	オープンカンファレンス院外参加者数（人）	1,845	2,400	130.1																																																																												
西市民病院	地域連携パス適用患者数 <sup>※</sup> （人）	65	49	75.4																																																																												
	地域医療機関向け広報発行回数（回）	12	12	100.0																																																																												
	オープンカンファレンス開催回数（回）	33	30	90.9																																																																												
	オープンカンファレンス院外参加者数（人）	745	1,079	144.8																																																																												

**第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置**

**5 地域医療連携の推進**

**(2) 在宅医療への支援及び在宅医療との連携の強化**

<b>中期目標</b>	本市において構築を予定している地域包括ケアシステム（高齢者が自らが住み慣れた地域でなじみの人とのつながりを大切にしながら安心して生活を続け、及び自らのニーズに応じた住宅に居住することを基本とした上で、高齢者の生活上の安全・安心・健康を確保するために、高齢者に対して医療や介護のみならず、福祉サービスを含めた様々な生活支援サービスを日常生活の場で適切に提供できるような地域での体制）に、市民病院の機能に応じて協力して取り組み、市民病院と地域の間における診療体制やケアの連続性を重視し、市民病院を退院した患者が安心して在宅で生活を送れるよう支援すること。その際、本市と協力し、医療、保健及び福祉の連携を図ること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>患者が退院から在宅へと円滑に移行できるように、入院初期から積極的に退院支援を行う。</li> <li>患者が安心して地域で療養できるように、地域の在宅診療医や介護施設、訪問看護ステーション等との連携や支援の強化、急変時の受け入れ体制の強化等を行い、神戸市における地域包括ケアシステムの中での市民病院としての役割を果たす。</li> </ul> <p><b>（中央市民病院）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在宅診療医、訪問看護ステーション、ケアマネジャー及び福祉事務所等と緊密に連携しながら、早期に退院ができるよう患者の状況に応じた支援を行う。特に、後方支援病院を経由して在宅復帰を目指す患者が在宅へ円滑に移行できるよう、回復期リハビリ病棟を設けている病院と連携を強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者が安心して地域で療養できるように、入院初期からの退院支援及び地域の在宅診療医等との連携の強化に努める。</li> </ul> <p><b>【中央市民病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在宅診療医、訪問看護ステーション、ケアマネジャー及び福祉事務所等と緊密に連携しながら、退院前カンファレンス等を積極的に行って円滑に退院できるよう患者の状況に応じた支援を行う。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在宅復帰を見据えて、他病院の地域包括ケア病棟との連携強化を図る</li> <li>居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等との連携を図り、在宅交流セミナーを積極的に開催する</li> <li>後方連携支援業務に従事する薬剤師は、入院前から介入する入院前検査センターの薬剤師及び入院期間に担当する病棟薬剤師と連携し、転院時等の薬剤情報の円滑な提供に努めることで、後方支援体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>両病院において、患者が安心して地域で療養できるように、入院初期からの退院支援及び地域の在宅診療医等との連携の強化に取り組んだ。</li> </ul> <p><b>【中央市民病院】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等との連携を図り、退院前カンファレンスを積極的に開催し（平成28年度実績：訪看・ケアマネジャー150回、医師25回）、7月より退院支援加算1を取得した。また、各区でのネットワーク会議や在宅医療推進協議会などに積極的に参加し、地域の在宅医療・介護の担い手との連携強化を図った。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>急性期治療の段階より、在宅生活を見据えたプランニングと地域包括ケア病棟からの在宅支援を見据えた準備（介護保険申請・区分変更・自宅療養環境評価等）を行い、シームレスな転院と在宅支援継続の引き継ぎを行った。</li> <li>病院訪問をして過去の紹介患者の評価を行う等、より良い連携への改善に取り組むとともに、「地域包括ケアシステムの推進 急性期病院と訪問看護ステーションの看一連携を進めよう」等をテーマに在宅交流セミナーを開催した（計2回、131名参加）。</li> <li>地域医療連携センターに薬剤師の配置を継続し、転院先へのアレルギー・副作用、持参薬・常用薬、転院直前の処方等の薬剤情報提供を行った（平成28年度実績：薬剤情報提供書作成件数999件）。平成27年度より、薬剤情報提供書の作成対象医療機関を13病院へ拡大し、対象13病院以外でも、特に薬剤情報提供書が必要とされる場合には、薬剤部と相談し薬剤情報提供書を作成・発行した。また、8月に開催された第24回病診病連携学術</li> </ul>	1	3		

<p>(西市民病院)</p> <p>・在宅支援室を中心に地域の訪問看護ステーションの後方支援機能を充実させる等、地域との連携を強化し、医療と介護の架け橋となる病院、地域医療の受け皿かつ砦となる病院を目指す。</p> <p>関連指標（単位：件，平成24年度実績）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>中央市民病院</th> <th>西市民病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退院調整実施件数</td> <td>1,416</td> <td>828</td> </tr> <tr> <td>専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	項目	中央市民病院	西市民病院	退院調整実施件数	1,416	828	専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数	0	1	<p>制の充実を図る</p> <p>【西市民病院】</p> <p>・地域の訪問看護ステーションや医療・保健・福祉等の関係機関の後方支援機能を充実させる等、在宅支援を中心とした地域社会との連携を強化し、医療と介護の架け橋となる病院、地域医療の受け皿かつ砦となる病院を目指す。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○訪問看護ステーションの訪問看護師を中心とした地域の医療・保健・福祉関係機関との連携を強化し、在宅医療の支援を図る</p> <p>○在宅療養後方支援病院の承認を受け、在宅で療養されている方々の後方支援機能の充実を図る</p> <p>○介護士、介護支援専門員、訪問看護師、理学療法士、作業療法士等と一緒に参加できるテーマのオープンカンファレンスを開催することで、病介護、病看護連携を図る</p> <p>関連指標（単位：件，平成26年度実績）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>中央市民病院</th> <th>西市民病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退院調整実施件数</td> <td>1,485</td> <td>1,127</td> </tr> <tr> <td>専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	項目	中央市民病院	西市民病院	退院調整実施件数	1,485	1,127	専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数	0	0	<p>集談会において、薬剤師の活動状況を報告した。</p> <p>【西市民病院】</p> <p>・周辺地域での高齢化率の上昇や、「地域包括ケアシステム」構築への寄与も見据え、医療と介護の架け橋として在宅医療支援を展開していくため、平成27年度に「地域医療推進課」と「在宅支援室」を統合・再編した「地域医療在宅支援室」を設置し、引き続き地域医療の有機的連携を図った。</p> <p>具体的な取り組み</p> <p>○地域の訪問看護師の知識習得と連携を深める機会として、西市民病院の認定看護師が講師をする市内の訪問看護ステーションへの研修会（計3回）や、市内訪問看護師との交流会（5月）を開催した。また、認定看護師や専門看護師による院内臨床実践研修への参加を募った（計12回、院外の訪問看護師延199人参加）。</p> <p>○医療と介護の連携を進めるため、3区（兵庫・長田・須磨区）のケアマネジャーとの交流会を7月に開催し、認定看護師による講義を行うほか、要望等の意見交換を行った。</p> <p>○在宅で療養されている方々の後方支援として、在宅療養支援診療所で訪問診療をしているかかりつけ医及び在宅療養指導管理料を算定しているかかりつけ医からの依頼に応じ、緊急入院患者の受入れを行った（年間50件）。</p> <p>○患者の円滑な退院のため、入院中又は退院日に自宅へ訪問し、退院後の在宅での療養上必要なケア等を指導し、かかりつけ医、訪問看護師、介護支援専門員等との調整を行う退院前訪問指導を継続して行った。</p> <p>○院内外の多職種が専門性を生かして連携を進めていくため、院内外多職種交流会を12月に開催した（院外41人、院内33人参加）。また、多職種を対象に、「在宅療養カンファレンス」を開催し、退院患者の情報交換を行う等、地域医療連携の一層の推進を図った。</p> <p>関連指標（単位：件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>平成27年度実績</th> <th>平成28年度実績</th> <th>前年度比(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">中央市民病院</td> <td>退院調整実施件数</td> <td>1,332</td> <td>1,596</td> <td>119.8</td> </tr> <tr> <td>専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">西市民病院</td> <td>退院調整実施件数</td> <td>947</td> <td>1,636</td> <td>172.8</td> </tr> <tr> <td>専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		項目	平成27年度実績	平成28年度実績	前年度比(%)	中央市民病院	退院調整実施件数	1,332	1,596	119.8	専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数	0	0	-	西市民病院	退院調整実施件数	947	1,636	172.8	専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数	0	0	-				
項目	中央市民病院	西市民病院																																													
退院調整実施件数	1,416	828																																													
専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数	0	1																																													
項目	中央市民病院	西市民病院																																													
退院調整実施件数	1,485	1,127																																													
専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数	0	0																																													
	項目	平成27年度実績	平成28年度実績	前年度比(%)																																											
中央市民病院	退院調整実施件数	1,332	1,596	119.8																																											
	専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数	0	0	-																																											
西市民病院	退院調整実施件数	947	1,636	172.8																																											
	専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数	0	0	-																																											

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 優れた専門職の確保と人材育成

(1) 優れた専門職の確保

中期目標

市民病院としての役割を果たすために優秀な医師，質の高い看護師など医療職を始めとする人材の採用方法を工夫し，優れた専門職の確保に努めること。

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウ エ イ ト	評価	評価	評価判断理由
<p>・すべての職種について，新卒採用のみならず，中途採用，外部登用，定年退職後の再雇用等，柔軟な採用形態を用いて，病院運営に必要な優れた人材を確保する。</p>	<p>・すべての職種について，新卒採用のみならず，中途採用，外部登用，定年退職後の再雇用等，柔軟な採用形態を用いて，病院運営に必要な優れた人材を確保する。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○全国的な看護師不足の状況を踏まえ，県外も含めた採用選考の実施，採用説明会への参加，大学・専門学校等への訪問の実施，修学資金貸付制度のPRを行い，看護職員の確保を図る</p> <p>○柔軟な採用形態を用いて，引き続き，専門的な知識や経験を有する職員の確保に努める</p> <p>○平成29年度から開始される新専門医制度に向けて，日本専門医機構からの情報収集及び対応策の検討を行い，優秀な人材の確保に努める</p> <p>（中央市民病院）</p> <p>○薬剤師レジデント（薬剤師研修）制度に加えて，リハビリ職員レジデント制度，管理栄養士レジデント制度についても活用し，優れた医療技術者の育成及び確保に努め</p>	<p>・すべての職種において，様々な採用形態を用いて，病院運営に必要な優れた人材の確保に取り組んだ。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○全国で開催される合同就職説明会への参加，大学や専門学校等への訪問，募集広告の掲載，病院見学会・インターンシップの受入れを随時実施した（合同説明会28回，学校訪問62回）。また，県外での採用選考に加え，毎月中途採用試験を実施する等，看護職員の確保に取り組んだ結果，年度途中採用者が14名，平成29年4月採用者は226名となった。そのほか，内定者懇談会や国家試験対策講座を実施し，内定者の入職前の不安軽減に取り組んだ。</p> <p>○豊富な知識や経験を生かし，即戦力となってリーダー的な役割を担える人材を求めため，病院等の勤務経験者を対象とした採用選考を継続実施した。</p> <p>平成28年度 中途採用：事務職員（7月，10月）</p> <p>平成28年4月採用：薬剤師，診療放射線技師，臨床検査技師，臨床工学技士，理学療法士，作業療法士，管理栄養士，病院業務員，事務職員，視能訓練士</p> <p>○日本専門医機構の動向を注視し，両病院の連携を図りながら，情報収集及び対応策の検討を行い，優秀な人材の確保に取り組んだ。</p> <p><b>（中央市民病院）</b></p> <p>○薬剤師レジデント制度を引き続き活用し，人材育成及び確保を図った。1年目は，ローテーションをしながら，調剤，製剤，薬品請求，抗がん剤無菌調製等の習得を目標に研修を行った。また，モーニングセミナーや症例検討会実施し，知識の向上を図った。第6回日本薬剤師レジデントフォーラム（3月）では，施設別では最多の10名が学術発表を行い，研究面においても成果を収めた。</p>	2	3		

<p>る</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○薬剤師レジデント制度を活用し、優れた人材の確保に努める</p> <p>・国内の優れた病院や大学等との連携や教育及び研修の充実、県外を含む採用活動の促進等により高い専門性を持った優秀な人材を確保する。</p>	<p>る</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○薬剤師レジデント制度を活用し、優れた人材の確保に努める</p> <p>・国内の優れた病院や大学等との連携や教育及び研修の充実、県外を含む採用活動の促進等により高い専門性を持った優秀な人材を確保する。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○神戸市看護大学と定期的に情報交換を行うとともに、連携方策等について議論を深めながら、連携の強化を図り、看護職員の確保を図る</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○近隣大学薬学部、薬科大学との連携により、職員同士の相互交流を図ることで、職員のスキル向上に努める</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○大学医局へ訪問を行う等連携を強化し、優秀な人材確保につなげる</p>	<p>○リハビリ職員レジデント制度を引き続き活用し、人材育成及び確保を図った。</p> <p>1年目は、医師とのオリエンテーションや看護師との合同プログラムを通して、医療職として必要な基本姿勢を学ぶことを目標に研修を行った。また、より臨床に対応できる管理栄養士の育成を目指し、2名のレジデントを4月に採用し、栄養指導、医療チームへの参加、入院患者の栄養管理を通して教育を行った。</p> <p><b>(西市民病院)</b></p> <p>○高度医療に対応した薬剤業務、チーム医療を実践できる薬剤師の養成と人材の確保のために、薬剤師レジデント制度を活用し(平成28年度2名)、人材育成及び確保を図るとともに、薬剤部において、積極的に学生の受入れを行った。</p> <p>・国内の優れた病院や大学等との連携や、教育及び研修の充実、県外を含む採用活動の促進等により高い専門性を持った優秀な人材の確保に取り組んだ。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○学生の就職活動の状況や動向等について、キャリア支援室と定期的に情報交換を行い、看護職員の確保に取り組んだ。12月にはキャリア支援室との共催で、就職活動を始める前の3年生を対象とした就職セミナー(中央市民病院・西市民病院・西神戸医療センター・神戸リハビリテーション病院が参加)を開催し、卒業生スピーチや座談会を行い、看護職員の確保を図った。</p> <p><b>(中央市民病院)</b></p> <p>○神戸学院大学薬学部と連携交流会を開催し、薬剤部長がオーガナイザーとして、中央市民病院から臨床試験に関わる薬剤師の報告と大学病院の薬剤部長の特別講演を行った。また、学部学生の臨床研究の受入れや連携医師との共同研究(循環器科、NTS)を実施し、近隣大学との交流を図った。臨床研究中核病院を目指すため、今後は「特定研究」につながるような研究を実現していく。</p> <p><b>(西市民病院)</b></p> <p>○関連大学及び医局への訪問等を精力的に行い、連携強化と医師の確保に取り組んだ結果、10月に放射線科医を1名採用し、常勤医2名体制とした。</p> <p>関連指標 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">中央市民病院</th> <th colspan="3">西市民病院</th> </tr> <tr> <th>平成28年 3月現在</th> <th>平成29年 3月現在</th> <th>前年 度差</th> <th>平成28年 3月現在</th> <th>平成29年 3月現在</th> <th>前年 度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門医数(延人数)</td> <td>277<sup>※1</sup></td> <td>288</td> <td>11</td> <td>110</td> <td>125</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table>	項目	中央市民病院			西市民病院			平成28年 3月現在	平成29年 3月現在	前年 度差	平成28年 3月現在	平成29年 3月現在	前年 度差	専門医数(延人数)	277 <sup>※1</sup>	288	11	110	125	15				
項目	中央市民病院			西市民病院																						
	平成28年 3月現在	平成29年 3月現在	前年 度差	平成28年 3月現在	平成29年 3月現在	前年 度差																				
専門医数(延人数)	277 <sup>※1</sup>	288	11	110	125	15																				



関連指標（単位：人，平成 25 年 3 月現在）

項目	中央市民病院	西市民病院
専門医数(延人数)	258	96
認定医数(延人数)	177	71
臨床教授等(延人数)	19	13
研修指導医数(延人数)	61	23
専門看護師数	10	3
急性・重症患者	3	1
慢性疾患	1	1
感染	1	1
がん	2	
老人	1	
精神	1	
小児	1	
認定看護師数	29	6
皮膚・排泄ケア	5	1
集中ケア	3	1
救急	3	1
感染管理	2	1
がん化学療法	3	1
がん性疼痛	2	1
糖尿病	1	
手術	1	
摂食・嚥下障害	1	
乳がん	1	
不妊症	1	
脳卒中リハ	1	
新生児集中ケア	2	
認知症	1	
慢性心不全	1	
がん放射線療法	1	
専門薬剤師数	22	7
診療情報管理士数	4 (7)	1 (4)
医療情報技師数	27	9

※（ ）書きは嘱託職員，委託職員，派遣職員の有資格者数

関連指標（単位：人，平成 27 年 3 月現在）

項目	中央市民病院	西市民病院
専門医数(延人数)	310	101
認定医数(延人数)	201	70
臨床教授等(延人数)	23	10
研修指導医数(延人数)	111	22
専門看護師数	13	4
急性・重症患者	4	2
慢性疾患	1	1
感染	1	1
がん	3	
老人	1	
精神	1	
小児	1	
母性	1	
認定看護師数	29	7
皮膚・排泄ケア	5	1
集中ケア	3	1
救急	3	1
感染管理	2	1
がん化学療法	3	1
がん性疼痛	1	1
糖尿病	1	1
手術	1	
摂食・嚥下障害	1	
乳がん	1	
不妊症	1	
脳卒中リハ	1	
新生児集中ケア	2	
認知症	1	
慢性心不全	1	
がん放射線療法	1	
慢性呼吸疾患	1	
専門薬剤師数	27	7
診療情報管理士数	5 (7)	4 (5)
医療情報技師数	27	10

※（ ）書きは嘱託職員，委託職員，派遣職員の有資格者数

認定医数（延人数）	179※ <sup>1</sup>	169	▲10	73	92	19
臨床教授等（延人数）	23	23	0	7	6	▲1
研修指導医数(延人数)	128	139	11	20	19	▲1
専門看護師数	13	13	0	4	4	0
急性・重症患者	4	4	0	2	2	0
慢性疾患	1	1	0	0	0	0
感染	1	1	0	0	0	0
がん	3	3	0	0	0	0
老人	1	1	0	1	1	0
精神	1	1	0	1	1	0
小児	1	1	0	0	0	0
母性	1	1	0	0	0	0
認定看護師数	30	33	3	7	7	0
皮膚・排泄ケア	5	5	0	1	1	0
集中ケア	3	3	0	0	0	0
救急	3	3	0	0	0	0
感染管理	2	3	1	1	1	0
がん化学療法	3	3	0	1	1	0
緩和ケア	0	0	0	1	1	0
がん性疼痛	1	1	0	1	1	0
糖尿病	2	2	0	0	0	0
手術	1	1	0	1	1	0
摂食・嚥下障害	1	1	0	0	0	0
乳がん	1	2	1	0	0	0
不妊症	1	1	0	0	0	0
脳卒中リハ	1	1	0	0	0	0
新生児集中ケア	2	2	0	0	0	0
認知症	1	1	0	0	0	0
慢性心不全	1	2	1	0	0	0
がん放射線療法	1	1	0	0	0	0
慢性呼吸疾患	1	1	0	1	1	0
専門薬剤師（延人数）	68	75	7	7	7	0
診療情報管理士数	8 (7)	9 (6)	1	5(4)	6(2)	1
医療情報技師数	27	21 (5)	▲6	10	10(2)	0

※<sup>1</sup> 常勤職員数へ変更

※2（ ）書きは嘱託職員，委託職員，派遣職員の有資格者数

**第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置**

**1 優れた専門職の確保と人材育成**

**(2) 職員の能力向上等への取組み**

<b>中期目標</b>	病院で働く職員の能力の高度化及び専門化を図るため、職員の資格取得等に対する支援や指導者の育成に努めるとともに、専門技術の向上に加えて患者への対応も含めた人材の成長を促す研修制度の充実を図ること。 なお、病院業務の受託者に従事する者も共に病院を運営するパートナーであるので、その能力向上が可能となるような環境の整備に努めること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民病院職員としての使命感を持ち、高い専門性と協調性、豊かな人間性を兼ね備えた職員を育成する。</li> <li>すべての職員が必要な技能や知識を習得できるよう教育及び研修制度を充実し、指導者の育成も含めた次世代医療を担う人材を育成する。また、高い意識とホスピタリティ（思いやり）の心を持った職員を育成するため、患者対応研修等も実施する。</li> <li>学術や研究の促進支援体制、研究休職制度及び資格取得支援制度を充実させ、積極的に活用することにより、職員の技術及び知識の向上や専門性の高い資格の取得を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民病院職員としての使命感を持ち、高い専門性と協調性、豊かな人間性及びホスピタリティ（思いやり）の心を兼ね備えた職員を育成するため資格取得の促進、研修制度の充実を図る。</li> </ul> <p><b>具体的な取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各階層における研修や、資格取得支援制度、研究休職制度、短期国内外派遣制度、自己啓発等休業制度及び看護職員に対する留学制度を継続的に実施し、職員の資質向上や専門性の向上を図る</li> <li>(中央市民病院)</li> <li>○学術支援センターでの研究計画支援等の業務や講習会等により、研究活動や質の高い研究ができるような支援を行い、職員の研修・教育・研究の充実を図る。年1回院内研究フォーラムを開催し、外部発表の論文等を院内に公表するとともに優秀演題表彰を行いモチベーションの向上を図る</li> <li>○人材育成センターを設置し、優</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民病院職員としての使命感を持ち、高い専門性と協調性、豊かな人間性及びホスピタリティ（思いやり）の心を兼ね備えた職員を育成するため、資格取得の支援及び促進、研修制度の充実を図った。</li> </ul> <p><b>具体的な取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○職員の専門性の充実を図るために、従来から実施している資格取得支援制度、医師の研究休職制度、短期国内外派遣制度等を継続して実施した。（平成28年度利用者数：資格取得支援制度24名、短期国内海外派遣制度3名、看護職員長期留学制度3名、看護職員大学院留学制度3名、自己啓発休業1名）</li> <li>○医事課職員及びMSWのスキルアップを目的とした研修会を引き続き実施し、2月に発表会を開催した。また、事務職員の人材育成の一環として、事務職員を対象に、外部からも講師を招き講演会を開催した（計3回、198名参加）。</li> <li>○7月に医療技術職員の中堅職員に対し、資質向上及び職場における立場・役割を自覚するための研修を実施したほか、係長級に昇格した職員に対し、マネジメント能力の向上を図るための研修を7～9月に実施した。また、事務・技術の係長級職員に対し、管理職に特化した内容の研修（4～10月）、新規採用職員に対し、採用半年後のフォローアップ研修（11月）、採用3年次職員研修（2月）を実施した。</li> </ul> <p><b>(中央市民病院)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学術支援センターにおいて、院内スタッフを対象として論文の質を高めることを目的に、初めての英語論文をどう書くか、日常臨床の中での研究テーマの見つけ方、効果的なプレゼンテーションの仕方等のテーマで臨床研修セミナーを開催し、職員の研究・教育の充実を図った。また、2月には、院内研究フォーラムを開催し、外部発表の論文等を院内に公表するとともに優秀演題表彰を行いモチベーションの向上を図った。</li> <li>○論文作成の経験の少ない専攻医等を対象に、計画立案やスケジュール管理、統計相談等をマンツーマンで行う事業を5月に計画し、管理部長会及び教育部会です承を得て、8月に希望者の募集開始した（相談件数2件）。</li> <li>○全ての職種を対象に、病院職員の資質向上のための能力開発・スキルアップ支援を</li> </ul>	2	3		

<p>れた能力と豊かな人間性を持った医療人を育成する</p> <p>○臨床研修センターを利用した研修支援体制の強化により、職員のモチベーションの向上を図る</p> <p>○医療情報のセキュリティ対応や効果的なシステム利活用を進めるためにeラーニングや検定試験などを通じて全職員に基礎知識の習得を図る</p> <p>○医療情報に関する指導的な人材を育成するため教材を準備し、個人学習を行うことで知識の向上を図る</p> <p>○がん登録実務の精度を向上するため、県等の研修会への参加に加え、新たにがん登録実務者の研修会を企画し、実施する (西市民病院)</p> <p>○臨床研修センターを円滑に運営することにより、病院全体として臨床実習や臨床研修、専門医研修等の研修支援体制の充実を図る</p> <p>・若手の職員を中心として、将来の病院運営を担う人材を育成するため、OJT（職場の上司や先輩が部下や後輩に対し具体的な仕事を通じて、仕事に必要な知識、技術、技能及び態度等を指導すること。）による人材育成を基本にできるだけ多くの職場を経験させるよう積極的に人事異動を行う。</p>	<p>れた能力と豊かな人間性を持った医療人を育成する</p> <p>○臨床研修センターを利用した研修支援体制の強化により、職員のモチベーションの向上を図る</p> <p>○医療情報のセキュリティ対応や効果的なシステム利活用を進めるためにeラーニングや検定試験などを通じて全職員に基礎知識の習得を図る</p> <p>○医療情報に関する指導的な人材を育成するため教材を準備し、個人学習を行うことで知識の向上を図る</p> <p>○がん登録実務の精度を向上するため、県等の研修会への参加に加え、新たにがん登録実務者の研修会を企画し、実施する (西市民病院)</p> <p>○臨床研修センターを円滑に運営することにより、病院全体として臨床実習や臨床研修、専門医研修等の研修支援体制の充実を図る</p> <p>・若手の職員を中心として、将来の病院運営を担う人材を育成するため、OJTによる人材育成を基本にできるだけ多くの職場を経験させるよう積極的に人事異動を行う。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○長期的な人材育成を考慮し、様々な部署での経験が積めるよう、計画的に人事異動を行い、将来の病院運営を担う人材を育</p>	<p>目的として人材育成センターを4月に設置し、研修棟における人材育成センターの事務室、研修ホール、トレーニングラボ、外科系ラボを8月より運用開始した。今後も人材育成のための企画立案・実施、研修ホール等の運営管理、研修情報の発信と受講記録の管理を行っていく。</p> <p>○臨床研修センターに専任の事務担当者を配置することにより、研修プログラムのより質の高い事務的サポートを継続して行うとともに、初期研修医の相談役となる等、状況把握に取り組み、モチベーションの維持・向上を図った。</p> <p>○院内スタッフを対象に、標的型メール攻撃に対する模擬訓練を実施するとともに、法人職員を対象に、セキュリティワークショップを開催した。また、eラーニングのコンテンツの作成を9月に開始した。</p> <p>○医療情報に関する指導的な人材を育成するため、システム更新に関する機能ワーキングの運営を通じて、仕様書の作成方法や検討会の進め方等についての知識やメンバー間の意見調整等の実践力がつくようOJTを行った。</p> <p>○がん登録実務者中級者フォローアップ研修（7月）や、がん登録実務者研修（9月）に参加し、がん登録実務の精度向上を図った。また、がん登録時の難解事例に関するQ&amp;Aのフォームを作成し、随時記載することを研修方法とした。</p> <p><b>(西市民病院)</b></p> <p>○新専門医制度の開始に向けて、初期臨床研修及び専門医研修のプログラム管理や関連施設との連絡調整等への対応を行っていくため、従前の「研修室」を4月から「臨床研修センター」と位置づけ、研修支援体制の充実を図った。</p> <p>・若手の職員を中心として、将来の病院運営を担う人材を育成するため、OJTによる人材育成を基本に、できるだけ多くの職場を経験させるよう積極的に人事異動等を行った。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○長期的な人材育成を考慮した人事異動（ジョブローテーション）を行った。また、特定の職員に情報が集中することの無いよう配慮するとともに、専門分野に関し知識を有する職員を複数育成することや職員の総合力の向上に積極的に取り組んだ。</p>				
--	--	---	--	--	--	--

成する

○薬剤師レジデントについては、平成 25 年度に締結した「中央市民病院・西市民病院薬剤師レジデント研修受け入れに係る覚書」に基づき、相互の施設での研修の充実を図る

・受託先の従事者も共に病院を運営するパートナーとして能力の向上が可能となるような環境の整備に努めるよう働きかける。

・受託先の従事者も共に病院を運営するパートナーとして能力の向上が可能となるような環境の整備に努めるよう働きかける。

**具体的な取り組み**  
(中央市民病院)

○病院経営のパートナーである P F I 事業者においても、医療安全の確保や業務品質・患者サービスの向上を図るため、患者対応研修等への受講を促していく(西市民病院)

○医事委託職員について、診療報酬請求や患者サービス向上など各委員会への参加により、病院運営のパートナーとしての資質向上に努める

関連指標 (単位: 人, 平成 24 年度実績)

項目	中央市民病院	西市民病院
患者対応研修等参加者数 <sup>※1</sup>	1,668	77 <sup>※2</sup>
研修休暇制度等利用者数	5	1
資格取得支援制度利用者数	22	6

※1 委託職員等も含む。  
※2 委託業者等が主催する研修会は含まない。

○中央市民病院の 2 年目レジデント 4 名が、10 月末より西市民病院において 3 週間の研修を順に行い、西市民病院のレジデント 2 名が 1 月より中央市民病院で研修を行った。

・受託先の従事者も共に病院を運営するパートナーとして能力の向上が可能となるような環境の整備に取り組んだ。

**具体的な取り組み**

**(中央市民病院)**

○医療安全の確保や業務品質・患者サービスの向上を図るため、病院主催の医療安全や感染管理の研修には病院職員に加え、P F I 職員の受講も促し、病院職員としての質向上を図った。

**(西市民病院)**

○医事委託職員にも D P C 保険対策委員会へ毎回出席してもらい、査定等についての学習を積極的に実施した。また、医事委託職員の責任者については、各診療科部長及び部門長が出席する業務経営会議へ参加し、病院全体の情報把握を図った。さらに、診療報酬改定に関する講演会等に参加してもらい、最新情報を提供したほか、B L S 講習会等、院内研修等への参加を促した。

関連指標 (単位: 人)

	項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	前年度差
中央市民病院	患者対応研修等参加者数 <sup>※1</sup>	376	364	▲12
	研修休暇制度等利用者数	6	3	▲3
	資格取得支援制度利用者数	45	36	▲9
西市民病院	患者対応研修等参加者数 <sup>※2</sup>	47	43	▲4
	研修休暇制度等利用者数	4	2	▲2
	資格取得支援制度利用者数	13	9	▲4

※1 委託職員等も含む。  
※2 委託業者等が主催する研修会は含まない。

**第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置**

**1 優れた専門職の確保と人材育成**

**(3) 人材育成等における地域貢献**

<b>中期目標</b>	臨床研修医及び後期研修医の受入れ及び神戸市看護大学を始めとした看護学生の受入れに努め、教育研修制度を充実させるなど教育病院（専門医等の研修施設として認定された教育施設としての性質を有する病院）としての役割を果たすこと。 また、学生だけでなく地域医療機関の職員への研修を行うことを始めとして地域全体の医療の質の向上に資すること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウエイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・ 公的病院の使命である救急及び急性期医療に加え、福祉との連携を踏まえた地域医療等を学ぶ場として、臨床研修医及び後期研修医のみならず、医学部生、看護学生、薬学部生をはじめとした、医療系学生及び地域医療を支える人材を積極的に受け入れる体制の充実等、地域における優秀な人材の育成と医療の質向上に貢献する。</p>	<p>・ 公的病院の使命である救急及び急性期医療に加え、福祉との連携を踏まえた地域医療等を学ぶ場として、医療系学生及び地域医療を支える人材を積極的に受け入れる体制の充実を図り、地域における優秀な人材の育成と医療の質向上に貢献する。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○潜在看護師の復職支援対策として、兵庫県看護協会が実施する合同就職説明会への参加や、各病院において、潜在看護師向けの研修等を開催し、潜在看護師の復職支援についての取り組みを進める</p> <p>○神戸市看護大学等と連携を図り、看護学生の受け入れを行い、看護学生の能力向上に寄与する</p> <p>（中央市民病院）</p> <p>○医師、看護師、薬剤師等医療系</p>	<p>・ 中央市民病院では臨床研修センターを中心に、西市民病院では組織化した研修室を活用して研修管理常任委員会を中心に、研修制度の充実を図り、臨床研修医、専攻医をはじめ、薬剤師、臨床工学技士、臨床検査技師、理学療法士等でも学生の受入れを引き続き積極的に行った。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○看護師の資格を持ちながら、家庭の事情等で看護の現場を離れ、ブランクはあるが再就業を希望している方を対象に、復職支援のための研修を開催した。 《平成 28 年度実績》 中央市民病院：2 月開催、西市民病院：申込者なしのため未開催</p> <p>○神戸市医師会・神戸市民間病院協会・兵庫県看護協会等からなる「神戸における看護師確保に関する意見交換会」に参画し、同交換会主催の看護師復職支援セミナー（8 月開催）に参加した。また、看護職復職支援事業の一環として、兵庫県看護協会主催の合同就職説明会（9 月）に参加した。</p> <p><b>（西市民病院）</b></p> <p>○平成 27 年度より神戸市看護大学キャリア支援室が開設され、学生の進路相談等を通じて積極的に看護学生の受入れを実施するとともに、神戸市看護大学へ講師を派遣した。また、指導者と病棟師長、教員、看護部教育担当が、実習の受入れ体制や学生の実習の様子などを情報交換する場としてカンファレンスを実施し、より効果的な実習につなげた。</p> <p><b>（中央市民病院）</b></p> <p>○市民病院機構や神戸市内医療施設で働く優秀な人材を確保し、市内全体の医療</p>	1	3		

学生を積極的に受け入れる  
 ○「がん専門薬剤師研修施設」として、資格取得を目指す薬剤師を外部より受け入れ、講習会等を開催する  
 (西市民病院)  
 ○薬剤師等、医師・看護職員以外の専門職についても引き続き学生等の受け入れを行い、人材の育成に貢献する

関連指標 (単位:人,平成26年度実績)

項目	中央市民病院	西市民病院
講師等派遣数(延人数)	1,104	225
臨床研修医数	35	15
後期研修医数	106	17
学生実習等受入数(延人数)	医学部生・1,151 歯学部生 看護学生 4,198 薬学部生 2,156 臨床検査 232 理学療法・作業療法・言語聴覚 1,685 臨床工学 484 管理栄養 50 視能訓練 144	医学部生・205 歯学部生 看護学生 2,295 薬学部生 615 臨床検査 168 理学療法・作業療法・言語聴覚 185 臨床工学 128 管理栄養 200 視能訓練 0

関連指標 (単位:人,平成24年度実績)

項目	中央市民病院	西市民病院
講師等派遣数(延人数)	504	208
臨床研修医数	36	15
後期研修医数	102	18
学生実習等受入数(延人数)	医学部生・1,033 歯学部生 看護学生 4,529 薬学部生 1,955 臨床検査 15 理学療法・作業療法・言語聴覚 872 臨床工学 608 管理栄養 0 視能訓練 100	医学部生・252 歯学部生 看護学生 2,523 薬学部生 495 臨床検査 194 理学療法・作業療法・言語聴覚 166 臨床工学 116 管理栄養 99 視能訓練 0

の質の向上を図るため、依頼施設と協力して積極的に学生等の受け入れを行った。  
 ○がん専門薬剤師研修施設として、香川県立中央市民病院より研修を受入れ、日本医療薬学会の規定のカリキュラムを終了した。

**(西市民病院)**

○薬剤師、臨床工学技士、臨床検査技師、理学療法士、管理栄養士等で学生の受け入れを積極的に行い、人材の育成に貢献した。また、医師については初期研修医・専攻医を積極的に受け入れ、研修管理常任委員会を中心に人材育成の充実を図った。

関連指標 (単位:人)

項目	中央市民病院			西市民病院		
	平成27年度実績	平成28年度実績	前年度差	平成27年度実績	平成28年度実績	前年度差
講師等派遣数(延人数)	1,243	1,108	▲135	191	155	▲36
臨床研修医数	36	39	3	16	14	▲2
専攻医数	112	122	10	19	21	2
学生実習等受入数(延人数)						
医学部生・歯学部生	1,052	767	▲285	258	221	▲37
看護学生	3,642	3,589	53	2,294	2,509	215
薬学部生	2,133	1,946	▲187	682	805	123
臨床検査	225	190	▲35	190	148	▲42
理学療法・作業療法・言語聴覚	2,537	2,115	▲422	105	102	▲3
臨床工学	556	648	92	72	102	30
管理栄養	110	95	▲15	200	200	0
視能訓練	85	36	▲49	0	0	0

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

2 働きやすくやりがいの持てる環境づくり

(1) 努力が評価され報われる人事給与制度等の導入

中期目標	努力が評価され、報われる人事給与制度や昇任制度を導入するなどやりがいのある病院となるよう努めること。
------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・組織及び職員それぞれの業績や、チーム医療をはじめ医療の質向上等への貢献が病院の経営及び運営に与えた影響等を総合的に評価する公平かつ客観的な評価制度を導入し、社会一般の情勢への適合に加え病院の経営実績も加味しつつ、賞与等の給与に反映する制度を構築する。</p> <p>・昇任制度について、能力や経験等を踏まえた昇任資格の見直し等の改善を行い、優秀な職員を積極的に登用する。</p>	<p>・組織及び職員それぞれの業績や、チーム医療をはじめ医療の質向上等への貢献が病院の経営及び運営に与えた影響等を総合的に評価する公平かつ客観的な評価制度を構築する。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○全職種において人事評価を実施し、目標の達成度の確認や個人の能力伸長を図る</p> <p>・昇任制度について、能力や経験等を踏まえた昇任資格の見直し等の改善を行い、優秀な職員を積極的に登用する。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○法人職員の係長昇任選考試験を実施し、優秀な職員を積極的に登用する</p>	<p>・組織及び職員それぞれの業績や、チーム医療をはじめ医療の質向上等への貢献が病院の経営及び運営に与えた影響等を総合的に評価する公平かつ客観的な評価制度を構築に取り組んだ。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○医師以外の職種について、神戸市と同様に4月より人事評価制度を本格実施し、医師については試行的に実施した。また、人事評価結果の給与等への反映について、神戸市と同様に平成28年度の評価結果を活用した。さらに、4月より医師緊急対応勤務手当について職務実態に応じた手当支給となるよう支給区分を細分化した。</p> <p>・昇任制度について、能力や経験等を踏まえた改善を行い、優秀な職員を積極的に登用した。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○優秀な職員を積極的に登用するため、法人固有職員の係長昇任選考を実施した（平成28年度合格者：薬剤師4名、臨床検査技師1名、診療放射線技師1名、事務職3名）。</p>	1	3		<p><b>【評価のポイント・評価委員意見】</b></p> <p>・絶対評価で行う人事評価は、昇給・昇任が別途必要となり負担が大きい。一方、相対評価は評価自体が難しい。医師の人事評価を本格実施する際にはどのように評価するのか。</p>

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

2 働きやすくやりがいの持てる環境づくり

(2) 働きやすい環境の整備

中期目標	市民病院で働く職員の業務を明確にし、適切な役割分担を図るとともに勤務環境を整備するなど、意欲ある職員が働き続けられるように努めること。
------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・病院で働くすべての職員にとってやりがいがあり、働きやすい職場づくりを行うため、職員ニーズを把握し、執務環境の改善等モチベーション向上に繋がる具体的な取り組みを実施する。</p>	<p>・病院で働くすべての職員にとってやりがいがあり、働きやすい職場づくりを行うため、職員ニーズを把握し、執務環境の改善等モチベーション向上に繋がる具体的な取り組みを実施する。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○職員のモチベーション向上のため、優秀職員表彰を継続して実施する（優秀職員表彰、善行職員表彰、永年勤続表彰）</p> <p>○職員満足度調査結果に基づき、改善が可能なものから順次実施し、職員満足度の向上に取り組む</p>	<p>・職員ニーズを把握してよりよい執務環境を提供するため、両病院及び法人本部において全職員（委託職員、中央市民病院のPFI職員等を含む）を対象とした職員満足度調査を平成26年度に実施した。その結果を踏まえ、平成28年度も引き続き改善すべき項目等について取り組んだ。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○特に優れた行いや病院経営に貢献した職員・団体を表彰することにより、職場の活性化・勤労意欲の向上を図ることを目的として、優秀職員表彰を実施した。</p> <p>①優秀職員表彰：理事長表彰 2団体 中央院長表彰 1名 7団体 西院長表彰 1名 4団体</p> <p>②善行職員表彰：理事長表彰 1名</p> <p>③永年勤続表彰：勤続20年 1名 勤続30年 該当者なし</p> <p>○両病院において、各部門・部署における日頃の業務を病院全体の職員等に周知する発表会を開催し、来場者による投票で院長から表彰を行うとともに、西市民病院においては、同時に各部門・部署における病院機能の向上・業務の効率化を達成させるための改善活動・提案を、病院全体に報告する発表会「改善活動発表会」を開催し、審査員による投票で院長表彰を行った。</p> <p>○調査結果に基づき、経営状況等を踏まえながら、満足度の低い項目について改善に取り組み、職員満足度の向上に繋がった。</p> <p><b>(中央市民病院)</b></p> <p>○職員満足度調査結果を踏まえ、北館・研修棟の増築に合わせて更衣室を拡充し、研修施設を充実させた。また、病児保育室も整備し、9月より運用を開始した。今後も引き続き各部署で改善に取り組み、</p>	1	3		<p><b>【評価のポイント・評価委員意見】</b></p> <p>・（年功序列の給与体系において）若年の退職者の割合が多いというのであれば、改善するべきである。</p>



<p>・育児等を行う職員が安心して働けるよう院内保育所等の充実や、超高齢社会への対応も踏まえた職員が働きやすい環境を実現するための制度の積極的活用及び一層の充実に取り組む。</p>	<p>(中央市民病院) ○南館・北館増築, 既存施設改修により, 職員の執務環境の改善を図る</p> <p>(西市民病院) ○東館増築, 既存施設改修により, 職員の執務環境の改善を図る</p> <p>・育児等を行う職員が安心して働けるよう院内保育所等の充実や, 超高齢社会への対応も踏まえた職員が働きやすい環境を実現するための制度の積極的活用及び一層の充実に取り組む。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> ○育児や介護と仕事を両立できるよう, 育児短時間勤務制度や介護休暇制度の充実を図る</p> <p>(中央市民病院) ○育児をしながら安心して勤務が続けられるよう, 院内保育所の充実を図り, 利用しやすい運営に努める。また, 病児保育の運営を開始し, 職員が働きやすい職場づくりをより一層図る</p>	<p>職員満足度の向上に繋げていく。</p> <p><b>(西市民病院)</b> ○職員満足度調査結果を受け, 平成 27 年度に引続き, 売店の営業時間が延長 (17 時→18 時) された。また, 看護部では, 看護管理者のマネジメント能力の向上や専門性の高い看護職員の育成と確保のほか, WLB (ワークライフバランス) の推進 (夜勤・交代制勤務時間の検討, 保育所の検討, 育児休業からの復帰研修の実施等) や他職種との役割分担による看護職員の負担軽減などの課題に取り組んだ。</p> <p><b>(中央市民病院)</b> ○職員満足度調査の結果を踏まえ, 北館・研修棟の増築等により, 人材育成センター, 会議室, 更衣室, 仮眠室等を設置し, 職員の執務環境の改善を図った。</p> <p><b>(西市民病院)</b> ○東館増築・既存施設改修事業において, 更衣室や事務スペースを拡充する等, 職員の執務環境やアメニティの改善に向けて検討を行った。</p> <p>・職員の働きやすい環境を実現するため, 子の看護休暇, 介護休暇及び介護休業の取得について, 時間単位で取得できるよう運用を拡大し, 一層の充実に取り組んだ。</p> <p><b>具体的な取り組み</b> ○育児短時間勤務制度や介護休暇制度を継続的に運用した (平成 28 年度末実績: 育児短時間勤務制度利用者 8 名)。また, 7 月より子の看護休暇, 介護休暇についての時間単位で休暇の取得, 9 月より介護休業についての時間単位で休暇の取得を可能とし, 運用の拡充を行った。</p> <p><b>(中央市民病院)</b> ○職員の勤務環境の改善の一環として, 院内保育所の設置及び 21 時までの延長保育, 体調不良児対応型保育及び 24 時間保育 (お泊り保育) について継続実施した。また, 保育所利用者の増加に合わせて, ウッドデッキを改修し, 平成 29 年 4 月より院内保育所の受入れ定員を 25 人増の 145 人に拡充することを決定した。さらに, 病児保育室について, 開設に向け検討会を設置したうえ, 9 月より運用を開始し, 11 月より受入れ人数を 5 名に拡大した (利用者数 93 名 (平成 29 年</p>				
--	--	--	--	--	--	--

<p>・職員の負担軽減を図るため、職種間の連携や役割分担、民間事業者の活用等を促進するとともに、勤務体制の工夫及び改善等を行う。</p>	<p>(西市民病院)</p> <p>○育児をしながら安心して勤務が続けられるよう、病児保育を含め、保育施設の確保について検討を進める</p> <p>・職員の負担軽減を図るため、職種間の連携や役割分担、民間事業者の活用等を促進するとともに、勤務体制の工夫及び改善等を行う。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○医師・看護職員の負担軽減のため、医療クラークや病棟クラーク等の更なる活用のための検討及び職種間における連携や役割分担を引き続き進める</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○外来クラークと文書作成補助等を行う医療クラークについて、引き続き業務内容の検討を行い、医師の負担軽減に努める</p> <p>○病棟クラーク及びナースエイドを活用し、看護職員等の負担軽減を図る</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○外来クラークや病棟クラーク等の配置を継続し、職種間の連携や役割分担により、医師・看護職員の負担軽減に努める</p>	<p>3月末現在)。引き続き職員の子育てを支援するとともに、働きやすい環境づくりを進めていく。</p> <p><b>(西市民病院)</b></p> <p>○職員が育児をしながら安心して勤務が続けられるよう、平成28年度より、病児保育施設と協定を締結して柔軟な預け入れ体制を確保するとともに、認可外保育所の入所枠(2人)を確保した。また、職員子育て支援委員会を6月に開催し、要望等について整理したうえ、近隣の賃貸物件を借り上げて院内保育所を開設する方針を決定し、運営業者の決定等、平成29年4月の開設に向け準備を進めた。さらに、既存施設改修事業において、病児保育室の設置(本館5階病棟)を予定している。</p> <p>・職員の負担軽減を図るため、職種間の連携や役割分担、民間事業者の活用等を促進するとともに、勤務体制の工夫及び改善等を行った。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○両病院において、医療クラークや病棟クラーク等を継続配置し、医師・看護職員の事務負担軽減を図った。</p> <p><b>(中央市民病院)</b></p> <p>○ドクターズクラーク業務に関する要望を検討するため、医師、外来クラーク、医療クラークを対象にアンケートを平成27年度に実施し、ドクターズクラーク検討委員会において、医師、クラークに対する要望・業務範囲について議論した。また、人員配置の削減についてのアンケートも実施し、ドクターズクラークの配置基準を定め、平成28年度より、配置基準に基づきクラークを配置した。</p> <p>○患者搬送や介助補助等の患者周辺業務を行う病院業務員(ナースエイド)及び文書入力等の機器操作に関する業務等を行う病棟クラークの配置を継続し、看護師の負担軽減を図った。</p> <p><b>(西市民病院)</b></p> <p>○各外来診察室、薬剤部、臨床検査技術部への事務クラークの配置継続や、外来クラーク、メディカルクラーク(メディカルアシスタント)の順次増員により、医師・看護職員等の負担軽減を図った。また、看護職員が看護業務に専念できるよう、病院業務員のケア業務の拡大に取り組んだ。</p>				
--	--	--	--	--	--	--

<p>・職員の様々な相談窓口（メンタルヘルス、ハラスメント及び内部通報等）について、積極的な周知を図り利用を促進するとともに、職場におけるストレスの解消やメンタルヘルスに関する支援を充実させる等、職員の精神的な健康の確保のための取り組みを充実する。</p>	<p>・職員の様々な相談窓口（メンタルヘルス・ハラスメント・内部通報等）について、積極的な周知を図り利用を促進するとともに、職場におけるストレスの解消やメンタルヘルスに関する支援を充実させる等、職員の精神的な健康の確保のための取り組みを充実する。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○労働安全衛生の確保のため、法人本部において両病院を統括する市民病院機構安全衛生委員会を開催して、機構内の情報共有を図り、必要な対策に取り組む</p> <p>○法改正により義務化された新たなメンタルヘルス対策への対応を踏まえ、職員自身が心の健康状態を自覚し、ストレスの軽減等に努め、不調の早期発見・対応ができるよう、全職員を対象にストレスチェックを実施する</p> <p>○リエゾンチームによるせん妄患者、うつ患者への診療サポートの充実を図り、職員のメンタルヘルスサポート体制を強化して安心して勤務できる環境づくりに取り組む (西市民病院)</p> <p>○夜間・休日に安心できる環境をつくるため、警察OBの毎日24時間配置体制を継続して行う</p>	<p>・職員の様々な相談窓口（メンタルヘルス・ハラスメント・内部通報等）について、積極的な周知を図り利用を促進するとともに、職場におけるストレスの解消やメンタルヘルスに関する支援を充実させる等、職員の精神的な健康の確保のための取り組みを充実した。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○市民病院機構職員安全衛生委員会を2回開催し、両病院職員安全衛生委員会の活動状況等について意見交換を行ったほか、2月に西市民病院において安全パトロールを実施した。また、両病院の安全衛生委員会及び職員安全衛生委員会においても、職員の労働安全衛生の確保に取り組んだ。</p> <p>○法改正に対応するため、職員安全衛生委員会で策定した実施要綱に基づき、全職員を対象にメンタルヘルスチェックを実施し、結果を通知したほか、職員にセルフケアの方法や相談窓口等を周知し、回答結果の集団分析を行った。</p> <p>○職員の健康確保等を目的とした機構全体での時間外勤務の縮減について、改めて職員に周知を行った。また、特に長時間の場合、部門長による改善策等の報告を義務付け、法人本部長がヒアリングを行う等、具体的な枠組みを定めて周知を行った。</p> <p>○両病院において、リエゾンチームとして、患者に対しては積極的にリエゾン回診を行い、精神症状の改善を図るとともに、治療に関わるスタッフへの心身の健康サポートに取り組んだ。</p> <p><b>(西市民病院)</b></p> <p>○総務課への警察OBの配置、警備員の24時間365日配置を継続し、安全・安心な診療体制の確保に取り組んだ。また、暴言暴力や徘徊等問題行動をとる恐れがある患者等について、警備員及び警察OBに対しての定期的な巡回等を依頼する警備対応依頼書の運用を継続実施するとともに、「暴力行為等対策マニュアル」に基づき、暴力行為等に対して的確に対応した。</p>				
--	---	---	--	--	--	--

**第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置**  
**1 安定的な経営基盤の維持**  
**(1) 安定的な経常収支及び資金収支の維持**

**中期目標** 本市からの運営費負担金の交付の下、政策的医療を行い、市民病院としての役割を果たしながら、中期目標期間を通じて収支を均衡させるよう、各年度安定的な病院経営の維持を図ること。

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>政策的医療に係る市からの運営費負担金等の交付の下、市民病院としての役割を果たすとともに、増収対策及び費用の合理化により、安定した経営基盤を維持し、より自立した経営を行う。</li> <li>医療を取り巻く環境の変化に迅速に対応できるよう、適時、的確な経営分析を進めるとともに、地方独立行政法人の特性を生かした、機動的かつ戦略的な病院経営を行うことにより、安定的な経常収支及び資金収支の維持を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>政策的医療に係る市からの運営費負担金等の交付の下、市民病院としての役割を果たすとともに、安定した経営基盤を維持し、より自立した経営を行う。</li> <li>医療を取り巻く環境の変化に迅速に対応できるよう、適時、的確な経営分析を進めるとともに、地方独立行政法人の特性を生かした、機動的かつ戦略的な病院経営を行うことにより、安定的な経常収支及び資金収支の維持を図る。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○会計規程等の関連規程の下、弾力的に運用できる会計制度を活用した予算執行を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>政策的医療に係る市からの運営費負担金等の交付の下、市民病院としての役割を果たすとともに、安定した経営基盤を維持し、より自立した経営を行った。</li> </ul> <p><b>【平成28年度決算概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中央市民病院においては、精神科身体合併症病棟の開設、地域医療連携のさらなる推進に努めたこと等によって平均在院日数が平成27年度を下回る10.4日に短縮されたこと、高額手術件数が増加したこと等により、入院収益が上昇した。また、外来についても外来化学療法件数の増による診療単価の増等により増収となった。西市民病院においては、在宅医療への支援を含め地域医療機関との連携強化を図るとともに、C型肝炎治療薬等の使用に伴う投薬料の増等によって医業収益を確保した。費用の合理化の面では、民間のベンチマークの活用等による価格交渉を実施し費用の削減につなげた。さらに、在庫定数の見直し等、適正な維持管理を引き続き行った。平成28年度決算では、消費税負担の増等、病院を取り巻く環境が厳しさを増す中、上記のような取り組みを継続するほか、職員一丸となって経営改善策を実施することにより収益の改善や経費の縮減等に努めたものの、消費税負担の影響及び給与費の増加、高度医療の提供等による費用の増加、医師の異動等による患者数の減少により、経常収支比率は中央市民病院について目標値100.0%に対して99.7%、西市民病院においては、目標値100.0%に対して96.5%となり、目標値を下回る結果となった。単年度資金収支については、現中央市民病院整備にかかる借入金返済が大きく、中央市民病院で9億円の赤字、西市民病院で3億2,000万円の赤字となった。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○会計規程等の関連規程の下、引き続き複数年契約等弾力的に運用できる会計制度を活用した予算執行を行った。また、行政的医療・不採算的医療に係る運営費負担金について、西神戸医療センター移管、</p>	2	3		<p><b>【評価のポイント・評価委員意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員を一度雇用してしまうと、後で体制を減らすことは困難であり、人材の流動性を高めることが人件費の削減につながる。</li> <li>消費税の引き上げに伴う対策を検討しておく必要がある。</li> <li>経常収支が赤字ではあったが、救急医療の提供をはじめとして、これほどの診療実績を出しており、病院としての役割を果たしていることから、自己評価「3」に特に異論はない。</li> <li>中央市民病院の入院患者あたりの収益が高く、しかも病床利用率が94%程度と高率であり、どこに赤字が生じる原因があるのか。</li> <li>当初の人員計画と実際の人員配置とで大きな乖離があることについて、しっかりとした原因分析をしておかなければならない。</li> <li>中央市民病院の収益性が低下してきている以上、西市民病院においても、より稼働率を向上させ、西市民病院単独でも黒字化できるよう経営努力をするべきである。</li> <li>年度評価としては、特に大きな問題はないと判断するが、中長期的</li> </ul>

	<p>(中央市民病院)</p> <p>○診療科別原価計算を活用した院長ヒアリングを実施することで、各診療科の傾向把握・分析を行うとともに、各診療科部長が経営の視点を踏まえて業務を行うことを徹底し、安定した経営基盤の確立に取り組む</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○診療科別損益計算を活用した院長ヒアリングを実施することで、各診療科部長が経営の視点を踏まえて業務を行うことを徹底するとともに、戦略的投資による収益力の向上を図り、安定した経営基盤を維持する</p> <p>○平成 28 年度の診療報酬改定に迅速に対応するとともに、外部コンサルタントの講演会を開催する等、病院職員全体の経営意識を高める</p>	<p>先端医療センター病院統合, アイセンター病院開設等も踏まえ、神戸市財政局と協議のうえ、適正な額を確保した。</p> <p><b>(中央市民病院)</b></p> <p>○院長ヒアリングを年 2 回実施した (第 1 回 6 月～8 月, 第 2 回 12 月～2 月)。各診療科の現状を分析し特性を把握するとともに、各診療科部長に経営の視点を意識してもらい、今後の方向性を議論するために診療科別収支資料を活用することで安定した経営基盤の確立に取り組んだ。</p> <p>○業務経営改善委員会においては、月次決算をもとに、月毎の決算見込みを出し、予算の執行管理及び対策を早期に講じることのできる仕組みを構築する等、幹部会をはじめ各種委員会にて、様々な経営改善を講じた。</p> <p><b>(西市民病院)</b></p> <p>○診療科別の収益概要及び原価計算書をもとに、各診療科・部門毎に院長ヒアリングを行い (5 月, 11 月), 診療科ごとの経営改善意識の向上を図った。</p> <p>○平成 28 年度診療報酬改定後の動向についての講演会を 8 月に開催したほか、外部コンサルタントの講演会を実施した。また、4 月に業務経営改善委員会で議題に取上げ、職員全体の経営意識を高めた。</p>				<p>な視点から見れば、懸念材料が徐々に目立ってきたと言える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人事院勧告による給与改定や消費税の補てん不足がどの程度なのかを試算した上で、予算組みすべきであり、その点も考慮した上で黒字を確保すべきではないか。一般企業においては、当然そのあたりのリスクヘッジもしており、(人事院勧告に基づく給与改定について) 確実性が高いにもかかわらず、対策を講じないことは疑問である。</li> </ul>
--	--	--	--	--	--	--

目標値（実績値は平成24年度・目標値は平成30年度、単年度資金収支の目標値は5年間の累計）

項目	中央市民病院		西市民病院	
	実績値	目標値	実績値	目標値
単年度資金収支(百万円)	2,606	571	525	48
経常収支比率(%)	105.2	100.5	105.9	100.1

関連指標（単位：%，平成24年度実績）

項目	中央市民病院	西市民病院
運営費負担金比率	7.6	10.1
医業収支比率	99.0	99.4

目標値（実績値は平成26年度・目標値は平成28年度）

項目	中央市民病院		西市民病院	
	実績値	目標値	実績値	目標値
単年度資金収支(百万円)	1,375	▲848	80	30
経常収支比率(%)	100.1	100	100.3	100

関連指標（単位：%，平成26年度実績）

項目	中央市民病院	西市民病院
運営費負担金比率	7.1	10.2
医業収支比率	96.1	95.3

目標値

	項目	平成28年度目標値	平成27年度実績値	平成28年度実績値	目標差
中央市民病院	単年度資金収支(百万円)	▲848	▲1,435	▲900	▲52
	経常収支比率(%)	100.0	99.7	99.7	▲0.3
西市民病院	単年度資金収支(百万円)	31	▲383	▲320	▲351
	経常収支比率(%)	100.0	98.1	96.5	▲3.5

関連指標

(単位：%)

	項目	平成27年度実績値	平成28年度実績値	前年度差
中央市民病院	運営費負担金比率	7.2	6.7	▲0.5
	医業収支比率	96.5	97.7	1.2
西市民病院	運営費負担金比率	8.7	8.0	▲0.7
	医業収支比率	92.1	91.0	▲1.1

**第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置**

**1 安定的な経営基盤の維持**

**(2) 収入の確保**

<b>中期目標</b>	病床や手術室及び高度医療機器の効率的な運用を行うとともに、診療報酬の請求漏れや減点を防止し、堅実な未収金対策を講ずるなどして、確実に収入を確保すること。 また、診療報酬改定に的確かつ速やかに対応するため、人的及び物的な資源を有効に活用し、収入が確保できるよう努めること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
・各病院の医療機能に応じた患者の受け入れ強化や適切な病床利用率の維持、DPC/PDPSを踏まえた在院日数の適正化、手術室や医療機器の効率的な運用等を行う。	・各病院の医療機能に応じた患者の受け入れ強化や適切な病床利用率の維持、DPC/PDPSを踏まえた在院日数の適正化、手術室や医療機器の効率的な運用、増収のために体制の充実・適正化等を行い継続的に安定した収入を確保する。 <b>具体的な取り組み</b> ○機構の資金需要を予測した上で、留保資金について、大口定期、国債、地方債等での資金運用を積極的に行う ○寄付金を積極的に受け入れるため、院内でPRチラシを配布するとともに、寄付をいただいた方をホームページで紹介する等の取り組みを行う  （中央市民病院） ○病床の一元的管理を徹底し、救急部門、重症部門の効率的な運用を図る	・両病院において医療機能に応じた患者の受け入れを行い、適切な病床利用率を維持するとともに、DPC/PDPSを踏まえた在院日数の適正化に取り組み、手術室等の効率的な運用や増収のための体制づくり等を実施し、安定した収入の確保を図った。  <b>具体的な取り組み</b> ○資金需要を予測し、大口定期や地方債での安全かつ有利な方法で資金運用を積極的に行った（平成29年3月末時点：大口定期運用額30億円、債券運用額5億円、利息収入額13,127千円）。  ○寄付金を積極的に受け入れるため、院内でPRチラシを配布するとともに、寄付をいただいた方をホームページで紹介する等の取り組みを行った（平成28年度実績：機構全体での寄付受入額21,473千円）。中央市民病院では、外来待合や1階放射線治療センター前展示コーナーに案内チラシを配置する等、院内各所で寄付金募集をPRするとともに、ホームページのトップページに寄付のお願いバナーを設置し、病院長名で寄付をお願いする等の取り組みを行った。また、西市民病院では、入院患者へ寄付金案内チラシを配布する等、寄付金を積極的に受け入れるための取り組みを開始した。  ○平成28年度は、有識者による幹部職員向け勉強会を5月に実施し、寄付方法の利便性向上等に向けた検討をしたほか、遺贈信託業務にかかる協定書締結に向け、複数の金融機関と協議を進めた。  <b>（中央市民病院）</b> ○看護部所属の病床管理専従看護師（ベッドコントローラー）を地域医療推進課との兼務にすることによって、病床の一元的管理を行い、稼働状	2	3		

<p>・診療報酬の徹底した分析を行い、増収のために体制の充実及び適正化を図る等、継続的に安定した収入を確保する。</p>	<p>○専門外来を積極的にPRし、新たな患者獲得を図るとともに、紹介・逆紹介をより一層推進し、地域医療機関との連携を進め新規患者確保に努める</p> <p>○高度専門医療センターをはじめとした新たな機能を有効に活用するなど、さらなる医業収益の確保に向け経営戦略を推進していく (西市民病院)</p> <p>○紹介・逆紹介をより一層推進し、地域医療機関との連携を進め新規患者確保に努める</p> <p>○看護部病床一元管理者により、午前退院午後入院を含め、病床利用を円滑に行う</p> <p>・診療報酬の徹底した分析を行い、増収のために体制の充実・適正化を図る等、継続的に安定した収入を確保する。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○平成28年度診療報酬改定の情報収集に努め、収入増に繋がる新規項目や新たな加算の取得に向け、体制の充実・適正化を実施し、安定した収入を確保する</p>	<p>況を適切に把握し、スムーズな情報伝達を行った。</p> <p>○専門外来を積極的にPRし、新規患者確保に取り組んだ(平成28年度専門外来患者数：女性外来455人、生活習慣外来343人、フットケア外来299人、ストーマ外来619人、がん化学療法副作用説明外来536人、内服薬確認外来659人)</p> <p>○新たな医療機能を有効に活用する等、さらなる医業収益の確保のために検討を行った。</p> <p><b>(西市民病院)</b></p> <p>○紹介率の向上に向け、地域医療部長や各診療科長等による地域医療機関への訪問を継続したほか、患者・市民等への啓発として、受診の際にかかりつけ医の紹介状をできるだけ持参いただくよう患者・家族にPRするチラシの配布やポスターの掲示、病院正面玄関前への立看板の設置、病院外壁への横断幕の設置、院内放送を行った。また、オープンカンファレンス等の開始前に「診療予約のご案内」のスライドを表示するほか、市民公開講座等の開始前にもかかりつけ医の紹介状を持参いただくようPRし、地域住民へも広く啓発を行った。さらに、「連携医だより」や「あじさい通信」で新しい大腸検査法であるCTCを導入したこと等のPRを行った。</p> <p>○看護部病床一元管理者の専任制を継続し、病床の稼動状況把握や判断を円滑に行い、午前退院午後入院を含め救急患者受入れ等のため病床確保を的確に行った。また、病床運用を最適化し、医療ニーズに柔軟に対応するため、前年度実績や医師数の変更を踏まえて、各診療科・病棟の配分病床数の見直しを行った。</p> <p>・両病院において、診療報酬の分析を行い、増収のために体制の充実・適正化に取り組んだ。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○平成28年度の診療報酬改定を受け、中央市民病院では、院内スタッフに改定内容を周知したうえ、全診療科の医師に対して説明を行い、診療報酬の新規項目取得に向け、施設基準を整え近畿厚生局に4月に提出した(基本：病棟薬剤業務実加算、総合入院体制加算2、看護職員夜間配置加算、精神疾患診療体制加算、特掲：遺伝学的検査、乳房MRI撮影加算、骨移植術、腹腔鏡下肝切除術、腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術等)。また、</p>				
--	---	---	--	--	--	--



<p>・未収金対策については、組織全体の取り組みとして、その発生の未然防止を図るとともに、回収率を向上させる。</p>	<p>(中央市民病院)</p> <p>○救急、小児及び周産期医療に注力するとともに、多職種によるチーム医療を推進し、診療報酬改定にきめ細かく対応する</p> <p>・未収金対策については、組織全体の取り組みとして、各病院で職場間の連携をより充実させ、その発生の未然防止を図るとともに、発生した未収金については回収率を向上させる。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○未収金対策について、より効果的な取り組みが両病院で実施できるよう、検討会を適宜開催し、方法の検討や調整、ノウハウの共有、実施段階での協力を積極的に行う</p> <p>○未収金の回収について、引き続き弁護士法人に債権回収を委託するとともに、支払い能力があるにも関わらず請求に応じない者については、簡</p>	<p>10月より総合入院体制加算1、排尿自立指導料の算定を開始したほか、認知症ケア加算1の算定に向けて看護部等と打合せを行い、準備を進めた(平成29年5月より算定開始)。西市民病院では、医事課が中心となって関係部署と新たな加算の取得等に向けて調整を行い、5月より認知症ケア加算1、6月より退院支援加算1、1月よりがん患者指導管理料3の算定を開始した。また、改定で要件が厳格化された特定集中治療室管理料3について、救急委員会にて充足率維持のための対応を検討し、集中治療室の入退室基準の変更を行うとともに、地域医療支援病院入院診療加算の算定継続に向け、紹介率・逆紹介率の向上に取り組んだ。</p> <p><b>(中央市民病院)</b></p> <p>○診療報酬改定の重点である救急、小児及び周産期医療に注力するとともに、多職種によるチーム医療を推進し、診療報酬改定に細かく対応した。平成28年度は、第2救急病棟(8床)及びMPU病棟(8床)の開設に伴い、厚生局に入院基本料の届出を行った。</p> <p>・未収金対策については、組織全体の取り組みとして、未収金の発生防止を図るとともに、回収率を向上させる取り組みを行った。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○中央市民病院では、派遣職員を含む医事課未収金対策チームを設置し、入院、外来で一体となって未収金対策を引き続き行った。また、10月より救急外来において、未収患者に対する誓約書の徴収を開始し、年末年始における未収対策として、急に退院が決まった患者に発送する請求書を昨年より1週間短縮し送付した。西市民病院では、退院時の支払誓約書の記入や、国保の高額貸付や公費負担制度、出産一時金直接支払制度の説明を徹底し、分納支払者の入金確認を強化するとともに、督促業務の流れに関し、委託職員及び派遣職員と連携し、継続して催告を実施した。法人本部においては、未収金担当者会議、医事課長会、未収金対策会議の開催、理事会・常任理事会への平成27年度取組み状況の報告、弁護士事務所へのヒアリングを行い、機構全体で未収金対策に取り組んだ。</p> <p>○両病院及び西神戸医療センターの3病院による未収金回収業務委託を行うため、6月に公募を行い、10月より新しい弁護士事務所との契約を開始した。新たな委託先に対して各病院医事課とヒアリングを実施するとともに、回収方法等について協議を行った。また、今後は簡易裁判所へ</p>				
---	--	--	--	--	--	--

<p>易裁判所へ支払督促を申し立てるなど回収策の強化を図る (中央市民病院)</p> <p>○医事課内に対策チームを設置し、レセプト院内審査支援システムを活用して、診療報酬の請求漏れや減点を防止する</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○医事委託業者とも連携し、診療報酬の請求漏れ防止や査定率改善のための現状分析及び対策について引き続き検討する</p> <p>目標値(単位:%,実績値は平成24年度・目標値は平成30年度)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">中央市民病院</th> <th colspan="2">西市民病院</th> </tr> <tr> <th>実績値</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率*</td> <td>95.5</td> <td>93.5</td> <td>90</td> <td>89.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※病床利用率={毎日24時現在の在院患者数+退院患者数(当日入院当日退院患者も含む。)/許可病床数(中央は感染症病床を除く。)}×日数(365又は366)}×100  ※{毎日24時現在の在院患者数/許可病床数(中央は感染症病床を除く。)}×日数(365又は366)}×100にて算出した平成24年度の病床利用率は中央市民病院87.3%,西市民病院83.0%となる。</p>	項目	中央市民病院		西市民病院		実績値	目標値	実績値	目標値	病床利用率*	95.5	93.5	90	89.5	<p>の新規支払督促について弁護士事務所が代行する。</p> <p><b>(中央市民病院)</b></p> <p>○診療報酬の請求漏れや減点の防止のために、医事課を中心に対策チームを設置し、請求漏れ対策について検討し(平成28年度実績:12回実施)、少額の請求であっても確認して請求することにより、当月請求率の向上に取り組んだ。また、保険・DPC委員会を毎月開催し、査定対策やDPC分析結果について議論するとともに、委員会でコーディング勉強会を年4回開催した。さらに、6月よりレセプト審査支援システム「べてらん君」を本格導入し、精度の高い事務点検を効率的に行った。</p> <p><b>(西市民病院)</b></p> <p>○DPC保険対策委員会を毎月開催し、DPCについての基本的理解や運用について議論し、毎月の査定事例の詳細な検討や情報共有を行う等、請求漏れ防止や査定減対策を図った。</p> <p>○平成27年2月に歯科を対象として実施された、保険診療の取扱いや診療報酬の請求等に関する事項について周知徹底させることを目的とした共同指導(厚生労働省・近畿厚生局・兵庫県)について、12月8日に再指導が実施され、今後必要な改善を図っていく。</p> <p>目標値(単位:%,実績値は平成26年度・目標値は平成28年度)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">中央市民病院</th> <th colspan="2">西市民病院</th> </tr> <tr> <th>実績値</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率*</td> <td>92.9</td> <td>92.7</td> <td>87.7</td> <td>89.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 病床利用率={ (毎日24時現在の在院患者数+退院患者数(当日入院当日退院患者も含む。)) / 許可病床数(中央は感染症病床を除く。)} × 日数(365又は366)} × 100  ※ {毎日24時現在の在院患者数/許可病床数(中央は感染症病床を除く。)} × 日数(365又は366)} × 100にて算出した平成26年度の病床利用率は中央市民病院84.6%,西市民病院80.6%となる。</p>	項目	中央市民病院		西市民病院		実績値	目標値	実績値	目標値	病床利用率*	92.9	92.7	87.7	89.2	<p>目標値(単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>平成28年度目標値</th> <th>平成27年度実績値</th> <th>平成28年度実績値</th> <th>目標差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央市民病院</td> <td>病床利用率</td> <td>92.7</td> <td>92.5</td> <td>94.1</td> <td>1.4</td> </tr> <tr> <td>西市民病院</td> <td>病床利用率</td> <td>89.2</td> <td>83.5</td> <td>85.6</td> <td>▲3.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>※病床利用率={毎日24時現在の在院患者数+退院患者数(当日入院当日退院患者も含む。)/許可病床数(中央は感染症病床を除く。)}×日数(365又は366)}×100  ※{毎日24時現在の在院患者数/許可病床数(中央は感染症病床を除く。)}×日数(365又は366)}×100にて算出した平成28年度の病床利用率は中央市民病院85.0%,西市民病院78.7%となる。</p>		項目	平成28年度目標値	平成27年度実績値	平成28年度実績値	目標差	中央市民病院	病床利用率	92.7	92.5	94.1	1.4	西市民病院	病床利用率	89.2	83.5	85.6	▲3.6				
項目		中央市民病院		西市民病院																																																
	実績値	目標値	実績値	目標値																																																
病床利用率*	95.5	93.5	90	89.5																																																
項目	中央市民病院		西市民病院																																																	
	実績値	目標値	実績値	目標値																																																
病床利用率*	92.9	92.7	87.7	89.2																																																
	項目	平成28年度目標値	平成27年度実績値	平成28年度実績値	目標差																																															
中央市民病院	病床利用率	92.7	92.5	94.1	1.4																																															
西市民病院	病床利用率	89.2	83.5	85.6	▲3.6																																															

関連指標 (平成 24 年度実績)			関連指標 (平成 26 年度実績)			関連指標								
項目	中央市民病院	西市民病院	項目	中央市民病院	西市民病院	項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	前年度差					
平均在院日数(日)	11.6	12.8	平均在院日数(日)	11.2	12.5	中央市民病院	平均在院日数(日)	10.8	10.4	▲0.4				
延患者数(人)	入院 240,628	入院 117,560	延患者数(人)	入院 233,978	入院 114,541		延患者数(人)	入院	233,611	236,932	3,322			
	外来 447,680	外来 259,540		外来 469,642	外来 236,348			外来	478,070	483,315	5,245			
新規患者数(人)	入院 20,711	入院 9,153	新規患者数(人)	入院 20,983	入院 9,140		新規患者数(人)	入院	21,559	22,701	1,142			
	外来 86,464	外来 26,806		外来 87,345	外来 24,744			外来	86,688	86,392	▲296			
患者1人1日当たり診療単価	入院 85,545	入院 51,028	患者1人1日当たり診療単価	入院 90,438	入院 53,169		患者1人1日当たり診療単価(円)	入院	93,246	95,833	2,587			
	外来 16,245	外来 11,116		外来 16,869	外来 12,145			外来	17,717	19,172	1,455			
査定減率(%)	入院 0.50	入院 0.12	査定減率(%)	入院 0.47	入院 0.35		査定減率(%)	入院	0.61	0.94	0.33			
	外来 0.17	外来 0.19		外来 0.29	外来 0.29			外来	0.16	0.14	▲0.02			
未収金額(百万円)	現年 86	現年 38	未収金額(百万円)	現年 37	現年 12		未収金額(百万円) 現年	現年	49	38	▲11			
	滞納繰越 122	滞納繰越 41		滞納繰越 88	滞納繰越 35			滞納繰越	92	105	13			
							西市民病院	平均在院日数(日)	12.3	12.4	0.1			
								延患者数(人)	入院	109,352	111,797	2,445		
									外来	217,182	209,636	▲7,546		
						新規患者数(人)		入院	8,934	8,992	58			
								外来	23,081	21,524	▲1,557			
						患者1人1日当たり診療単価(円)		入院	53,385	53,698	313			
								外来	13,628	14,732	1,104			
						査定減率(%)		入院	0.38	0.32	▲0.06			
								外来	0.29	0.34	0.05			
						未収金額(百万円) 現年		現年	12	20	8			
								滞納繰越	36	41	5			

※ 中央市民病院の入院については、MPU病床分含まず。  
(参考) MPU病床  
平均在院日数 15.7 日, 延入院患者数 1,357 人  
患者 1 人 1 日当たり入院診療単価 38,196 円

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 安定的な経営基盤の維持

(3) 費用の合理化及び業務の効率化

中期目標

引き続き地方独立行政法人のメリットを生かし、コストの徹底管理及び各部門での業務内容や委託業務の見直しを行い、費用の合理化及び業務の効率化を図ること。

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・固定費をはじめとした費用については、給与費比率、経費比率等病院経営指標を分析し、その削減や効率化及び平準化を図る。また、業務内容や執行状況等を定期的に検証し、業務の効率化を進める。</p>	<p>・固定費をはじめとした費用については、給与費比率、経費比率等病院経営指標を分析し、その削減や効率化及び平準化を図る。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○職員給与費について、医療の質の向上や医療安全の確保、患者サービス向上等に充分配慮したうえで、適切な取り組みを進める</p> <p>○給与費比率、経費比率等を考慮しながら、給与費を始めとした固定費について、削減や効率化を図る方策を検討し、実施していく</p> <p>○固定費削減検討プロジェクトチームにおいて、引き続き固定費の分析を行い、固定費削減に向けた取り組みを進める</p>	<p>・固定費をはじめとした費用については、給与費比率、経費比率等病院経営指標を分析し、その削減や効率化及び平準化を図った。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○職員給与費について、国立病院機構や神戸市における対応を参考としながら給料月額増改定（+0.2%・400円、若年層1,500円）、初任給調整手当（+100円）、期末勤勉手当の支給月数の増改定（+0.1月）を実施した。</p> <p>○両病院において、月次決算により、給与費比率や経費比率について常任理事会へ報告し、比率に上昇傾向が見られれば、その要因を分析し、削減や効率化を図る方策を検討した。</p> <p>○中央市民病院では、4月の病院運営協議会において、28年度予算の執行について周知し、効率的かつ効果的な予算執行の徹底を図った。また、9月、12月の決算見込みを病院運営協議会及びメールオールにて全職員に周知し、収益向上と経費削減が喫緊の課題であることを伝えた。また、節電の推進や寄付の推進、古紙回収率の向上等、経営改善に繋がる取り組みを行ったほか、経営改善ワークショップにおいて提案された、後発造影剤の使用推進、電気事業者の見直し等に取り組んだ。</p> <p>○西市民病院では、職員満足度調査の意見も踏まえ、院長より経営改善の取り組み強化についての方針を全職員に周知し、DPC対策の徹底や診療報酬請求事務の改善等について取り組むとともに、院内広報誌にて経営状況について取り上げ、改めて職員の経営改善意識の徹底を図った。</p> <p>○両病院において、本部と共同して固定費削減に向けた継続的な取り組みを進めた。中央市民病院では、医療機器の保守契約内容の一部見直しを行った結果、予算額に対し約27,000千円の削減効果が得られた。平成30年度の医療機器の保守契約に向けて、さらなる保守契約内容の見直し及び複数年契約の推進等を行い、費用の削減を目指していく。西市民病</p>	2	3		

<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療を取り巻く状況の変化への対応、医療の質向上や医療安全の確保、患者サービス向上等に十分配慮した上で、業務量に応じた人員配置や多様な雇用形態の活用等により効率的かつ効果的な体制及び組織を構築する。</li> <li>・診療材料及び医薬品においては、市場調査に基づく価格交渉の継続実施や在庫管理の徹底、さらには多様な契約手法の活用等により、医師はじめ病院全体で、より一層の費用の削減を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不要資産の売却を行い、固定資産税等のランニングコストを削減する</li> <li>○システムや医療機器の更新時期を調整する等、減価償却費の平準化を図る工夫を行う</li> <li>○常任理事会へ毎月経営指標を報告することにより、定期的に経営指標の確認を行う。経費については、経費比率を意識しながら適切な執行管理に努める</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療を取り巻く状況の変化への対応、医療の質向上や医療安全の確保、患者サービス向上等に十分配慮した上で、業務量に応じた人員配置や多様な雇用形態の活用等により効率的かつ効果的な体制及び組織を構築する。</li> <li>・診療材料及び医薬品においては、市場調査に基づく価格交渉の継続実施や在庫管理の徹底、さらには多様な契約手法の活用等により、より一層の費用の削減を進める。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p>	<p>院では、従来は見積合わせにより業者を選定していた委託業務について競争入札に改めることで委託費を削減し、各種医療機器、医療情報システムの保守契約について、複数年契約を活用することで経費を削減した。また、医療機器の保守について、代理店を介さずメーカーと直接契約を結ぶ等契約方法を見直し、保守内容についても精査を行い不要な項目の削除や有利な契約形態への変更を行ったほか、高額な医療機器購入時には、早期から調整を開始して交渉期間を確保し、購入価格低減に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○最後の不要資産である旧細田看護師宿舎（こども家庭局所管である細田保育所との合築）の売却に向け、神戸市（管財課）と協議を行い、市が持分について実施した一般競争入札による落札者に対し、機構持分についても契約締結する方針で、12月に土地売却に関する協定書を締結した。</li> <li>○平成29年4月に移管される西神戸医療センターを含め、各病院の今後の投資について、特に電子カルテ、高額な医療機器の整備については、時期や投資額など十分に協議を行った。また、中央市民病院では、平成29年度予算編成において、大型放射線機器の投資額の平準化を進めるとともに、医療機器の更新について更新対象の基準を引き続き取得後8年とした。また、複数台の更新対象機器については、投資額の平準化を図った計画に基づき導入を進めた。</li> <li>○毎月、常任理事会で経営指標を報告し、情報の共有と課題の抽出に取り組んだ。また、年度途中で適切な執行管理ができていくかどうか、四半期ごとの決算見込みや予算編成時などの機会を通じて、両病院と法人本部にヒアリングを実施した。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療を取り巻く状況の変化への対応、医療の質向上や医療安全の確保、患者サービス向上等に十分配慮した上で、業務量に応じた人員配置や多様な雇用形態の活用等により効率的かつ効果的な体制及び組織の構築に取り組んだ。中央市民病院では、4月にドクターズクラークの配置基準を決め、3月のドクターズクラーク検討委員会で、4月～12月の患者数実績を調査したうえ、平成29年度のクラーク配置を決定した。</li> <li>・在庫削減に努めるとともに、民間ベンチマークシステム改良勉強会に出席し、新たな機能による他施設及び卸業者比較方法を習得して価格交渉を行い、経費のさらなる削減に取り組んだ。また、兵庫県病院局経営課と法人本部と病院合同で勉強会を開催し、機器調達、診療材料・医薬品調達、保守委託等、幅広く意見交換を行った。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p>			
--	---	---	--	--	--

	<p>○在庫管理については、各病院、特に中央市民病院においてはKMC Pと協同して適正な在庫額について検討し、在庫削減に取り組んで適正な維持管理に努めるとともに、廃棄在庫を減らす取り組みを進める</p> <p>○消耗品・診療材料の更なる共通化を図り、平成 29 年度より機構に移管予定の西神戸医療センターもあわせ、スケールメリットを生かした材料費の削減に努める</p> <p>○中央市民病院と西市民病院及び西神戸医療センターで使用する材料の共同購入を進めるため、まずは共通する消耗品の入札を始める</p> <p>○薬価基準改定・特定保険医療材料価格改定等の状況を踏まえ、28 年度の診療材料の購入にあたっては、従前の納入値引率を継続して適用できるよう価格交渉に努める。また、医薬品については、9 月末までに薬価総額 50%以上の妥結率を達成できるよう取り組む</p> <p>○薬剤部は医薬品の安全性を評価したうえで、後発医薬品の導入を促進する</p>	<p>○中央市民病院では、法人本部、KMC Pとの会議を年間で 7 回開催し、期限切れの近い在庫品の使い切りを促す取り組みや在庫定数の見直し等、在庫の適正化に向けた協議を進めた。</p> <p>○西市民病院では、新しい機器や手技の拡大による在庫の増加を抑制するため、7 月より不動在庫リストを活用し、在庫管理の運用改善を図った。</p> <p>○毎月開催される両病院診療材料委員会において報告のある納入価格や在庫方法・数量について、法人本部が確認し、両病院で価格差がある場合は是正に努めた。また、法人本部が主導し、中央市民病院において、北館増築に併せて手術部の在庫場所や定数などを一から見直し在庫削減を進めるとともに、西市民病院において、SPD（院内物流管理）業者に対する確認や指導を行った。</p> <p>○両病院と法人本部で診療材料について、ベンチマークや他病院への聞き取り等の分析を踏まえ、価格交渉を実施した。また、西市民病院では、購入量の多い診療材料について、現場と協力して安価な他社製品への切替えを積極的に行い、費用を削減した。</p> <p>○西神戸医療センター移管を見据え、3 病院共通の消耗品（コピー用紙、事務用ファイル）を法人本部で一括入札し、材料費の削減に取り組んだ。</p> <p>○平成 28 年度 3 病院（中央、西、西神戸）薬剤部長会において、昨年度と同様、各病院における品目別交渉と本部・3 病院合同交渉との 2 段階交渉とし、合同交渉山場には 3 病院薬剤部長出席のうえ交渉する方針を決定し、17 回にわたり薬価値引き交渉を行った結果、年間通算で約 30 百万円(中央:28 百万円, 西:2 百万円)の効果額を確保した。また、医薬品については、9 月末までに薬価総額 50%以上の妥結を達成した。</p> <p>○全国自治体病院協議会「薬の値引き交渉術」勉強会に参加し、C 型肝炎治療薬や肺がん治療薬「オプジーボ」など高額治療薬の値引き状況等の情報収集を行った。</p> <p>○平成 26 年度の診療報酬改定において機能評価係数Ⅱに後発医薬品係数が導入されたことを受け、両病院において、医薬品の安全性を十分評価したうえで、後発医薬品の導入をさらに促進した。中央市民病院での後発医薬品の数量割合は 73.6%（前年度比 5.6%増）、188 品目となった。西市民病院では、薬剤部・薬事委員会が中心となり、内服薬や使用量の多い品目を積極的に後発医薬品へ変更した結果、後発医薬品の数量割合は 79.4%（前年度比 7.4%増）、219 品目となった。高価な医薬品の後発品への変更だけでなく、現在採用している後発品から別の後発品への変更、また、後発品の存在する使用頻度の低い先発品を整理</p>				
--	---	---	--	--	--	--

○より公平・公正で効果的な入札・契約制度を構築していく

○入札・契約に関する勉強会や研修会を開催し、理解を深めるとともに、透明性・公正性を高め、競争性がより働くよう取り組む

目標値（単位：％，実績値は平成24年度・目標値は平成30年度）

項目	中央市民病院		西市民病院	
	実績値	目標値	実績値	目標値
給与費比率	43.3	45.3	54.4	55.8
材料費比率	29.5	29.4	29.4	22.9
経費比率	18.5	19.8	15.6	17.3

関連指標

項目	中央市民病院	西市民病院
後発医薬品の数量割合※	33.1	34.9

※入院DPC/PDPSデータより

目標値（単位：％，実績値は平成26年度・目標値は平成28年度）

項目	中央市民病院		西市民病院	
	実績値	目標値	実績値	目標値
給与費比率	45.8	47.7	56.3	57.1
材料費比率	29.8	28.3	23.3	23.3
経費比率	18.7	18.4	16.3	16.1

関連指標

項目	中央市民病院	西市民病院
後発医薬品の数量割合※	54.2	69.0

※入院DPC/PDPSデータより

する等、使用割合や安全性など多方面から検討した。

○医療機器購入の際は、競合品の抽出を行い、現場と調整するなど、競争力が機能する形での入札を図った。また、下見積書に拘らず、他病院の納入実績を考慮して予定価格を設定し、入札を行うことにより、購入価格の適正化、低減に取り組んだ。

○西神戸医療センター移管に備え、透明性・公正性に重点を置いた入札・契約に関する第1回研修会を6月に2日間に分けて行い、事務職員及びコメディカル職員延べ71名が参加した。具体的な事例を挙げて問題の説明をするとともに、競争性がより働くよう十分な入札手続き期間や納入期限の遵守を確認し、入札契約事務に必要な項目をチェックリストにして配布した。また、移管直前の1月に、事務職員を対象として、より細かい内容で第2回研修会を開催した。

目標値（単位：％）

	項目	平成28年度	平成27年度	平成28年度	目標差
		目標値	実績値	実績値	
中央市民病院	給与費比率	47.7	46.3	46.2	▲1.5
	材料費比率	28.3	30.5	31.1	2.8
	経費比率	18.4	17.6	17.6	▲0.8
西市民病院	給与費比率	56.3	57.4	58.8	2.5
	材料費比率	23.3	25.0	25.6	2.3
	経費比率	16.1	16.6	16.2	0.1

関連指標（単位：％）

	項目	平成27年度	平成28年度	前年度差
		実績値	実績値	
中央市民病院	後発医薬品の数量割合※	68.0	73.6	5.6
西市民病院	後発医薬品の数量割合※	72.0	79.4	7.4

※入院DPC/PDPSデータより

**第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置**  
**2 質の高い経営ができる病院づくり**  
**(1) 質の高い経営体制の維持**

<b>中期目標</b>	中期目標及び中期計画を着実に達成するために、経営に関する状況や問題点を全職員が共有し、PDCAサイクル（計画、実行、評価及び改善の4段階を繰り返すことによって業務を継続的に改善すること）を確実に実行できるよう目標管理の仕組みを確立させるとともに、リスクマネジメント体制を構築するなど、長期的視点に立った質の高い経営を行うこと。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>理事会や常任理事会を継続的に開催するとともに、理事長をはじめ院長や各部門長の権限の明確化や経営企画機能の強化等により、医療を取り巻く環境の変化に迅速に対応し、より質の高い経営ができる体制を確立し、維持する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理事会や常任理事会を継続的に開催するとともに、理事長をはじめ院長や各部門長の権限の明確化や経営企画機能の強化等により、より質の高い経営ができる体制を確立し、維持する。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毎月開催する常任理事会及び四半期毎に開催する理事会において、引き続き経営状況や事務事業を検証する</li> </ul> <p>（中央市民病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○院長がリーダーシップを発揮するとともに、全職員が経営状況や問題点及び責任を共有して経営改善に取り組み、長期的視点に立って質の高い経営を進める</li> </ul> <p>（西市民病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○院長のリーダーシップの下、各診療科部長、部門長がメンバーである業務経営会議を開催し、経営状況のほか、病院全体の情報共有を行うとともに、意見交換の場としても機能させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理事会や常任理事会を継続的に開催するとともに、理事長をはじめ、院長や各部門長の権限の明確化や経営企画機能の強化等により、質の高い経営ができる体制を確立し維持した。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毎月開催した常任理事会及び四半期ごと等に開催した理事会において、月次決算等を報告した。月次決算では、収支だけでなく病院ごとに診療科目別の患者数や在院日数等の主要指標の確認を行い、活発な議論を展開するとともに迅速な意思決定を図った。また、経営改善の取り組みや近隣医療関連施設との連携などの方向性を議論することを目的とした役員等勉強会（5月、8月、1月）を開催した。</li> </ul> <p>（中央市民病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○週1回幹部会を開催し、重要事項についての確認、決定を行うとともに、マンスリーレポート（月次活動報告書）によって、各所属の問題点や課題の解決方法等の把握に取り組んだ。また、各診療科部長、各部門長が出席して月1回開催する病院運営協議会において、各種委員会の報告を行い、情報共有を図った。さらに、各診療科、部門ごとの現状分析及び今後の対策、スタッフの適正数等について院長ヒアリングを年2回実施した。</li> </ul> <p>（西市民病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各診療科長、各部門長がメンバーである業務経営会議を院長主導のもと月1回定期的に開催し、経営状況のほか、各委員会の開催概要等、病院全体の現在の情報共有や意見交換を行い、懸案事項について院長より対応を促した。また、幹部会を週1回開催し、院長がリーダーシップをとる意思決定機関として機能させるとともに、各診</li> </ul>	2	3		<p><b>【評価のポイント・評価委員意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局について、従来通りの組織にとられるのではなく、組織の在り方について再考する必要がある。</li> <li>・縦割りとなっているところに関しては、問題意識を共有して、横の連携を密にしていく必要がある。</li> <li>・看護師をはじめとする医療職については、医療必要度、看護必要度に合わせた人員配置が必要であり、その様なことも勘案した組織配置を検討する必要がある。</li> <li>・評価委員会の評価を役員報酬には反映していないとのことだが、評価結果はどのように機構の運営に活かされているのか。</li> <li>・今後、ガバナンスという概念を意識した病院経営を考えていく必要がある。</li> </ul>



<p>・全職員，特に，診療科部長や部門長が目標及び課題を共有し，PDCAサイクル（計画，実行，評価及び改善の4段階を繰り返すことによって業務を継続的に改善すること。）を確実に行うことやリスクマネジメント体制を構築することにより，経営改善に取り組み，長期的視点に立った質の高い経営を進める。</p>	<p>・全職員が目標及び課題を共有し，PDCAサイクル（計画，実行，評価及び改善の4段階を繰り返すことによって業務を継続的に改善すること）を確実に行うことやリスクマネジメント体制を構築することにより，経営改善に取り組み，長期的視点に立った質の高い経営を進める。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○月次決算や四半期毎の決算見込みと予算を比較，分析し，課題の把握及び収支改善に向けた取り組みを実施していく</p> <p>○診療科部長や部門長を対象とした院長ヒアリングを実施し，目標や課題の共有を行い，経営改善につなげる</p> <p>○引き続き，マネジメントシートにより，年度計画の達成状況の確認及び課題把握を行い，全職員の情報共有を図るとともに，PDCAサイクルの活用を進める</p> <p>○将来にわたる経営マネジメントの構築に向け検討を開始する</p>	<p>療科及び部門からのマンスリーレポート（月次活動報告書）を継続し，各所属の診療内容，問題点，今後の計画等について病院幹部と随時情報共有を行った。また，コメディカル幹部と事務局長の連絡会を毎週1回定期的に開催し，情報共有を図った。さらに，業務経営改善委員会において，新たな加算算定による増収やコスト削減対策について検討を行った。</p> <p>・中期目標・中期計画及び年度計画については，両病院の職員サイト（イントラ）へ掲載し共有を図るとともに，平成27年度業務実績の評価委員会による評価を受け，評価結果の概要について職員サイトやメール，職員向け広報誌等へ掲載し周知に取り組んだ。また，評価結果に基づき課題把握を行い，四半期ごとに行う年度計画の進捗状況の確認の中で，進捗確認と情報の共有化を図り，経営改善に繋げた。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○経営状況をより精緻に把握するため，常任理事会における月次決算の報告様式について，変更を実施した（5月）。また，赤字対策について両病院と法人本部が協力して取り組み，8月の常任理事会で経営改善策を両病院より提出し，11月及び2月の常任理事会で進捗状況を報告した。さらに，第3四半期の決算見込みを受け，現状分析及び年度末に向けた取組みについて理事長・副理事長及び両病院長で検討を行った。</p> <p>○両病院において，年2回ずつ各診療科及び部門ごとに院長ヒアリングを実施し，本部からも出席することで現状の把握及び課題の共有を図った。</p> <p>○年度計画の達成状況確認及び課題把握のために，四半期毎にマネジメントシートを作成し，事務局ヒアリングを実施した（8月，11月，2月）。なお，11月のヒアリングは，平成29年度計画の重点項目及び市関連予算要求と併せて理事長ヒアリングを実施し，検証体制の充実を図った。また，2月のヒアリングは，平成29年度の年度計画についてもヒアリングを実施し，課題等を共有した。四半期ごとのマネジメントシートは進捗状況確認後，職員サイトへ掲載して情報の共有・周知を図った。</p> <p>○西神戸医療センター移管に伴い中期計画を変更するとともに，神戸アイセンター病院の開設及び先端医療センター病院の中央市民病院への統合に伴う中期計画の変更について検討を進めた。また，新公立病院改革プランを策定し，西神戸医療センターを含めた3病院体制のマネジメントについて検討を進めた。</p>				
--	---	---	--	--	--	--

**第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置**

**2 質の高い経営ができる病院づくり**

**(2) 計画的な投資の実施**

<b>中期目標</b>	社会情勢の変化や周辺の医療状況，市民ニーズ等を踏まえ，状況に応じた的確な投資を検討すること。その際，投資効果はもちろんのこと，投資後の収支の見通しを立てた上で，最終的には収支のバランスがとれるよう計画的に投資を行い，投資の実施後はその効果を検証すること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・超高齢社会に向けて，今後の医療需要の変化や医療政策の動向等を踏まえ，人材の確保・育成や医療機能の充実を図るため，必要性や採算性を考慮し，病床規模及び外来機能等について検討するとともに，高度医療機器の更新及び整備等，総合的な投資計画を策定し，着実に投資を行うとともに，その効果を検証する。</p>	<p>・人材の確保・育成や医療機能の充実を図るため，必要性や採算性を考慮し，着実に投資を行うとともに，その効果を検証する。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○引き続き人材の確保に努めるとともに，適正な人員配置体制の構築を図る</p> <p>○各病院及び法人本部が共同して投資の必要性や採算性を分析し投資を実施する。特に多額の固定費を増加させる電子カルテの更新については機構一体となった検討を行う</p> <p>（中央市民病院）</p> <p>○外来待合スペースの混雑緩和，外来診察室・説明室の拡張や救命救急センター拡充等による診療機能の拡充のほか，研修室・更衣室・仮眠室等の設置による執務環境の改善のため，南館・北館の増築及び既存施設の改修を進める</p> <p>○神戸市の基幹病院として，患者中心の質の高い医療を安全に提供し，市民の生命と健康を守るため，経年劣化した機器の更新や，安全性や精度がより高</p>	<p>・人材の確保・育成や医療機能の充実を図るため，必要性や採算性を考慮し投資を行うとともに，その効果について検証した。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○医療を取り巻く状況の変化への対応，医療の質向上や医療安全の確保，患者サービス向上等に十分配慮した上で，業務量に応じた人員配置や多様な雇用形態の活用等により効率的かつ効果的な体制及び組織の構築を図った。</p> <p>○両病院及び4月より移管される西神戸医療センターを含め，今後の投資について，特に増築，電子カルテの整備については，時期や投資額など十分に協議した。</p> <p>（中央市民病院）</p> <p>○8月に供用開始した北館・研修棟の増築等により，外来診療ニーズに見合う外来待合スペースや外来診察室を確保するとともに，インフォームドコンセント充実のため十分な説明室を確保し，専門外来も含めて十分な診療体制を組み，患者サービスの向上を図った。</p> <p>○神戸市の基幹病院として，患者中心の質の高い医療を安全に提供するため，経年劣化した機器の更新や，安全性や精度がより高い機器を導入した。また，8月下旬～9月上旬にかけて，各診療科・コメディカル部門・看護部に対し，導入を希望する医療機器についてのヒアリン</p>	1	3		<p><b>【評価のポイント・評価委員意見】</b></p> <p>・中央市民病院の損益構造を見ると高固定費構造になっており、今後投資をしていくにしても、よりシビアに判断していく必要がある。</p>

	<p>い機器等の導入を図る</p> <p>○高額な医療機器について、投資額の平準化に努めるとともに、大型放射線機器を更に延命化するなど、経営状況に応じた投資に努める</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○内視鏡検査の増加や、小児科感染症患者等に対応するため東館の増築に着手するとともに、既存施設の改修について具体的な準備を進めていく</p> <p>○高度医療機器の更新及び整備については、院長ヒアリングで意見交換するとともに、長期的な収益性を考えたうえで判断する</p>	<p>グを行い、平成 29 年度予算編成に向けての検討を行った。</p> <p>○平成 29 年度予算編成において、大型放射線機器の投資額の平準化を進めるとともに、医療機器の更新について、更新対象の基準を引き続き取得後 8 年とした。また、複数台の更新対象機器について、投資額の平準化を図った計画に基づき導入を進めた。</p> <p><b>(西市民病院)</b></p> <p>○院内関係部門等と協議し作成した基本設計に基づき、平成 28 年度より着手した東館の増築工事が 3 月に完成した。また、平成 28 年 3 月に、既存施設改修の一環として、内科外来診察室を 1 診増診 (9 診→10 診) し、外来機能の充実及び患者サービスの向上を図った。さらに、平成 29 年度に予定している既存施設改修において、内視鏡センターの拡張や小児・周産期医療の充実等の医療機能の向上や執務環境の向上を図っていく。</p> <p>○医療機器等要求については毎年ヒアリングを実施し、各部門の収益状況や今後の方針を踏まえて、長期的な収益性も考慮したうえで購入予定機器の優先順位を決定した。</p>				
--	---	---	--	--	--	--

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 質の高い経営ができる病院づくり

(3) 環境にやさしい病院づくり

中期目標	本市が策定した「神戸市地球温暖化防止実行計画」の達成に向けて、温室効果ガスの削減に取り組むとともに、エネルギーや資源の消費を自主的に又は継続的に節減するなど環境にやさしい病院づくりを目指すこと。
------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・省エネルギー化及び自然エネルギーの積極的活用、ゴミ分別の徹底及びリサイクルの推進による廃棄物の減量等により、温室効果ガスの削減に取り組む等、環境負荷軽減を図り、環境にやさしい病院づくりを行う。</p>	<p>・環境負荷軽減を図り、環境にやさしい病院づくりを行う。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○市が取り組んでいる「神戸市地球温暖化防止実行計画」の実現に向けて、CO<sub>2</sub>排出量のさらなる削減に努める</p> <p>○省エネ法に基づく特定事業者としての年平均1%以上のエネルギー消費原単位の削減に取り組むとともに定期報告、中長期計画の策定と届出を行う</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○環境負荷軽減のため、ゴミ分別の徹底を図り、紙のリサイクルをはじめとする廃棄物の削減に努める</p> <p>○省エネルギー熱源機器の効率的運用、照明・エレベーター・エスカレーター・空調温度のきめ細かな制御等、さらなるCO<sub>2</sub>の発生削減に向けた取り組みを進め、エネルギーの使用量データを</p>	<p>・両病院において、環境負荷軽減を図り、環境にやさしい病院づくりに取り組んだ。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○中央市民病院では、CO<sub>2</sub>排出削減に向けてエネルギー使用の抑制のため、BEMS（ビルエネルギー管理システム）を活用した空調及び照明設備等の効率的運用、太陽光発電の活用、平成27年度に引き続き不要照明の間引き及び空調温度設定の適正化等を実施した。また、コージェネレーションシステムの稼働によりエネルギーの高効率利用を図った。西市民病院では目標を達成した「神戸市第2次CO<sub>2</sub>ダイエット作戦」の終了後も、引き続きCO<sub>2</sub>排出量のさらなる削減に取り組んだ。</p> <p>○第1種エネルギー管理指定工場に指定されている中央市民病院及び、第2種エネルギー管理指定工場の指定を受けている西市民病院において、省エネルギーへの取り組みを継続するとともに、エネルギー使用の合理化に関する法律に基づく定期報告及び中長期計画書を近畿経済産業局及び近畿厚生局に提出した。</p> <p>(中央市民病院)</p> <p>○環境への負荷軽減のため、リサイクル可能な古紙類、ペットボトル等について分別回収を推進するため、回収拠点の拡大を図るとともに、ポスター掲示、メール等で職員に周知し、廃棄物の削減に向けた取り組みを進めた。</p> <p>○平成27年度に引き続き、不要照明の間引き、空調設定温度の適正化、エレベーター・エスカレーターの一部停止に取り組み、新たに換気ファンの一部停止を実施した。また、夏季・冬季の節電協力要請期間において「省エネルギー見える化」として前日のエネルギー使用量グラフのメール配信・掲示を実施し、省エネ啓発を行うことでエネルギー</p>	1	3		

<p>蓄積し、分析を行う</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○民間事業者のノウハウを活用しながら、省エネルギー化の推進や光熱水費の削減を図るE S C O事業の導入に向けた検討を進める</p> <p>関連指標 (単位：%，平成 24 年度)</p> <table border="1" data-bbox="172 604 638 751"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>中央市民病院</th> <th>西市民病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エネルギー使用削減率 (前年度比削減率)</td> <td>(平成24年7月～平成25年3月) 2.6</td> <td>0.8</td> </tr> </tbody> </table>	項目	中央市民病院	西市民病院	エネルギー使用削減率 (前年度比削減率)	(平成24年7月～平成25年3月) 2.6	0.8	<p>蓄積し、分析を行う</p> <p>(西市民病院)</p> <p>○民間事業者のノウハウを活用しながら、省エネルギー化の推進や光熱水費の削減を図るE S C O事業の導入に向けた検討を進める</p> <p>関連指標 (単位：%，平成 26 年度)</p> <table border="1" data-bbox="667 617 1169 772"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>中央市民病院</th> <th>西市民病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エネルギー使用削減率 (前年度比削減率)</td> <td>▲0.8</td> <td>5.9</td> </tr> </tbody> </table>	項目	中央市民病院	西市民病院	エネルギー使用削減率 (前年度比削減率)	▲0.8	5.9	<p>経費の削減の意識付けを図った。</p> <p><b>(西市民病院)</b></p> <p>○民間事業者の資金を活用して省エネに寄与する熱源機器の更新等を行うE S C O事業の導入に向けて、検討を進めたが、平成 28 年度は不採択となった。</p> <p>関連指標 (単位：%)</p> <table border="1" data-bbox="1222 600 2041 886"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>平成 27 年度実績</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>前年度差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央市民病院</td> <td>エネルギー使用削減率 (前年度比削減率)</td> <td>3.3</td> <td>▲2.1</td> <td>▲5.4</td> </tr> <tr> <td>西市民病院</td> <td>エネルギー使用削減率 (前年度比削減率)</td> <td>1.9</td> <td>▲3.4</td> <td>▲5.3</td> </tr> </tbody> </table>		項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	前年度差	中央市民病院	エネルギー使用削減率 (前年度比削減率)	3.3	▲2.1	▲5.4	西市民病院	エネルギー使用削減率 (前年度比削減率)	1.9	▲3.4	▲5.3				
項目	中央市民病院	西市民病院																															
エネルギー使用削減率 (前年度比削減率)	(平成24年7月～平成25年3月) 2.6	0.8																															
項目	中央市民病院	西市民病院																															
エネルギー使用削減率 (前年度比削減率)	▲0.8	5.9																															
	項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	前年度差																													
中央市民病院	エネルギー使用削減率 (前年度比削減率)	3.3	▲2.1	▲5.4																													
西市民病院	エネルギー使用削減率 (前年度比削減率)	1.9	▲3.4	▲5.3																													

**第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置**

**1 中央市民病院におけるPFI事業の円滑な推進**

<b>中期目標</b>	中央市民病院については、PFI事業者との連携をより密にし、協働で質の高い病院サービスの提供を図っていくこと。そのため、PFI事業については定期的に検証し、その検証の結果を踏まえ、迅速に業務改善等を行い、円滑に事業を行うこと。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院経営のパートナーであるPFI事業者との連携をより密にし、協働の精神により、最適な患者サービスや質の高い病院サービスを提供するとともに、病院運営の効率化を図る。</li> <li>・病院及び事業者の双方が、互いに職務のプロとしての自覚と責任の下、病院を取り巻く環境の変化に適切に対応し、継続的に業務を改善及び発展させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PFI事業者との連携をより密にし、最適な患者サービスや質の高い病院サービスを提供するとともに、病院運営の効率化を図る。また、互いに職務のプロとしての自覚と責任の下、病院を取り巻く環境の変化に適切に対応し、継続的に業務を改善及び発展させていく。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○外部コンサルタントを活用し、PFI事業のこれまでの実施状況を踏まえ、PFI事業導入後5年間の検証を行い、今後のPFI事業の在り方について検討する</li> <li>○PFI事業に関して、日常モニタリング、定期モニタリング、随時モニタリング等を行い、業務水準の達成状況を確認するとともに、業務品質や患者サービスの向上に取り組み、病院全体の業務改善を図っていく</li> <li>○災害等の非常時に迅速かつ柔軟に対応できるよう、PFI事業者（協力法人含む）も危機管理体制整備会議、院内合同防災訓練等に参加する。また、危機管理に係る体制とマニュアルについて整備し、PFI事業者と病院が一体となり取り組んでいく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央市民病院において、PFI事業者との連携をより密にし、最適な患者サービスや質の高い病院サービスを提供するとともに、病院運営の効率化を図った。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○PFI導入6年目を迎え、PFI導入後5年間の検証が行えるよう、外部コンサルタントと今後の検証方法・スケジュールについて協議を行い、評価項目案を示した。今後は、数値比較、関係者へのヒアリングを行う等、定量的・定性的な評価をすべく検証を進めていく。</li> <li>○PFI業務に関して、個別業務連絡会（週1回）、PFI業務連絡会（月2回）、モニタリング会議（月1回）、PPP会議（月1回）を定期的で開催してモニタリングを行い、業務実施状況の確認や経営改善を図った。</li> <li>○PFI事業者及び協力法人も危機管理体制整備会議、院内合同防災訓練等に参加し、マニュアルに則った非常時の体制及び動きについて確認を行った。訓練結果を検証して危機管理に係るマニュアルについて整備し、非常時に迅速かつ柔軟に連携できる体制を整えた。</li> </ul>	1	3		

**第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置**

**2 市関連病院との連携**

<b>中期目標</b>	西神戸医療センター，神戸リハビリテーション病院，先端医療センターも含めた本市の関連病院で，医療機能に応じて相互に患者の紹介を行い，職員の人事交流も積極的に行うなど意思疎通を図ること。特に市民病院と同じ医療機能を持つ西神戸医療センターとは，より連携を密にしていること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<p>・市関連病院（市民病院，西神戸医療センター，神戸リハビリテーション病院及び先端医療センター）相互に医療機能に応じて患者の紹介・逆紹介を行うとともに，各部門での連携会議や研修会等の開催，人事交流についても積極的に行う等連携の促進を図る。特に，西神戸医療センターとは，同様の機能を担う病院として，より密接な連携を図る。</p>	<p>・市関連病院（市民病院，西神戸医療センター，神戸リハビリテーション病院及び先端医療センター）相互に医療機能に応じて患者の紹介・逆紹介を行うとともに，各部門での連携会議や研修会等の開催，人事交流についても積極的に行う等連携の促進を図る。特に，西神戸医療センターとは，同様の機能を担う病院として，より密接な連携を図る。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○市関連病院間での人事交流について，引き続き積極的に推進し，効果的・効率的な連携に取り組む</p> <p>○各部門で連携会議を開催する。特に，同様の機能を担う西神戸医療センターとは，相互の情報交換及び診療材料等の共同購入の推進等を行い，連携を強化する</p> <p>○平成29年4月1日の神戸市地域医療振興財団の機構への移管を見据えて，西神戸医療センターと連携し，課題を整理するとともに，準備を進めるな</p>	<p>・市関連病院（中央市民病院，西市民病院，西神戸医療センター，神戸リハビリテーション病院及び先端医療センター）では，医療機能に応じて患者の紹介・逆紹介を行うとともに，各部門での連携会議や研修会等の開催，人事交流についても積極的に行い，連携の促進を図った。</p> <p><b>具体的な取り組み</b></p> <p>○職員出向規程及び出向協定（地域医療振興財団・先端医療振興財団）に基づき，医師について人事交流を行った（在籍出向：西神戸医療センターへ20人，先端医療振興財団へ2人）。また，医師以外の医療職について，神戸市の定める「公益法人等への職員の派遣に関する条例」に基づき，市関連病院間の人事交流を行った（西神戸医療センター6人，先端医療振興財団4人）。その他，看護職員の管理職を中心とした人事交流についても積極的に行った（平成28年度人事交流人数：看護職員3人，コメディカル4人，事務職員6人）。</p> <p>○各部門で連携会議（市関連病院連絡調整会議，市関連病院等連絡会，医事課長会議，看護部長会議，薬剤部長会議，地域連携会議，両病院院長会議，中央市民病院・先端医療センター連携会議，両病院連携会議）を開催し，情報の共有及び情報交換を行った。</p> <p>○西神戸医療センターの市民病院機構への円滑な移管に向け，進捗状況や今後の予定について常任理事会（5月，1月）及び理事会（6月）で報告するとともに，必要な準備を進め，3月30日に神戸市地域医療振興財団と事業譲渡契約を締結し，4月1日に移管した。</p>	2	3		

ど、円滑に移管できるように取り組む

(中央市民病院)

○市関連病院とは、医療機能に応じて相互に患者の紹介・逆紹介を行うとともに、職員の人事交流も積極的に行う等、さらに効果的かつ効率的な連携に取り組む

○西神戸医療センターとは、人事交流等を通じ連携の促進を図る

(西市民病院)

○放射線治療や職員の人事交流について、市関連病院と密接に連携する

関連指標 (単位：人，平成 24 年度実績)

項目	中央市民病院	西市民病院
市関連病院からの紹介患者数	1,082	515
市関連病院への紹介患者数	1,280	451
市民病院との職員の人事交流数	財団法人神戸市地域医療振興財団 56	財団法人先端医療振興財団 11
	財団法人神戸在宅ケア研究所 0	

関連指標 (単位：人，平成 26 年度実績)

項目	中央市民病院	西市民病院
市関連病院からの紹介患者数	1,050	462
市関連病院への紹介患者数	1,458	1,068
市民病院との職員の人事交流数	財団法人神戸市地域医療振興財団 51	財団法人先端医療振興財団 12
	財団法人神戸在宅ケア研究所 0	

○先端医療センター病院の中央市民病院への統合、神戸アイセンター病院の開設について、6月の理事会で方針が決定した。中期目標、中期計画変更に伴う評価委員会が開催されるとともに、定款変更について理事会で決議し、課題の整理等、統合及び開設へ向けて準備を進めた。

(中央市民病院)

○医療機能に応じて市関連病院と効率的な連携に取り組み、平成 28 年度実績で紹介患者が 1,186 人 (西市民 350 人，西神戸 159 人，神戸リハ 103 人，先端 574 人)，逆紹介患者が 1,563 人 (西市民 590 人，西神戸 404 人，神戸リハ 200 人，先端 369 人) となった。

(西市民病院)

○放射線治療等の患者について市関連病院と積極的に連携を図り、全体 109 件のうち、連携件数は 35 件となった。また、平成 27 年度より開始した先端医療センター病院との専攻医の合同コースについて継続して実施した。(平成 28 年度実績：呼吸器内科 1 名)

関連指標 (単位：人)

	項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	前年度比 (%)
中央市民病院	市関連病院からの紹介患者数	1,070	1,186	110.8
	市関連病院への紹介患者数	1,608	1,563	97.2
西市民病院	市関連病院からの紹介患者数	358	469	131.0
	市関連病院への紹介患者数	919	1,166	126.9
市民病院との職員の人事交流数				
	一般財団法人神戸市地域医療振興財団	48	26	▲22
	公益財団法人先端医療振興財団	10	6	▲4
	一般財団法人神戸在宅ケア研究所	0	0	-



**第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置**

**3 神戸医療産業都市における役割**

<b>中期目標</b>	本市が推進する神戸医療産業都市に関して、特に中央市民病院は、臨床に応用される段階になった医療については、安全性と倫理性への十分な配慮の下に逸早く市民に提供していくこと。また、臨床部門の核として周辺の高度専門医療機関等との役割分担を明確にした上で連携し、市民にとって最適な治療を提供すること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価			委員会の評価	
		実施状況（判断理由）	ウェイト	評価	評価	評価判断理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>神戸医療産業都市における役割として、臨床に応用される段階になった医療については、安全性と倫理性への十分な配慮の下に逸早く市民に提供する。また、特に中央市民病院は、臨床部門の核として周辺の高度専門医療機関等との役割分担を明確にした上で連携を図り、リーダーシップを発揮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>神戸医療産業都市における役割として、臨床に応用される段階になった医療については、安全性と倫理性への十分な配慮の下に逸早く市民に提供する。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b> (中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○臨床に応用される段階になった医療が速やかに市民に提供できるよう、先端医療センター等との連携を密にし、体制の充実に努める</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>中央市民病院は、臨床部門の核として周辺の高度専門医療機関等との役割分担を明確にした上で連携を図り、リーダーシップを発揮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央市民病院では、神戸医療産業都市における役割として、臨床に応用される段階になった医療について、安全性と倫理性への十分な配慮の下に逸早く市民に提供できるよう取り組んだ。</li> </ul> <p><b>具体的な取り組み</b> (中央市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○i P S細胞移植に関する臨床研究の4機関（中央市民病院、京都大学i P S研究所、大阪大学、理化学研究所）による実施体制を発足し、治験臨床試験管理センターにて支援を開始した。また、国立循環器病研究センターを視察し、臨床試験中核病院を目指した体制の検討を行った。</li> <li>近隣の神戸低侵襲がん医療センター、西記念ポートアイランドリハビリテーション病院、一般財団法人神戸マリナーズ厚生会ポートアイランド病院との連携を進めるため、それぞれ定期的に連携会議を開催した。</li> <li>神戸低侵襲がん医療センターとの連携会議においては、問題事例等を挙げながら協議を行うとともに、化学療法治療等の連携強化や緩和ケア目的の転院の促進を行った。また、薬剤部において、神戸低侵襲がん医療センターとの化学療法のレジメン統一に向け、腫瘍内科、呼吸器内科、乳腺外科等の309レジメンの整合性を調査し、標準的なレジメンに関して差異がないことを確認した。</li> <li>西記念ポートアイランドリハビリテーション病院との毎月の連携会議において、リハビリ連携強化を主軸に紹介実績や問題事例を挙げながら協議を重ねた。また、在宅復帰を果たすことを目的とした心臓リハビリ連携パスの運用を継続するとともに、転院後の歯科口腔ケアの継</li> </ul>	1	3		

具体的な取り組み  
(中央市民病院)  
○治験・臨床試験の支援体制を整備するとともに、周辺医療機関等とのネットワーク構築を目指す  
  
○県立こども病院のポートアイランドⅡ期への移転に伴い、連携及び役割分担を図り、高度医療の提供を進める

関連指標 (平成 24 年度実績)

項目	中央市民病院	西市民病院
先端医療センターとの共同研究件数(件)	9	-
先端医療センターからの紹介患者数(人)	378	59
先端医療センターへの紹介患者数(人)	593	27
周辺医療機関※1からの紹介患者数(人)	108 <sup>※2</sup>	-
周辺医療機関※1への紹介患者数(人)	235 <sup>※2</sup>	-

※1 周辺医療機関は神戸低侵襲がん医療センター、西記念ポートアイランドリハビリテーション病院、財団法人神戸マリナーズ厚生会ポートアイランド病院及び平成 26 年度以降開院を予定している神戸国際フロンティアメディカルセンター、県立こども病院等をいう。  
※2 平成 24 年度実績については、財団法人神戸マリナーズ厚生会ポートアイランド病院との紹介患者数及び逆紹介患者数を表す。

具体的な取り組み  
(中央市民病院)  
○B C P (事業継続計画) 対策として利用可能でかつ、市関連病院及びメディカルクラスター内の病病連携や、他用途にも応用可能である拡張性を考慮したシステムを検討した。また、システム連携部会や治験部会との連携会議に参加し、具体的な連携について議論に加わった。  
○平成 28 年 5 月にポートアイランドに移転した県立こども病院と、対応困難な分野を相互に補完することとし、転院・転送における連携を進めた。

関連指標 (平成 26 年度実績)

項目	中央市民病院	西市民病院
先端医療センターとの共同研究件数(件)	6	-
先端医療センターからの紹介患者数(人)	529	52
先端医療センターへの紹介患者数(人)	454	156
周辺医療機関※1からの紹介患者数(人)	518	-
周辺医療機関※1への紹介患者数(人)	1,409	-

※1 周辺医療機関は神戸低侵襲がん医療センター、西記念ポートアイランドリハビリテーション病院、一般財団法人神戸マリナーズ厚生会ポートアイランド病院及び平成 28 年度に開院を予定している県立こども病院等をいう。

続について手順を策定し、連携を強化した。  
具体的な取り組み  
(中央市民病院)  
○B C P (事業継続計画) 対策として利用可能でかつ、市関連病院及びメディカルクラスター内の病病連携や、他用途にも応用可能である拡張性を考慮したシステムを検討した。また、システム連携部会や治験部会との連携会議に参加し、具体的な連携について議論に加わった。  
○平成 28 年 5 月にポートアイランドに移転した県立こども病院と、対応困難な分野を相互に補完することとし、転院・転送における連携を進めた。

関連指標

	項目	平成 27 年度実績	平成 28 年度実績	前年度比 (%)
中央市民病院	先端医療センターとの共同研究件数(件)	6	4	66.7
	先端医療センターからの紹介患者数(人)	457	574	125.6
	先端医療センターへの紹介患者数(人)	431	369	85.6
	周辺医療機関 <sup>※1</sup> からの紹介患者数(人)	684	719	105.1
	周辺医療機関 <sup>※1</sup> への紹介患者数(人)	1,606	1,862	115.9
	西市民病院	先端医療センターからの紹介患者数(人)	42	43
先端医療センターへの紹介患者数(人)		212	182	85.8

※1 周辺医療機関は神戸低侵襲がん医療センター、西記念ポートアイランドリハビリテーション病院、一般財団法人神戸マリナーズ厚生会ポートアイランド病院、平成 27 年度に閉院した神戸国際フロンティアメディカルセンター及び平成 28 年 5 月 1 日に開院した県立こども病院等をいう。

**第5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画**

※財務諸表及び決算報告書を参照

**第6 短期借入金の限度額**

中期計画	年度計画	実績
<p>1 限度額 10,000百万円</p> <p>2 想定される短期借入金の発生理由</p> <p>(1) 賞与の支給等による一時的な資金不足への対応</p> <p>(2) 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等、偶発的な出費への対応</p>	<p>1 限度額 10,000百万円</p> <p>2 想定される短期借入金の発生理由</p> <p>(1) 賞与の支給等による一時的な資金不足への対応</p> <p>(2) 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等、偶発的な出費への対応</p>	<p>・平成28年度において、短期借入金は発生しなかった。</p>

**第7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画**

中期計画	年度計画	実績
<p>なし。なお、看護師宿舎の土地・建物について、不要となった資産の譲渡を含めた活用を進める。</p>	<p>旧細田看護師宿舎について、市担当部局と調整し、できる限り早期の売却に努める。</p>	<p>・旧細田看護師宿舎（こども家庭局所管である細田保育所との合築）の売却に向け、神戸市（管財課）と協議を行い、市が持分について実施した一般競争入札による落札者に対し、機構持分についても契約締結する方針で、12月に土地売却に関する協定書を締結した。</p>

**第8 剰余金の使途**

中期計画	年度計画	実績
<p>決算において剰余を生じた場合は、病院施設の整備・修繕、医療機器の購入、人材育成及び能力開発の充実等に充てる。</p>	<p>決算において剰余を生じた場合は、病院施設の整備・修繕、医療機器の購入、人材育成及び能力開発の充実等に充てる。</p>	<p>・平成28年度決算では当期純損失が生じたため、すべて剰余金から取り崩した。</p>

**第9 地方独立行政法人神戸市民病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項**

**1 施設及び設備に関する計画**

中期計画			年度計画			実績		
<b>1 施設及び設備に関する計画</b> <b>(平成26年度～平成30年度)</b>			<b>1 施設及び設備に関する計画</b> <b>(平成28年度) (単位：百万円)</b>			<b>施設及び設備に関する計画 (平成28年度)</b> <b>(単位：百万円)</b>		
施設及び設備の内容	予定額	財源	施設及び設備の内容	予定額	財源	施設及び設備の内容	決定額	財源
病院施設、医療機器等整備	総額 8,966	神戸市 長期借入金等	病院施設、医療機器等整備	総額 4,315	神戸市 長期借入金等	中央市民病院施設、医療機器等整備	総額 2,815	神戸市長期借入金 2,001 その他 814
						西市民病院施設、医療機器等整備	総額 991	神戸市長期借入金 953 その他 38
(注1) 金額については見込みである。 (注2) 各事業年度の神戸市長期借入金の具体的な内容については、各事業年度予算編成過程において決定される。			(注1) 金額については見込みである。 (注2) 各事業年度の神戸市長期借入金の具体的な内容については、各事業年度予算編成過程において決定される。					

**第9 地方独立行政法人神戸市民病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項**

**2 人事に関する計画**

中期計画	年度計画	実績
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療を取り巻く状況の変化への対応、医療の質向上や医療安全の確保、患者サービス向上等に十分配慮した上で、業務量に応じた人員配置や多様な雇用形態の活用等により効率的かつ効果的な体制及び組織を構築する。</li> <li>神戸市職員から法人職員への移行に伴う制度の整備を行う等、原則として法人職員で運営できる体制への移行を計画的に促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療を取り巻く状況の変化への対応、医療の質向上や医療安全の確保、患者サービス向上等に十分配慮した上で、業務量に応じた人員配置や多様な雇用形態の活用等により効率的かつ効果的な体制及び組織を構築する。</li> <li>神戸市職員から法人職員への移行に伴う制度の整備を行う等、原則として法人職員で運営できる体制への移行を計画的に促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療需要等に応じて、採用選考を実施し、必要に応じて年度途中採用も行う等、柔軟な職員配置を行った(看護師・助産師、薬剤師、事務職員)。(再掲)また、平成29年度より移管される西神戸医療センターの事務職員・医療技術職員の採用を市民病院機構で一括して行う等、事務の効率化に努めた。</li> <li>法人職員のうち固有職員の割合は、平成29年4月時点で79.9%となった(西神戸医療センターを含む)。 引き続き、職員を補充・増員等により、採用する場合には、法人固有職員の採用による対応を基本として、採用選考を実施する。</li> </ul>